

第5編

地域計画

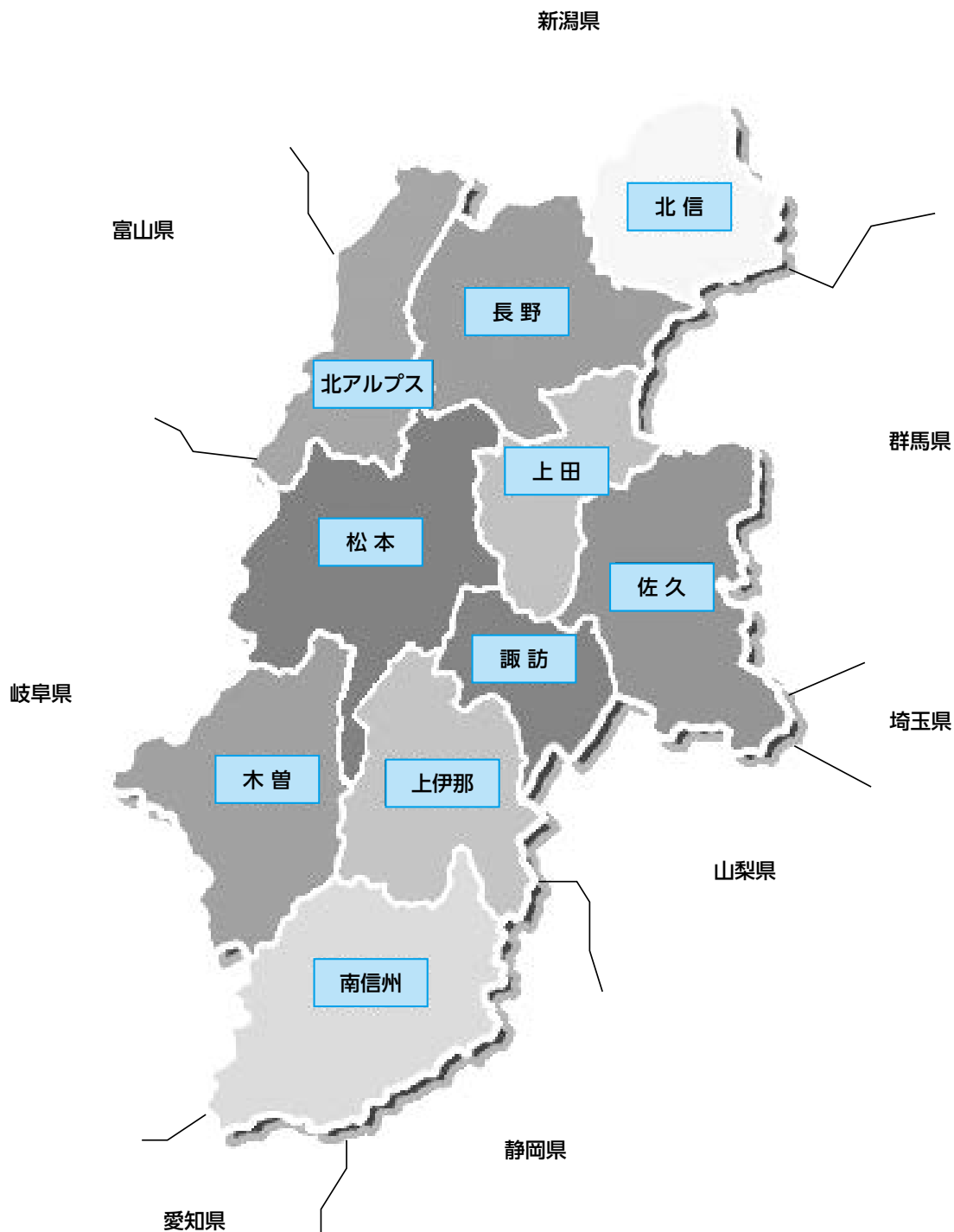
本県は、広い県土の中に独自の文化や伝統を持つ個性豊かな地域が形成されています。

また、古くは江戸時代の寺子屋教育から、現在では自治会、公民館活動、地域の高校改革への参画など、住民が主体的に学び、自ら考え行動する自治の力により、地域の課題解決に取り組んできています。

こうした自治の力を更に引き出し充実させ、地域が持つ個性や絆を活かしていくことが、それぞれの地域の暮らしを向上させるとともに、ひいては県全体の活力や魅力の向上にもつながるものと考えます。

地域振興局では、市町村をはじめ様々な地域の皆様と意見交換を重ねながら、めざす姿や重点的に取り組む政策を示すため、10の広域圏ごとに独自性を発揮した地域計画を策定しました。

各地域の特色を活かし、様々な主体や他地域とも連携・協働しながら魅力ある地域づくりを進めていきます。



地域をめざす姿・地域重点政策の一覧

北信

雪とともに育む 豊かな故郷 北信州

- 1 若者定着のための雪に強い故郷暮らしプロジェクト
- 2 「信越自然郷」等通年型広域観光推進プロジェクト
- 3 「米・果物・きのこ」産地パワーアッププロジェクト

北アルプス

北アルプス地域に「暮らす人」誰もが自信と誇りを持ち、「訪れる人」すべてが感動と喜びを実感できる地域をめざします

- 1 北アルプスの恵みと人々の知恵を活かした産業の振興
- 2 四季折々に訪れ、北アルプスと安曇野の自然を満喫できる観光地域づくり
- 3 生涯を通じて健康で、安心・安全に暮らせる地域づくり
- 4 北アルプス地域を選び、生き生きと活動できる地域づくり
- 5 地域を支える松本系糸川連絡道路の整備

長野

「活力あふれ・人が集い・文化薫る」中核的都市圏の形成へ

- 1 地域資源を生かして県経済をけん引する「活力あふれる」長野地域づくり
- 2 「人が集い、文化薫る」魅力ある長野地域づくり
- 3 地域重点政策を支える、地域一体となった「生活基盤の確保」の推進(地域連携プロジェクト)
- 1 「ながの果物語り」プロジェクト
- 2 「体験」と「交流」を軸とした「地域の特長を生かした広域観光」推進プロジェクト

上田

多様な人材を呼び込み、人の力で輝く「上田地域」の創造

- 1 若者・女性・外部人材の活躍推進
- 2 産学官金連携、広域連携による基幹産業の振興
- 3 地域の強みを生かし健康をテーマとした観光地域づくり
- 4 結節点という立地を生かした住環境整備・移住推進

松本

美しい信州の中心に世界の人々が集い、賑わいあふれ、住みやすい松本地域をめざします

- 1 信州まつもとと空港を活かした観光振興
- 2 産学官金連携等による健康長寿の取組
- 3 地震防災対策の充実強化
- 4 中山間地域の魅力向上

佐久

佐久の健康長寿や多様な産業等の地域の特長(魅力)を活かすとともに、地域外との交流を拡げ、住んでよし、訪れてよし、の地域をめざします

- 1 健康長寿と地消地産の推進を核とした地域づくり
- 2 美しい星空と青空をテーマとした観光地域づくり
- 3 地理的優位性を活かした移住の促進と二地域居住の探求
- 4 浅間山の防災体制強化及び活用
- 5 新たな交流・物流に向けた中部横断自動車道の整備促進

木曽

人口減少下でも「木曽らしい」上質な生活が安全に営め、自己実現ができる地域であり続けるために

- 1-1 「木曽らしさ」を活かした地域づくり
～日本の宝である「木曽の森林」や林業・木工関係教育機関等の集積を活かす～
- 1-2 「木曽らしさ」を活かした地域づくり
～日本遺産にも認定された、優れた「観光資源」を活かす～
- 2 「御嶽山」の安全対策の推進と土砂災害の防止等
- 3 人口減少下における人材の確保
- 4 生活基盤・経済活動基盤の確保

諏訪

諏訪湖や八ヶ岳が育む「豊かな自然」と地域の強みを活かした「競争力のある産業」が共存する地域の実現

- 1 産業競争力の強化、地域を支える人材の確保・育成
- 2 「諏訪湖を活かしたまちづくり」(諏訪湖創生ビジョン)の推進
- 3 選ばれ続ける観光地域づくり
- 4 安全・安心な地域づくり

上伊那

リニアの時代へ 世界とつながり豊かな暮らしが営まれる伊那谷 (INA Valley)

- 1 “伊那谷らしく”豊かで活力に満ちた暮らしづくり
- 2 伊那谷の未来を担う人づくり
- 3 二つのアルプスを活かした交流圏域づくり
- 4 リニア開業を見据えた伊那谷 (INA Valley) づくり

南信州

伝統と最先端が響き合う「リニア新時代」のフロンティア～南信州～

- 1 地域の潜在力を活かした産業が躍進する南信州
- 2 豊かな自然・文化と共生し、人と地域が輝く南信州
- 3 安全・安心な暮らしが実現できる南信州

※ 110 ページ以降、地域重点政策ごとに、関連する主なSDGs(持続可能な開発目標)のゴールを表示しました

県境・圏域を越えた主な取組

局名	取組内容	相手方	備考
佐久	地域内農産物等の循環に係る研究の実施	上田地域	1 健康長寿と地消地産の推進を核とした地域づくり ●佐久「地消地産」プロジェクト
	カラマツ製品のブランド力の強化	上田地域	1 健康長寿と地消地産の推進を核とした地域づくり ●いづら佐久カラマツ活用プロジェクト
	浅間山の防災体制の強化	群馬県等	4 浅間山の防災体制強化及び活用 ●防災体制の強化
	中部横断自動車道の全線開通に向けた気運の醸成	山梨県等	5 新たな交流・物流に向けた中部横断自動車道の整備促進 ●早期の全線開通に向けた気運醸成と全線開通後の波及効果の研究
上田	健康・医療等の成長産業への参入を促す東信州次世代産業振興協議会の活動の支援	佐久地域(小諸市、佐久市、立科町) 長野地域(千曲市、坂城町)	2 産学官金連携、広域連携による基幹産業の振興 ●次世代自立支援機器・産業機器製造業の集積
	地域内農産物等の消費・循環実態に関する研究	佐久地域	2 産学官金連携、広域連携による基幹産業の振興 ●消費者から選ばれる農産物の地域内循環の推進
	ワイン用ぶどうの生産振興及びワイン産地としての認知度向上	佐久地域(小諸市、立科町) 長野地域(千曲市、坂城町)	2 産学官金連携、広域連携による基幹産業の振興 ●千曲川ワインバレーを地域に根付く産業資源として育成・振興
	カラマツ製品のブランド力の強化	佐久地域	2 産学官金連携、広域連携による基幹産業の振興 ●カラマツ林業の再生、森林認証材の普及による東信カラマツ等の販路拡大
諏訪	ハヶ岳等の山岳高原の魅力体験・交流の促進	山梨県北杜市他	3 選ばれ続ける観光地域づくり
	信州ビーナスライン連携協議会による情報発信	佐久、上田地域	3 選ばれ続ける観光地域づくり
上伊那	中央アルプスのレベルアップと活用拡大	南信州地域 木曾地域	3 二つのアルプスを活かした交流圏域づくり ●二つのアルプスのレベルアップと活用の拡大
	広域的な観光流動の創出	南信州地域 木曾地域 飛騨地域	3 二つのアルプスを活かした交流圏域づくり ●伊那谷らしさを活かした広域観光の創出
	リニア中央新幹線整備効果の波及拡大	松本地域 諏訪地域等	4 リニア開業を見据えた伊那谷(INA Valley)づくり ●リニアとのアクセス確保と流動の拡大
南信州	周遊観光客増加をめざした周遊モデルづくりの推進	愛知県東三河地域 静岡県遠州地域 上伊那地域 木曾地域	1 地域の潜在力を活かした産業が躍進する南信州 ●南信州地域が一体となった広域観光の推進
	合同訓練による応援・受援等を実施できる体制の確保	静岡県 愛知県	3 安全・安心な暮らしが実現できる南信州 ●災害に強い基盤整備の推進・地域防災体制づくり

局名	取組内容	相手方	備考
木曾	地域外の観光地と組み合わせ、滞在時間を延ばした観光の推進	岐阜県東濃・飛騨地域等 上伊那・南信州地域	1-2 「木曾らしさ」を活かした地域づくり ～日本遺産にも認定された、優れた「観光資源」を活かす～ ●観光地域づくり
	木曾川右岸道路の整備推進	岐阜県	2 「御嶽山」の安全対策の推進と土砂災害の防止等 ●地域の強靱化
	・木曾川上下流交流の拡大と、交流による課題解決の促進 ・木曾川沿いの南北の交流に加え、東西の交流も促進	中京圏 高山市 上伊那・南信州地域 岐阜県	3 人口減少下における人材の確保 ●移住・交流促進
	リニア駅への交通アクセスの改善を促進	岐阜県駅及び長野県駅周辺地域	4 生活基盤・経済活動基盤の確保 ●交通
松本	滞在型の周遊観光ルートの創出	岐阜県等	1 信州まつもと空港を活かした観光振興 ●滞在型の周遊観光対策
北アルプス	広域的なサイクルツーリズムの推進	隣接する日本海エリアの県・市町村 県内他圏域	2 四季折々に訪れ、北アルプスと安曇野の自然を満喫できる観光地域づくり ●サイクルツーリズムの推進
	観光地（立山黒部アルペンルート）の災害時に備えた防災対策の強化	富山県 富山県立山町	3 生涯を通じて健康で、安心・安全に暮らせる地域づくり 〈防〉住民の力を活かした地域防災力の向上、観光地の防災対策の強化
長野	発酵食品・機能性食品産業の集積形成	北信地域振興局等	1 地域資源を生かして県経済をけん引する「活力あふれる」長野地域づくり ●地域の特長を生かした「ものづくり産業」強化
	地域産品の販路開拓の推進	新潟県 東北信の地域振興局等	1 地域資源を生かして県経済をけん引する「活力あふれる」長野地域づくり ●地域産品の広域的な販路開拓
	地域の特長を生かした広域観光の推進	群馬県 新潟県 東北信の地域振興局等	「体験」と「交流」を軸とした「地域の特長を生かした広域観光」推進プロジェクト
北信	北信圏域や長野県域を越えた広域観光連携の支援と体制づくりの推進	・信越自然郷（新潟県・長野圏域） ・雪国観光圏（群馬県・新潟県・長野圏域） ・長野電鉄・JR 飯山線沿線市町村（新潟県、長野圏域）	2 「信越自然郷」等通年型広域観光推進プロジェクト ①観光地づくりと圏域・県域を越えた広域観光の促進
	複数の観光地を広域周遊バスで結ぶなど、二次交通の整備促進	・新潟県 ・他圏域	2 「信越自然郷」等通年型広域観光推進プロジェクト ⑤交通拠点と観光地を結ぶ二次交通の整備
	健康長寿を意識した食品の開発・応用に注力する食品産業の集積促進	・長野地域	3 「米・果物・きのこ」産地パワーアッププロジェクト ④地域資源を活用した食品の開発とエネルギー利用の促進

佐久地域の特性

- ・県内でも早くから医療関係者や市町村等による保健活動が活発で、医療体制も充実しているとともに、県内屈指の農業地帯であるほか、信州カラマツの郷土であり、伐採期を迎えた優良なカラマツが豊富に存在します。
- ・軽井沢、立科等の観光地を抱えているだけでなく、晴天率が高く日本三選星名所の1つに選ばれた星空を楽しめます。
- ・国内有数の活火山であるとともに、観光資源でもある浅間山が存在します。
- ・首都圏から良好なアクセス環境に加えて、中部横断自動車道が延伸しています。

【管内の概況】



⑳ 上田地域と連携（農産物、ワイン等の地消地産）

⑲ 中山道、北国街道が通過
小諸市・佐久市・軽井沢町・御代田町・立科町

⑱ 浅間山（群馬県等と連携した防災強化と観光資源としての活用）

① 国際的な観光地（駅前の無電柱化を行い、歩道や自転車通行帯を整備）
軽井沢町

② レタス、キャベツ等の産地
小諸市・佐久市・軽井沢町・御代田町

③ ブルーン、りんご、米の産地
佐久市（ブルーン発祥地）・佐久穂町

④ 信州サーモン、信州大王イワナ、佐久鯉、フナの養殖
佐久市・佐久穂町

⑤ 商工業の集積
小諸市・佐久市・軽井沢町・御代田町

⑥ 首都圏からの「東の玄関口」
JR東京駅からの最短時間
JR軽井沢駅 62分
JR佐久平駅 71分
(2017.12現在)
関越自動車道 練馬IC～上信越道 佐久IC 約96分

⑦ 観光列車の運行
JR小海線：HIGH RAIL 1375
しなの鉄道：ろくもん

⑧ 中部横断自動車道
2018年4月 佐久南IC～八千穂高原IC 開通
全線開通に向けて山梨県等と連携
【参考：八千穂高原ICまでの延伸効果】
小海町役場～厚生連佐久総合病院（佐久医療センター）の移動時間
約33分 → 約28分

⑨ キク等花きの産地
佐久市・小海町・佐久穂町・南相木村・北相木村

⑰ 日本酒
個性豊かな13の酒蔵が存在
小諸市、佐久市、佐久穂町

⑯ りんご、米、肉用牛の産地
立科町

⑮ 宇宙航空研究開発機構 臼田宇宙空間観測所（衛星観測用宇宙探査機と交信）
佐久市

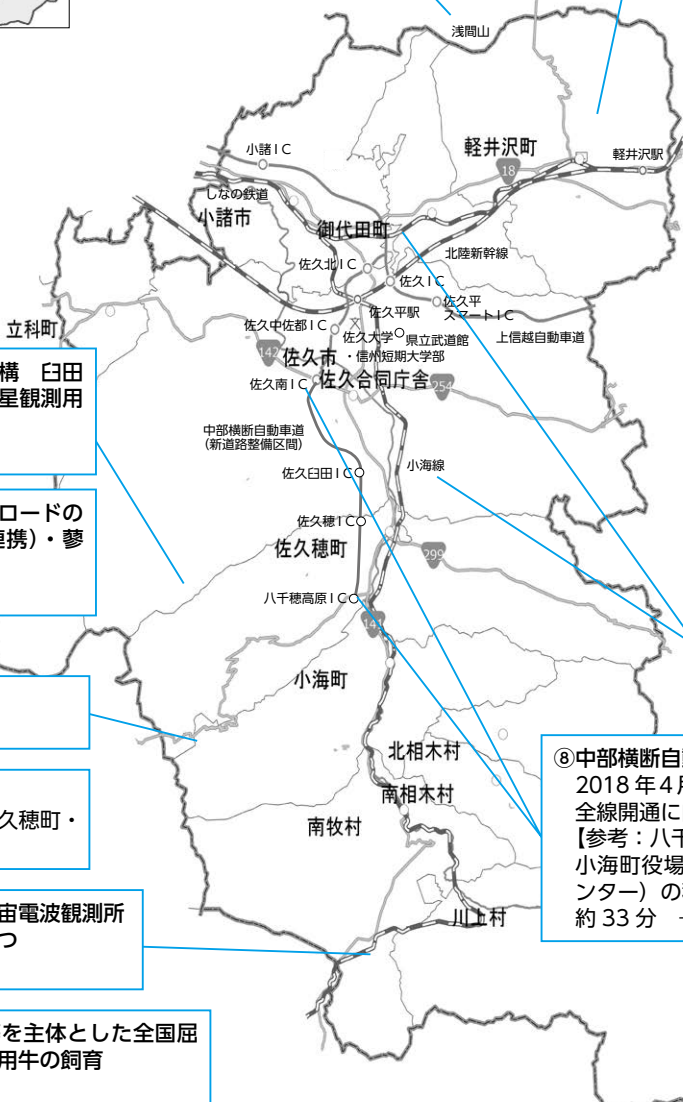
⑭ 白樺湖（ジョギングロードの整備、諏訪地域と連携）・蓼科山・女神湖
立科町

⑬ 白駒の池
小海町・佐久穂町

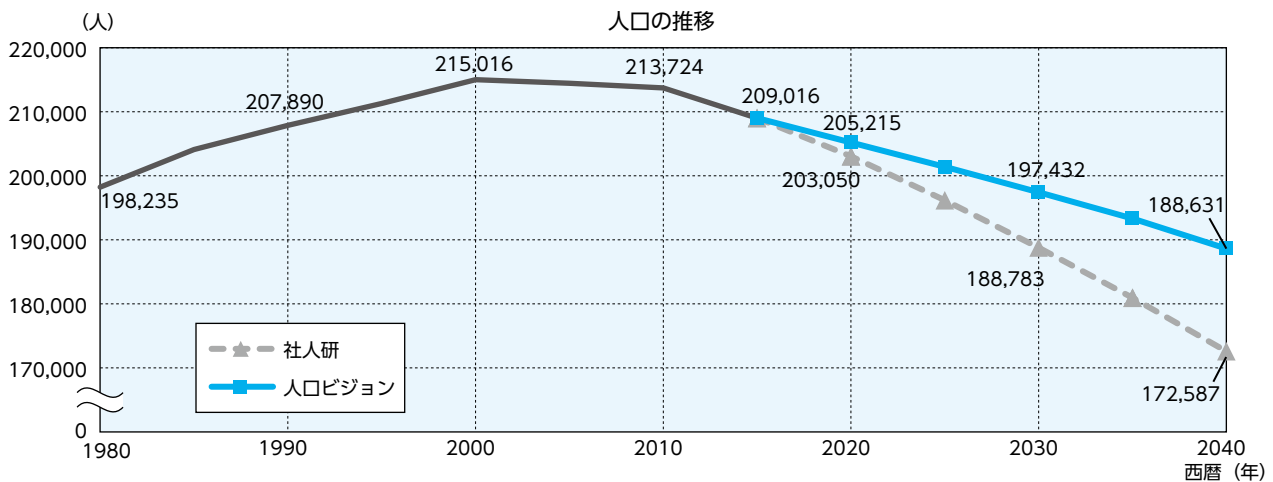
⑫ ハケ岳山麓
佐久市・小海町・佐久穂町・南牧村・立科町

⑪ 国立天文台野辺山宇宙電波観測所
日本三選星名所の1つ
南牧村

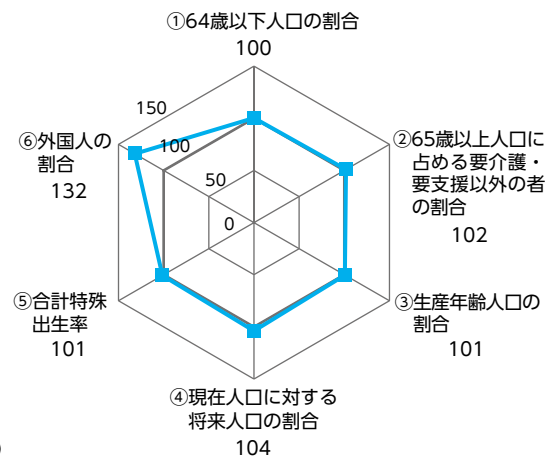
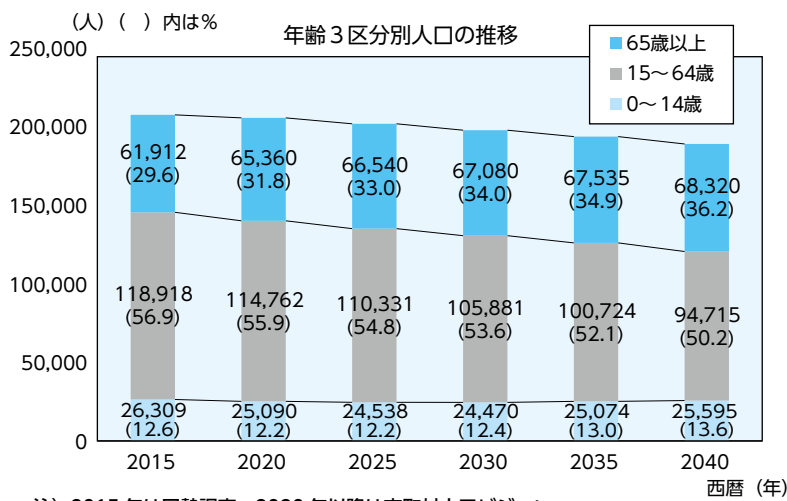
⑩ レタス、ハクサイ等を主体とした全国屈指の野菜の産地、乳用牛の飼育
川上村・南牧村



【人口】

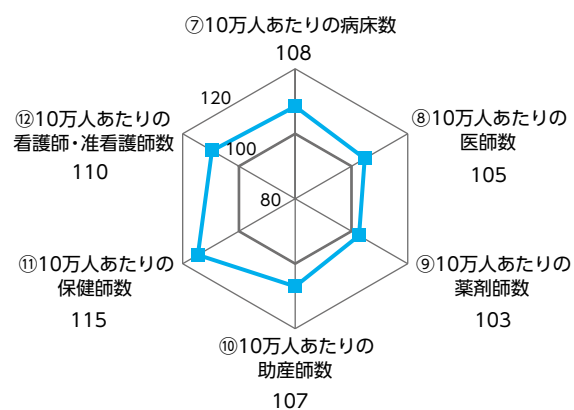


【地域の特徴(人口)】

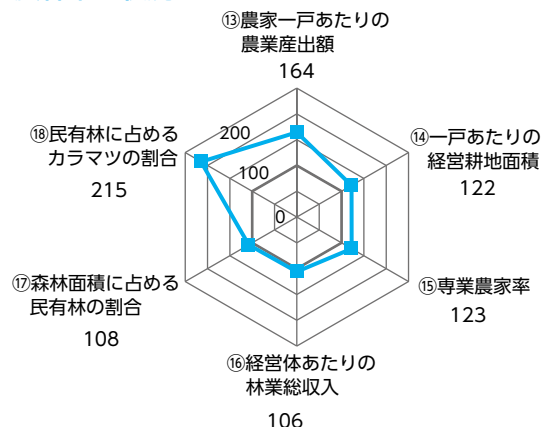


【地域の特徴(医療・農林業)】

医療体制の状況



農林業の状況



注) 長野県を100として佐久地域と比較(指数)

- ・人口の推移について、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、1980年と比較して2040年は12.9%の減ですが、市町村人口ビジョンの推計では人口減少に歯止めをかける政策により、4.8%の減となっています。また、65歳以上の割合が増加しています。
- ・地域の特徴について、特に医療体制、農林業の状況が充実しており、全ての項目が県平均以上です。

佐久の健康長寿や多様な産業等の地域の特長（魅力）を活かすとともに、地域外との交流を拡げ、住んでよし、訪れてよし、の地域をめざします

- ・保健・医療に関する体制が充実しているとともに、南佐久地域を中心に県内有数の農産物の産地であり、伐採期を迎えた優良なカラマツが豊富に存在するという地域の特長（魅力）を活かして、県民の「確かな暮らし」を確保する地域づくりを推進します。将来的には、地域のブランド化を図り、情報発信を行うとともに、産業の振興（新たなビジネスモデルの創造）をめざします。
- ・標高が高く美しく見える星空や高い晴天率による青空を活かした観光地域づくりを促進するほか、地域の特長（魅力）を活かし、将来的には、県外との交流を拡充するとともに、北佐久地域に集積されている商工業等も活かして、移住・二地域居住を更に促進し、佐久地域の振興をめざします。
- ・住民、観光客等の安心・安全の確保に向けて、佐久地域特有の資産である浅間山の防災体制を強化するとともに、観光資源としての活用を進めます。
- ・佐久地域の特長（魅力）や産業を活かして、県外との新たな交流や物流を生み出す中部横断自動車道の整備促進に取り組みます。

地域重点政策



1 健康長寿と地消地産の推進を核とした地域づくり

健康長寿の推進と健康を活かしたビジネスの創造、経済の地域内循環及びカラマツのブランド化と資源の平準化を図るプロジェクトを実施することにより、健康長寿、充実した保健・医療体制や「地消地産*」を活かした地域づくりを推進します。

【現状と課題】

- ・健康づくり活動が活発で医療体制も充実していますが、高齢化が進んでおり、いつまでも元気で暮らすためにライフステージに応じた身体活動向上の取組が必要です。
- ・県内屈指の農産物の産地ですが、地域内で活用するための物流体制が整備されていない等の課題があり、観光地の宿泊施設等での地元食材の利用促進が必要です。
- ・伐採期を迎えたカラマツ資源が豊富ですが、材の利用拡大が求められています。

【取組内容】

● さくっと「ずく出す」プロジェクト

- ・医療関係者、大学、企業等と連携するとともに、新たに設置する県立武道館や市町村等の関係施設も活用して、働き盛りの世代から高齢者までの運動習慣定着・身体活動向上のための取組を支援するほか、様々な世代への意識啓発を促進します。
- ・市街地等において地域住民や観光客が気軽に健康増進に取り組めるよう、ウォーキングコース等の整備を行うほか、中山道、白駒の池等でポールを使ったウォーキングなどを活用したヘルスツーリズムに取り組めます。
- ・プレメディカルケア産業^注に関連する地域企業との連携や、製品等を活用した産業の活性化を支援します。



「ずく出すサポーター」の養成講座

注：地域住民が健康意識を高め、より健康的に生活できるよう地域企業や専門家等が連携・協力し、歩き方を計測することでロコモ予防を理解したり、ポールを使ったウォーキングで体力向上を図る等、身近な健康維持・増進の機会を提供する産業を表す造語

●佐久「地消地産」プロジェクト

- ・直売所を核とした流通の仕組みづくり等、地元農産物の小ロット物流を研究するとともに、新商品の開発の支援・研究や信州ブランド魚の冷凍技術の研究等により地域産品の取扱いを増やすほか、上田地域と連携し、地域内農産物等の循環に係る研究を行います。
- ・「健康に食べる」ことを推進する取組や「食」「食育」に関する情報を発信します。



ハヶ岳山麓に広がるタバコ畑

●いづら佐久カラマツ活用プロジェクト

- ・佐久地域産カラマツ材の利用拡大の増進に向けて、佐久地域産カラマツ製品や森林認証等の普及啓発及び上田地域との連携によるブランド力の強化を図るとともに県産材活用住宅への助成を行うほか、皆伐跡地の再造林をはじめとする森林整備を推進することにより林業の活性化を図ります。
- ・森林の有する多面的機能の持続的発揮・増進、森林資源の効率的・安定的供給及び美しい景観の形成のため、間伐、更新伐、植栽等を計画的に行うとともに、森林の健全な育成のために、ニホンジカ等の被害対策を推進します。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
要介護・要支援認定率 (厚生労働省「介護保険事業状況報告月報」を基に算出)	14.9% (2016年度)	14.9% (2022年度)	第1号被保険者(65歳以上)に占める要介護・要支援者の割合 [現状維持を目標に設定]
新たに地元食材を利用する宿泊施設数 (佐久地域振興局調)	0施設 (2016年度)	20施設 (2022年度)	モデル地区において新たに地元食材を利用する宿泊施設数 [モデル地区におけるアンケート調査により設定]
民有林のカラマツ丸太の生産量 (林務部調)	53,768m ³ (2015年)	65,000m ³ (2022年)	建築・チップ用等に使用される木材(丸太)の生産量 [現状の約20%増加を目標に設定]



2 美しい星空と青空をテーマとした観光地域づくり

小海線・しなの鉄道の観光列車(「HIGH RAIL 1375」)、「ろくもん」)や国立天文台野辺山宇宙電波観測所等の天体観測施設を活用するほか、歴史的建造物が存在する北国街道と中山道を活かしたプロジェクトを実施することにより、美しい星空や青空、宇宙を活用した観光地域づくりを促進します。

【現状と課題】

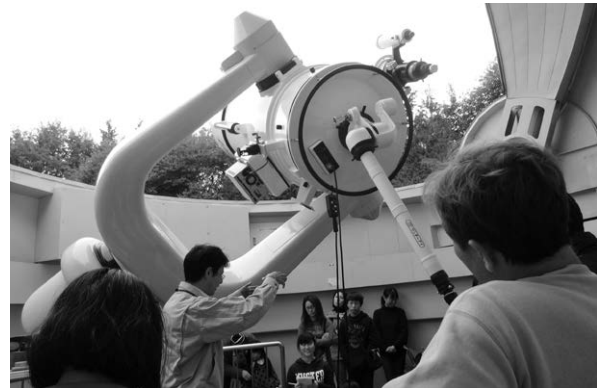
- ・軽井沢町に訪れる観光客に他の地域も周遊してもらうことが必要です。
- ・野辺山高原のある南牧村は、東日本で唯一の天文学者が選ぶ星空が綺麗な「日本三選星名所」であり、これを活かすために、地域全体で光害^注について考えることが必要です。
- ・経験がある星空案内人が限られるため、ニーズに対応しきれていない状況です。

注：屋外照明等が目的物以外の物を照らすことにより、天体観測等の人の活動や動植物へ悪い影響を与えること。

【取組内容】

● 星空・宇宙を学び、楽しむプロジェクト

- ・国の天体観測施設等と連携して、子どもたちが将来も星空や宇宙に親しめるような取組や、観光客が学び、楽しむための取組を推進するほか、観望に適した環境整備の研究や星空を活かした商品開発を支援します。
- ・星空を快適・安全に観るため、観望エリア周辺の支障木を伐採します。
- ・光の指向性が高いLEDの普及促進を図るほか、光害対策ガイドラインを活用して光害対策の普及啓発を行うとともに、地域住民等と連携し、美しい星空を保全する気運を醸成します。



天体観測施設での星空観賞

● 高い晴天率を活かした青空の下で楽しむプロジェクト

- ・北国街道の歴史的建造物を活かした整備や東信州中山道らしいおもてなしの強化、歴史文化を活かしたまちづくりや名物の研究等を行います。
- ・観光列車が走る小海線やしなの鉄道を観光資源として活用し、周遊観光を図るとともに、自然や地域の風土に馴染んだ風景等のビューポイントの発掘、整備を促進します。
- ・軽井沢駅から旧軽井沢間について、無電柱化を行い、歩道や自転車通行帯を整備するほか、展望の良い市町村道、林道（スカイライン等）沿線等の整備を支援することにより、観光客を含めた利用者の増加による地域振興を図ります。



東信州中山道ウォーキングイベント

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
観光地延利用者数 (観光部調)	1,495万人 (2016年度)	1,545万人 (2022年度)	管内観光地を訪れた日帰り客、宿泊客の延人数 [現状の約3%増加を目標に設定]

3 地理的優位性を活かした移住の促進と二地域居住の探求

多様な移住スタイルの提示や佐久地域の特色ある取組に関する情報を発信することにより、移住の促進や二地域居住の可能性を探求します。

【現状と課題】

- ・佐久地域は「東京に一番近い信州」として首都圏から良好なアクセス環境下にあります。地域全体として移住・二地域居住の推進に活かされていない状況です。
- ・佐久地域では地域ごと多様なライフスタイルが存在していることや、生活の範囲が広域的であることから、移住促進のためには市町村のエリアを越えた連携が必要です。



【取組内容】

●佐久地域の移住スタイルの探求

- ・佐久地域に住みながら首都圏に通勤する等、多様なライフスタイルを広域的な視点で分析・類型化し、地域に暮らす「人」や「生活」に焦点を当てた情報発信等を行います。

●佐久地域の特色ある教育・子育て環境のPR

- ・移住につながるため、保健・医療体制や子育て支援策をはじめとした市町村の取組、特色ある教育に取り組む公立・私立学校の魅力について情報発信を行います。



首都圏での移住セミナー



小学校での外国語授業

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
移住者数 (企画振興部調)	323人 (2016年度)	449人 (2022年度)	新規学卒Uターン就職者や数年内の転出予定者などを除く県外からの転入者 [県全体の目標をもとに設定]



4 浅間山の防災体制強化及び活用

地域住民はもとより観光客にも安心して訪れてもらえるよう、浅間山の防災体制の強化と浅間山を活用した観光等を推進します。

【現状と課題】

- ・国内有数の活火山である浅間山について、防災体制の強化と「恵み」の活用が必要です。

【取組内容】

●防災体制の強化

- ・大規模噴火ハザードマップに基づく市町村の避難計画等の策定支援や周知を群馬県等とともにやり、地域単位での「減災」意識の醸成を促進します。
- ・山麓観光スポット等において噴火に関する情報を観光客等に発信します。
- ・山麓の民有林の危険度判定を行い、治山事業に反映し、災害に強い森林づくりに計画的に取り組むとともに、噴火の際に火山泥流が御影農業用水路に流入することで発生する越水被害を最小限とするための施設を整備します。

●固有の資源としての活用

- ・火山館コースと黒斑山コースの両登山口を結び、周遊の利便性を高めることで、浅間山の周遊登山を促進します。
- ・ジオツーリズム等の地域活動や地元自治体が実施する登山道整備を支援するほか、専門的な知識を有する人材を「浅間山火山マイスター（仮称）」として認証する制度を検討します。



佐久平から見た浅間山



浅間山周遊登山

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
浅間山登山客数 (観光部調)	3.6万人 (2016年度)	5万人 (2022年度)	浅間山を訪れた日帰り客、宿泊客の延人数 [噴火警戒レベルによる入山規制がある中で、ピーク時(H25:7.5万人)の約70%に設定]



5 新たな交流・物流に向けた中部横断自動車道の整備促進

中部横断自動車道の延伸（佐久南IC～八千穂高原IC間）の効果を最大限に活かす道路網の整備を進めるとともに、全線開通時を見据えた波及効果を研究します。

【現状と課題】

- ・物流や医療等の面における時間短縮のほか、国道141号のリダンダンシー（代替）道路の確保のため、中部横断自動車道の早期の全線開通が必要です。

【取組内容】

- 八千穂高原ICまでの延伸効果を活かす道路網の整備
 - ・延伸の効果を波及させるため、周辺道路の整備を図ります。
- 八千穂高原ICまでの延伸効果を活かした移住・定住及び観光誘客の促進
 - ・通勤エリア等が拡大することを活かして移住・定住を促進するほか、首都圏や軽井沢を起点とし、八千穂高原、野辺山高原等の南佐久地域が結ばれることから地域全体の周遊観光を促進します。
- 八千穂高原ICまでの延伸効果を活かした地域産業の発展と産業誘致の促進
 - ・「東京に一番近い信州」の効果を活用し、製造業をはじめ地域産業全般の発展と産業誘致を促進します。

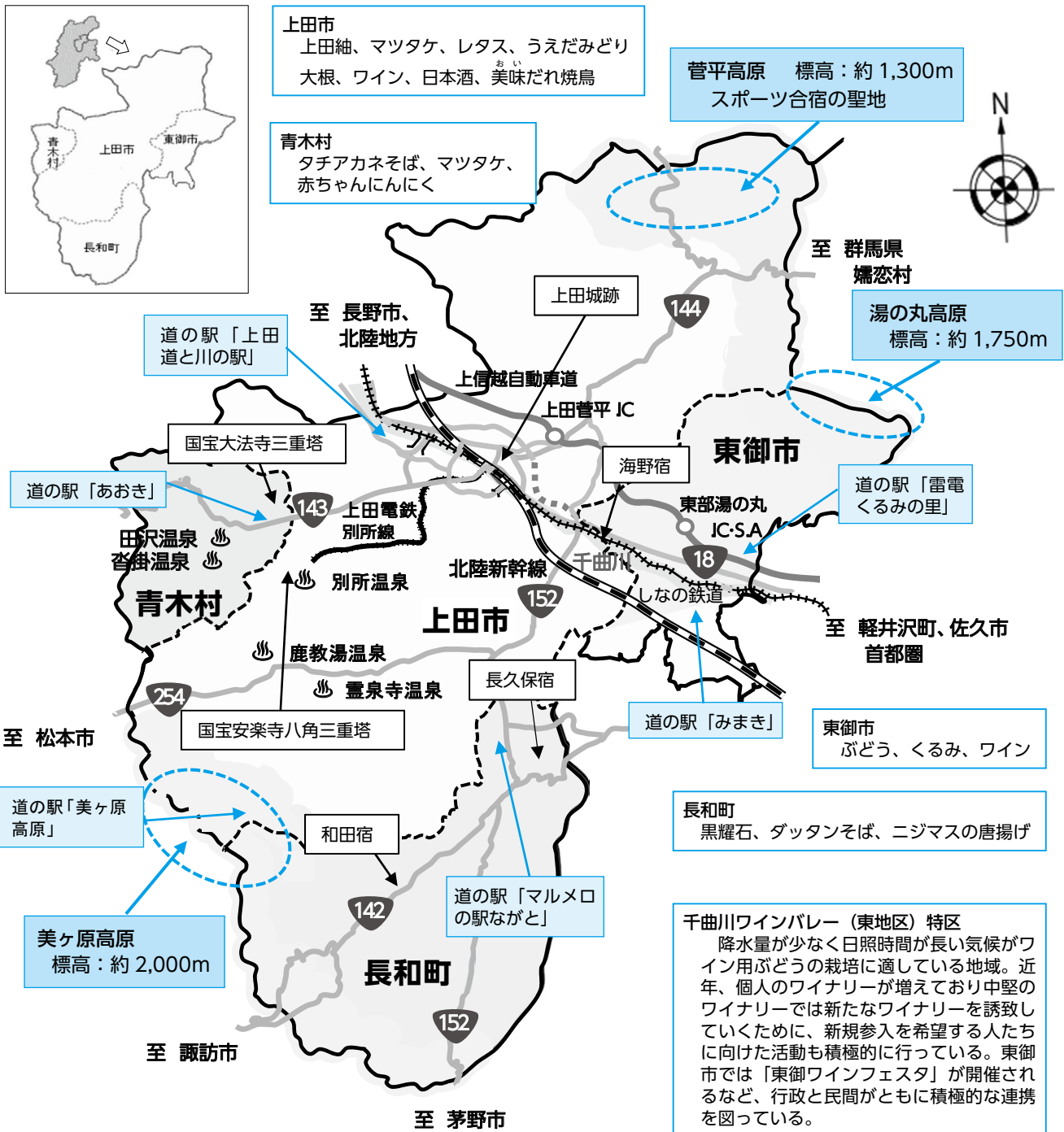
●早期の全線開通に向けた気運醸成と全線開通後の波及効果の研究

- ・山梨県等と連携を強化し、未整備区間である八千穂高原ICから長坂JCT（仮称）までの建設促進の気運を高め、国への要望活動を推進するほか、沿線自治体等と一体となって地域住民の早期合意形成に努めます。
- ・全線開通時の影響について「人の流れ」（広域観光）や「物の流れ」（地域内、長野県と日本海及び太平洋臨海部の物流）といった側面から効果や活用方策の研究等を行います。

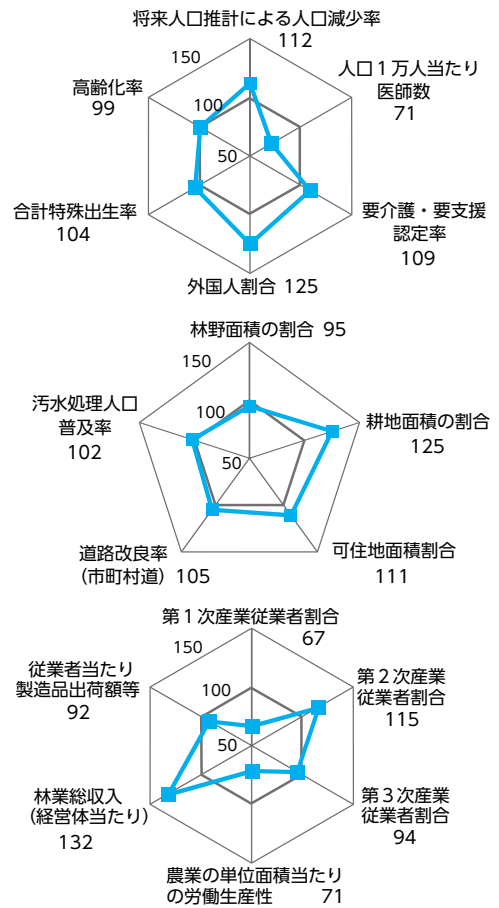
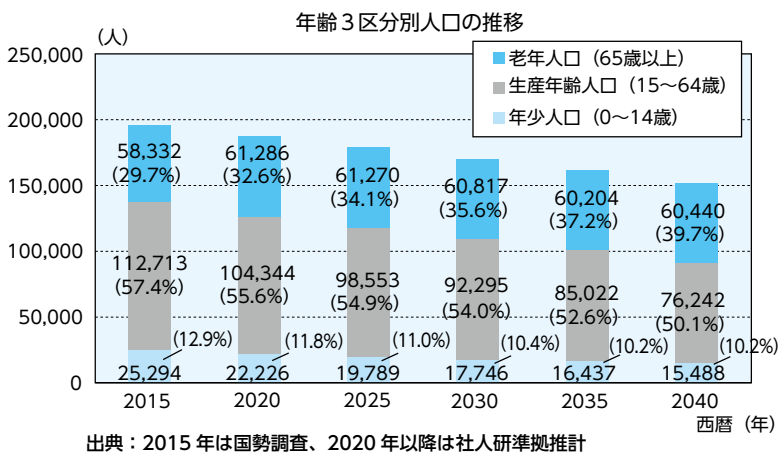
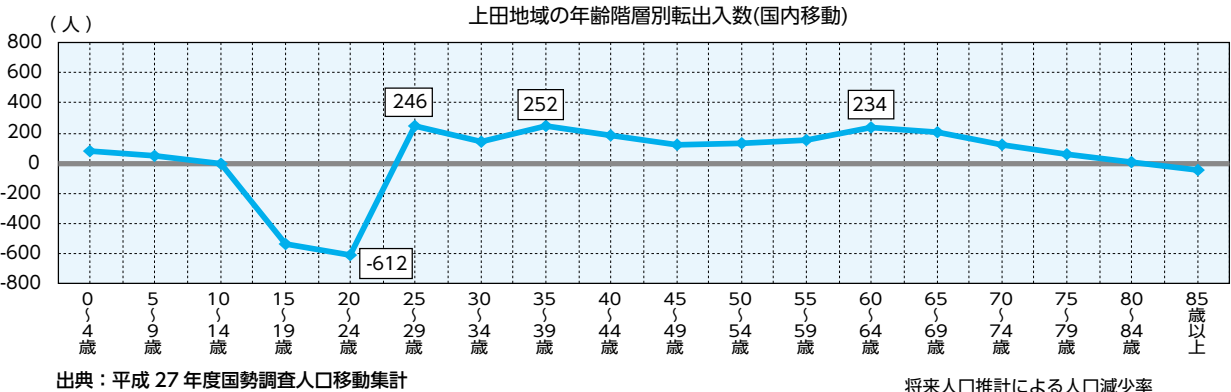
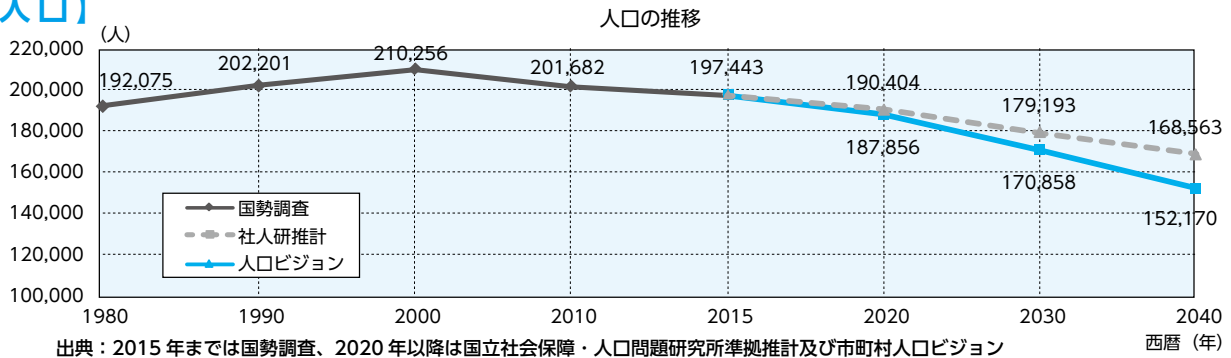
上田地域の特性

- ・上信越自動車道、北陸新幹線が東西にほぼ並行して走り、長野地域、北陸地方や佐久地域、首都圏と高速交通網で結ばれています。また、隣接する松本地域や諏訪地域とも幹線道路で結ばれ、交通の結節点となっています。
- ・国宝や重要文化財等の名所・旧跡や温泉、高原など魅力的な地域資源を有し、平成28年放送の大河ドラマ「真田丸」の効果により、上田地域の知名度が飛躍的に高まっています。
- ・県土の6.7%の面積を占めるコンパクトな地域の中で、工業・商業はバランスよく発展し、少雨多照の気候と標高差を生かした農業が営まれています。
- ・高等教育機関や専門学校が集積し、若者が多く居住しています。

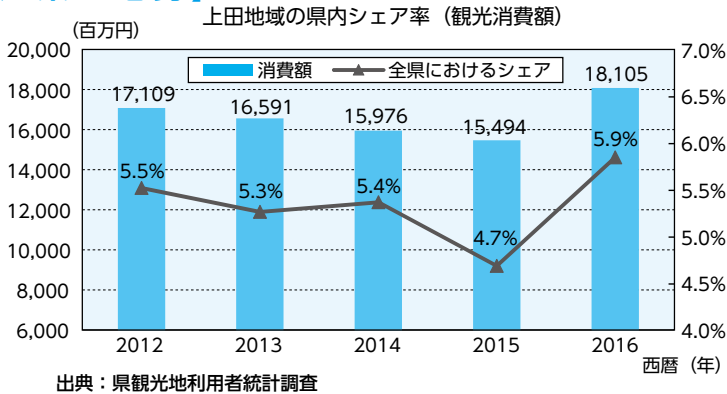
【管内の概況】



【人口】



【産業・地勢】



注) 各指標は長野県を100として上田地域と比較(指数)

【人口の推移】管内人口は、社人研推計によると2040年までに2015年比77.1%まで減少すると予想されるが、管内自治体が作成した人口ビジョンでは人口減少に歯止めをかける政策により、85.4%まで抑制する見通しとなっている。

【年齢階層別転出入数】転出のピークは進学や就職の時期と重なる20歳～24歳となる一方、転入は子育て世代と推定される35歳～39歳が最も多い。

【人口関係データ】「人口1万人当たり医師数」は県平均より29%少ないことから、医師の確保が課題となっている。また、約3千人超の外国人が居住し、専門学校等で学ぶ外国人留学生も多く居ることから、「外国人割合」は県平均より25%高くなっている。

【産業関係データ】「林業総収入(経営体当たり)」は、効率的な経営などにより県平均を32%上回っている。「耕地面積の割合」は県平均より高いものの、第2種兼業農家が多いことから「第1次産業従業者割合」は逆に低く、耕作放棄地の増加もあり「農業の単位面積当たりの労働生産性」は県平均を下回っている。

～多様な人材を呼び込み、人の力で輝く「上田地域」の創造～

- ・上田地域は、県内主要都市との「結節点」に位置し、北陸新幹線や上信越自動車道の整備により、首都圏等との人・物の往来が更に便利になってきています。少雨多照の気象条件も相まって、個性豊かな人々が集まり生活を営み、様々な人や団体による多様な取組が根付く「住民力」の高い地域でもあります。
- ・今後も、他圏域との連携・交流を深めることにより、暮らしを支える産業振興を図るとともに、地域の活力となる多様な人材を積極的に呼び込み、こうした人材を地域一体となって後押しすることで、地域住民の「力」と外部人材の「力」の相乗効果で輝く上田地域を市町村等と協働して創造していきます。

地域重点政策



1 若者・女性・外部人材の活躍推進 【活躍の場の創出】

大学等高等教育機関が多く、大勢の若者が地域に集う特長を生かし、こうした若者や女性、外国人留学生などが柔軟な発想や豊かな感性を発揮し、地域コミュニティを支える人材として定着・活躍できる場の創出をめざします。

【現状と課題】

- ・信州大学繊維学部、長野大学、上田女子短期大学、長野県工科短期大学校の4つの高等教育機関等が存立し、3,000人以上の学生が学びながら、中心市街地や管内各地域での取組に積極的に関わっています。
- ・NPOなどの多様な団体により、都市農村交流や農業・林業体験、起業支援や育児中の女性の就業支援等が行われています。
- ・また、日本語を学びつつ就業をめざす専門学校等に通う外国人留学生を多く抱える地域で、地域コミュニティへの参加活動も積極的に行われています。
- ・今後は、若者・外国人留学生の地域への定着や、女性の更なる社会進出を後押しすることにより、こうした人材が地域コミュニティを支え、活躍できる仕組みや場の創出が求められています。

【取組内容】

● 高等教育機関などと連携した起業・就業の支援

高等教育機関の持つ「知の資源」や蓄積されたノウハウを活用し、若者の意識も踏まえ、企業等と連携した起業・就業の支援策を研究のうえ、取組に移します。

● 世代・地域を越えた交流によるコミュニティの活性化

行動力や意欲溢れる若者や女性、住民相互の世代を越えた交流を積極的に支援し、交流がもたらす地域コミュニティの活力を管内に広げていきます。

● 地域を支える新たな担い手の確保

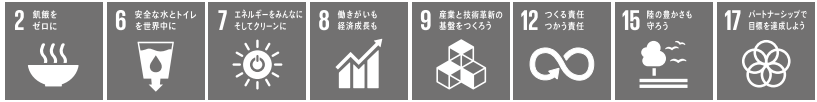
産業の新たな担い手として期待される外国人留学生の地域内での就労を支援するため、民間事業者と連携した就業体験等の実施に向けた研究を行います。



専門学校で学ぶ外国人留学生

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
都市農村交流人口 (企画振興部調)	30,905人 (2016年度)	34,000人 (2022年度)	農業体験などで県内を訪れる都市住民の数 [現状の10%程度の増加を目標に設定]



2 産学官金連携、広域連携による基幹産業の振興【生活の糧となる産業振興】

佐久地域、長野地域との連携による次世代産業の創出や、今後 100 年地域に根付くワイン産業の振興、地域資源であるカラマツの有効活用による林業の持続的発展など、住民生活の糧となる産業の振興をめざします。

【現状と課題】

- ・信州大学繊維学部や県テクノ財団浅間テクノポリス地域センター、浅間リサーチエクステンションセンター（AREC）等による産学官連携の取組が進んでいます。
- ・林業（素材生産）や木材産業（県産材の製材品出荷）が盛んであり、また、少雨多照の気象条件や標高差を生かした高原野菜やぶどうの産地で、近年、良質なワインの産地としての評価（2016 年の伊勢志摩サミット等で提供）も高い地域です。
- ・一方、成長性の高い次世代産業への参入や農・林産物の高付加価値化、ブランド化など、安定した経営基盤を確立するための取組が求められています。

【取組内容】

●次世代自立支援機器・産業機器製造業の集積

健康・医療等の成長産業（動作支援ロボット・省力化機械等）への参入を促すため、その基盤づくりに向けた分野別研究会の開催や地域間取引を拡大するよう企業間のビジネスマッチングを行うなど、東信州次世代産業振興協議会（9 市町村で構成）の活動を支援します。

●消費者から選ばれる農産物の地域内循環の推進

近年売上が伸びている農産物直売所が地域産品の販売拠点として消費者に信頼されるものとなるよう、直売所の魅力アップや情報発信力強化に努めるとともに、佐久地域と連携した消費実態調査を踏まえた地域食材の宿泊施設等への供給体制の構築や更なる販路の拡大をめざします。

●千曲川ワインバレーを地域に根付く産業資源として育成・振興

気象データや IoT* を活用した栽培に関する研究開発が進められる中、生産圃場の整備を進めるとともに、そうした技術を活用するなどワイン用ぶどうの安定生産、高品質化を図ります。また、千曲川ワインバレー特区連絡協議会（8 市町村で構成）と連携し、ヴィンヤード* や個性豊かなワイナリーの PR を行うとともに、ワインイベント、周遊型旅行商品の企画等によりワイン産地としての認知度アップを図ります。



千曲川ワインバレーに恋するワイン会 in 上田



ワイン用ぶどう

●カラマツ林業の再生、森林認証材の普及による東信カラマツ等の販路拡大

カラマツの持続的活用を図るため、佐久地域と連携したブランド戦略の強化による付加価値の向上や製品開発、海外も含めた販路開拓を支援するほか、松くい虫被害材などの木質バイオマス* 燃料等への利用拡大を図ります。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
ワイン用ぶどう栽培面積 (上田地域振興局調)	75ha (2016 年)	110ha (2022 年)	ワイン用ぶどうを栽培する耕地面積 [造成予定の圃場面積を積上げて設定]
常設農産物直売所売上額 (同上)	18 億円 (2016 年)	22 億円 (2022 年)	1 年間の農産物直売所の売上金額 [現状の 20% 程度の増加を目標に設定]

3 地域の強みを生かし健康をテーマとした観光地域づくり【交流を促す観光】

豊かな自然と豊富な地域資源を生かし、健康づくりやスポーツ合宿、インバウンド*対応など、地域との交流を促す魅力ある観光地域づくりをめざします。

【現状と課題】

- ・標高差のある豊かな自然に恵まれた菅平や湯の丸等の高原、塩田平のため池や稲倉の棚田などの美しい景観、国宝安楽寺八角三重塔などの文化財や別所・鹿教湯等の歴史ある温泉など、魅力的な観光資源がコンパクトに集積されています。
- ・高速交通網により首都圏・北陸方面からのアクセス性に優れ、長野・松本・諏訪・佐久地域に隣接する交通の要衝に位置しています。
- ・一方、大河ドラマ「真田丸」の効果により、平成28年には過去最高の観光客の入込があったものの、観光消費額はこれまでのピーク時（平成3年）の約7割にとどまり、「稼げる観光」への転換及びインバウンド（訪日外国人旅行者）への対応が求められています。

【取組内容】

●地域資源（温泉・高原等）を活用した体験・滞在型観光の推進

ため池や上田地域に生息する多様な生物などについて、暦・マップや動画によるPRを進めるとともに、温泉地や高原等をフィールドに周辺の多彩な観光資源をつなぎ合わせ、地域の健康づくりのツールとして、また、地域住民等が上田地域の良さを「学ぶ場」としても活用しながら体験・滞在型観光を推進します。

このため、官民協働の推進母体としてヘルスツーリズム推進協議会（仮称）を立ち上げ、特色を生かした取組につなげていきます。



稲倉棚田

●外国人観光客の満足度を高める受入環境の整備

案内看板、パンフレットの多言語化を促進するとともに、外国文化やおもてなしに関する勉強会を開催し、受入態勢をソフト・ハード両面で整備するほか、外国人留学生等の協力を得てブログやSNSで情報発信を行います。



国宝大法寺三重塔

●観光地域におけるインフラの整備・支援

菅平高原等の観光地へのアクセス道路の改良、上田城跡周辺等における歩道整備や無電柱化により、景観の向上及び安全で快適な通行空間の確保を図ります。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
観光地延利用者数 観光地利用者統計調査（観光部）	692万人 (2012～2016年の平均)	692万人 (2022年)	管内観光地を訪れた日帰り客、宿泊客の延人数 [2012年から2016年までの5年間の平均値を目標に設定]
観光消費額 (同上)	167億円 (2012～2016年の平均)	167億円 (2022年)	管内観光地内で観光旅行者が支出した宿泊費、交通費、飲食費等の総計 [同上]



4 結節点という立地を生かした住環境整備・移住推進【人を呼び込む住環境】

首都圏とのアクセスのよさ、交通の「結節点」である立地条件、豊かな自然環境という特長を最大限生かし、医療、教育、子育て、地域公共交通など生活基盤の充実を図りながら移住を推進します。

【現状と課題】

- ・高速道路、新幹線等の高速交通網の整備により特に首都圏とのアクセスがよい地域です。
- ・人口動態における転入の最も多い年齢層は、当地域では35歳～39歳となっており、子育て世代の転入者の割合が高いと推測されます。
- ・一方、多様な人材を呼び込むための魅力ある住環境の整備と情報の発信による効果的な移住施策の実施が求められています。
- ・また、メタボリックシンドローム該当者の割合や生活習慣病による死亡率が他の圏域と比べて高く、健康づくりの実践が課題となっています。

【取組内容】

●自然を活用した魅力ある子育て・教育環境の整備と移住推進

市町村やNPOなどと協働して信州やまほいく*の普及や子どもの居場所づくりを進め、子育てしやすい環境について積極的な情報発信に努め、特に首都圏をターゲットに自然や住環境をアピールポイントにした移住施策に取り組みます。

●医療・健康づくり及び介護サービスの充実と連携強化

市町村、企業、医療・保健・福祉関係者との連携を強化し、医師等の確保に努め、健康に配慮した世代別食事メニューの普及等の信州ACEプロジェクトにより地域住民の健康づくりを推進するほか、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活し、本人らしい最期を迎えられるよう地域包括ケア体制等の構築を進めます。

●人・物が行き交う基盤となる交通網の整備と安全・安心な住環境の確保

安全・円滑な交通を確保するため、道路法面への防災対策や道路の拡幅等を市町村と調整の上実施するとともに、住宅の耐震化や地域公共交通の確保に向けた取組を支援します。

また、当地域と松本地域とを結ぶ青木峠トンネルの調査・整備を進めるほか、県内外の他地域との交流を更に推進する道路網の整備について検討します。



信州やまほいく



田舎暮らし体験住宅

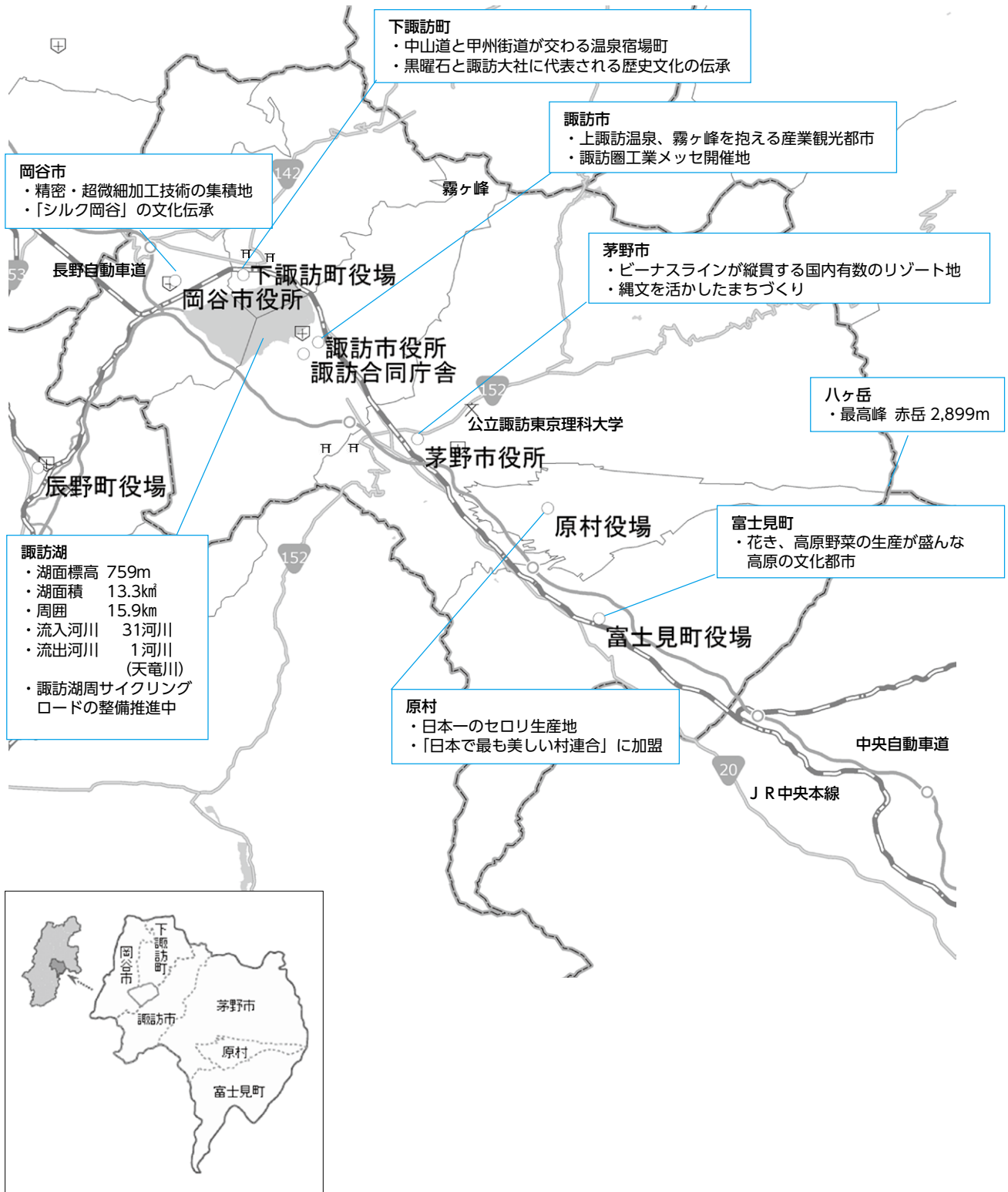
【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
移住者数 (企画振興部調)	98人 (2016年度)	160人 (2022年度)	新規学卒Uターン就職者や数年内の転出予定者などを除く県外からの転入者 [現状の60%程度の増加を目標に設定]

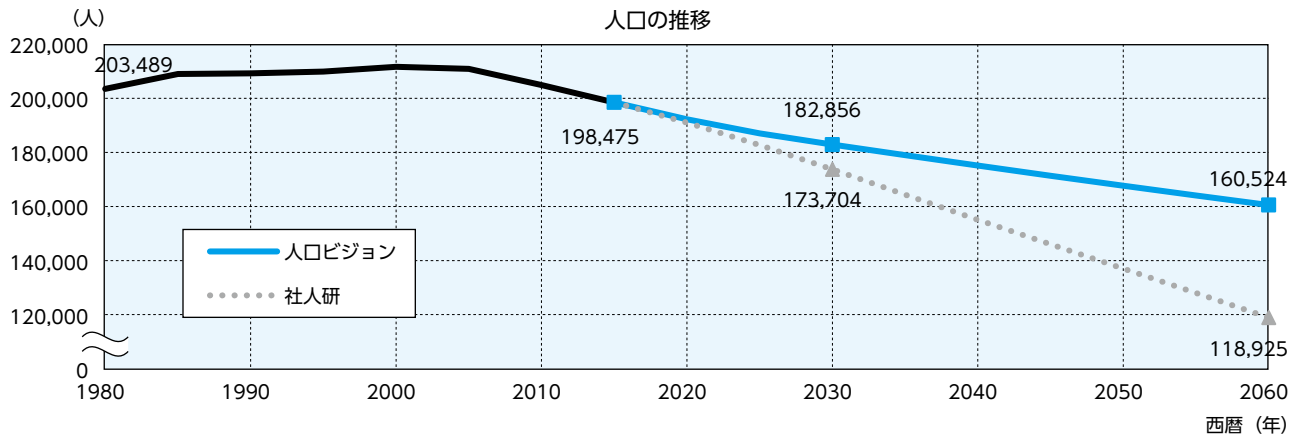
諏訪地域の特性

- ・先端技術を誇る製造業、特色ある農業など競争力のある産業が集積しています。
- ・諏訪湖・八ヶ岳等の自然環境、諏訪大社御柱祭・縄文等の歴史文化を有しています。
- ・中央自動車道、J R 中央本線等、交通の大動脈の結節点となっています。

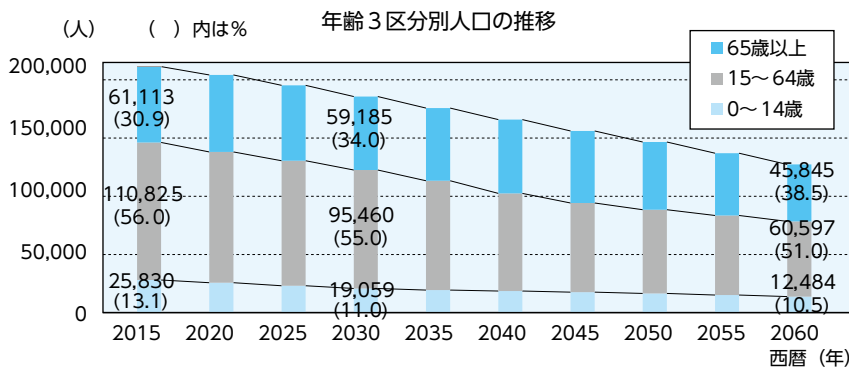
【管内の概況】



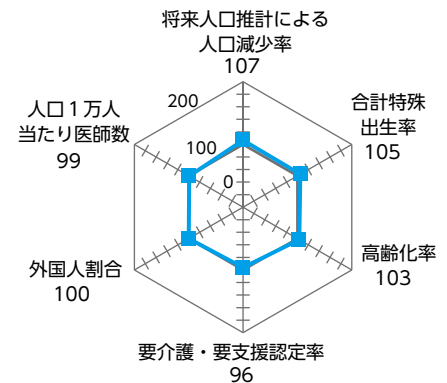
【人口】



注) 2015年までは国勢調査(年齢不詳者を含む)、2020年以降は社人研準拠推計及び市町村人口ビジョン(地方創生総合戦略)。

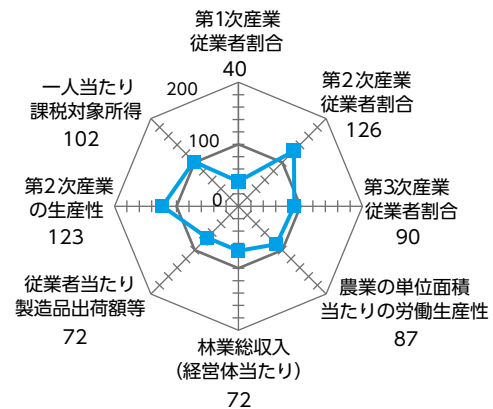
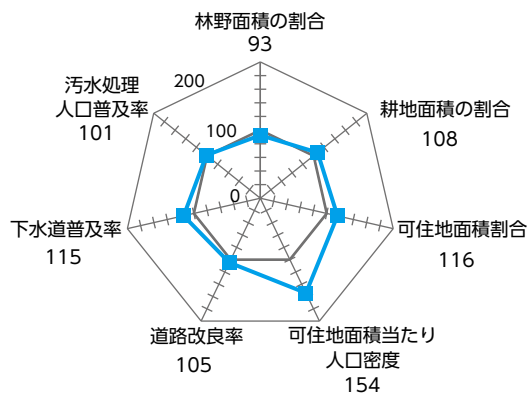


注) 2015年は国勢調査、2020年以降は社人研準拠推計



注) 各指標は長野県全体を100として諏訪地域と比較(指数)

【地勢・産業】



注) 各指標は長野県全体を100として諏訪地域と比較(指数)

2060年の諏訪地域の人口は、社人研準拠推計によると、2015年の59.9%となることが見込まれており、県全体(61.2%)とほぼ同じ水準となっています。一方、管内市町村人口ビジョンの総計では、県全体(76.8%)を上回る80.9%と試算されています。

諏訪地域の地勢は、可住地面積当たり人口密度や下水道普及率が県全体を大きく上回るなど、諏訪盆地の地形を活かしたコンパクトなまちづくりが特色となっています。

産業面では、第2次産業従事者の割合や第2次産業の生産性が高いことが特色であり、諏訪地域が県を代表するものづくりの集積地で高いポテンシャルを有していることを示しています。

諏訪湖や八ヶ岳が育む「豊かな自然」と地域の強みを活かした「競争力のある産業」が共存する地域の実現

- ・諏訪湖や八ヶ岳が育む豊かな自然の恵みを誰もが享受しています。
- ・技術集積に培われた「ものづくり」、八ヶ岳山麓の冷涼な気候を活かした「高原野菜・花き」など、地域の強みを活かした競争力のある産業が生活を支えています。
- ・豊かな自然と競争力のある産業の共存により、人々が集い、歴史・文化に親しみ、健康な暮らしを楽しめる地域が実現しています。

地域重点政策



1 産業競争力の強化、地域を支える人材の確保・育成

地域の強みの共有・磨き上げに産学官一体で取り組み、ものづくりや農業などの産業競争力の強化や地域を支える人材の確保・育成を進めます。

【現状と課題】

- ・諏訪地域は、長野県を代表するものづくりの集積地です。自動車関連等の受注が堅調に推移している一方、業種や取引先によって受注の格差が広がっている状況にあり、医療・ヘルスケア等成長分野への参入などの動きがあります。
- ・八ヶ岳山麓地域は、冷涼な気候を活かした高原野菜、花きの一大産地ですが、高齢化により生産者の減少や遊休農地の増加、温暖化による農産物の品質への影響が懸念されます。
- ・今後、更なる生産年齢人口の減少が見込まれる中、地域の産業を支える人材の確保・育成が大きな課題になっています。

【取組内容】

●産業競争力の強化

- ・県・市町村・産業支援機関等が連携して開催する「諏訪圏工業メッセ」及び官民協働による諏訪地域の産業振興の拠点づくりを支援します。
- ・国際戦略総合特区*の活用や、工業技術総合センター精密・電子・航空技術部門の技術相談等により、航空・宇宙、医療・ヘルスケア等の成長分野への参入を支援します。
- ・公立諏訪東京理科大学との連携によるAI*、IoT*等の応用研究と地域への普及を推進します。
- ・八ヶ岳山麓の冷涼な気候を活かした高品質で安定した農産物の生産による消費地から信頼される産地づくりを推進します。

●人材の確保・育成

- ・産業界、公立諏訪東京理科大学、信州大学諏訪圏サテライトキャンパス*、岡谷技術専門学校等とが連携した教育・訓練・研修を推進します。
- ・市町村、諏訪圏移住相談センターとの連携による地域が求める人材の確保を推進します。



諏訪圏工業メッセ



八ヶ岳山麓での新規就農支援

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
製造業の付加価値額 工業統計調査（経済産業省）	2,468 億円 (2015 年)	2,590 億円 (2020 年)	製造品出荷額等から内国消費税額等及び原材料使用額等を控除した額 [地域未来投資法の経済的効果目標を考慮し目標を設定]
農産物産出額等 (農政部調)	144 億円 (2015 年)	144 億円 (2022 年)	農業生産活動による最終生産物の総産出額 [近年の産地動向及び今後の振興策を考慮し目標を設定]



2 「諏訪湖を活かしたまちづくり」（諏訪湖創生ビジョン）の推進

諏訪湖の水環境保全や湖辺面活用・まちづくりを一体的に進めることにより、「人と生き物が共存し、誰もが訪れたいくなる諏訪湖」の実現をめざします。

【現状と課題】

- 古来山紫水明と賛美され、満々と水を湛える諏訪湖は、現在も諏訪地域のシンボルとして親しまれていますが、以前から環境改善が課題となっています。
- 諏訪湖の水質は緩やかな改善傾向にあり、全りん*については環境基準を達成しました。しかし、COD*、全窒素*については未だ達成しておらず、ヒシの大量繁茂、貧酸素水域の拡大等が新たな問題となっています。
- 水環境や生物多様性の保全に加え、健康・スポーツ、観光振興など、諏訪湖の湖辺面活用・まちづくりの観点からの取組に期待が寄せられています。
- 湖周のごみは減少傾向にありますが、環境・景観への影響が大きいことから、継続した清掃・啓発活動が求められています。

【取組内容】

● 諏訪湖の水質・生態系の保全

- 関係団体や地元企業との連携によるヒシ除去・貧酸素対策を推進します。
- 「信州の環境にやさしい農産物認証」や「エコファーマー*」などによる諏訪湖と共存する農業を推進します。

● 湖辺面活用・まちづくり

- 諏訪湖への流入河川河口部を中心とした治水・利水浚渫等の水辺整備を推進します。
- 「諏訪湖周サイクリングロード」の整備及びサイクリングを楽しめる環境づくりを推進します。
- 地元市町、民間企業との連携による湖辺面を活かした体験型観光や、健康づくりを推進します。

● 諏訪湖に関する学びの推進、研究体制の強化

- 博物館等とも連携し、住民や観光客が諏訪湖について学ぶ環境づくりを推進します。
- 自然体験等も含めた地域の子どもたちに対する効果的な環境教育の手法を検討します。
- 諏訪湖における調査研究体制を強化するため、諏訪湖環境研究センター（仮称）の設置を検討します。



ふれあいの場所、諏訪湖



諏訪湖周のサイクリング



諏訪湖の御神渡り



S UWA小型ロケットプロジェクト

【達成目標】

指標名		現状 (2016年)	目標 (2022年)	備考
諏訪湖の目標値 (第7期諏訪湖水質 保全計画)	COD*	75%値	5.6mg/L	4.8mg/L
		(参考) 平均値	4.4mg/L	4.4mg/L
	全窒素*	0.88mg/L	0.65mg/L	諏訪湖の水質改善を図るための 目標値 [第7期諏訪湖水質保全 計画をもとに設定]
	全りん*	0.050mg/L	現状水準の維持	
	透明度	1.2 ~ 1.3 m	1.3 m以上	



3 選ばれ続ける観光地域づくり

諏訪湖・八ヶ岳をはじめとする恵まれた自然環境や御柱祭・縄文などの歴史・文化を活かし、誰もが滞在を楽しめる観光地域づくりを進めます。

【現状と課題】

- ・上諏訪温泉・諏訪湖、霧ヶ峰高原など県内有数の観光地や多くの登山者が訪れる八ヶ岳等の山岳高原を有する諏訪地域は、首都圏等からのアクセスに恵まれていることから訪れやすい反面、日帰り客の割合が高くなっており、1人当たり観光消費額が県平均を下回っています。
- ・諏訪地域一体となったブランドの活用、集積する美術館・博物館の活用、ユニバーサルツーリズムの推進、ビーナスラインブランドの再構築など、観光資源の磨き上げを行うことにより、滞在・周遊・体験型の観光地域づくりを推進していくことが求められています。

【取組内容】

- ・諏訪地域一体となったブランドの発信力を強化するとともに地域DMOの構築を支援します。
- ・中部横断自動車道の開通等を見据え、山梨県北杜市をはじめとした圏域を越えた八ヶ岳等の山岳高原の魅力体験・交流を促進するとともに、縄文からの歴史・文化を活用した観光振興と外国人旅行者の誘致を推進します。
- ・トラベルサポーター*を活用したユニバーサルツーリズムのモデルコース作成を支援します。
- ・佐久、上田、諏訪地域の市町、観光協会等で構成される「信州ビーナスライン連携協議会」が行う情報発信等の取組を支援します。
- ・高原野菜をはじめとした諏訪地域の特産品等を活かしたメニューの提供などの取組を支援します。



障がい者が楽しめるユニバーサルツーリズムの推進

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
観光地延利用者数 観光地利用者統計調査 (観光部)	1,470 万人 (2016 年)	1,500 万人 (2022 年)	管内観光地を訪れた日帰り客、宿泊客の延べ人数 [過去 2 回の御柱祭開催年の状況を考慮し目標を設定]
観光消費額 観光地利用者統計調査 (観光部)	398 億円 (2016 年)	449 億円 (2022 年)	管内観光地内で観光旅行者が支出した宿泊費、交通費、飲食費等の総計 [1 人当たり観光消費額を県平均並みとする将来像を考慮し目標を設定]



4 安全・安心な地域づくり

道路ネットワークの整備や交通体系の利便性の向上、地域防災力の強化、保健・医療の充実等により、安全・安心な地域づくりを進めます。

【現状と課題】

- ・諏訪地域は、中央自動車道、J R 中央本線等、交通の大動脈が結節する交通の要衝にありますが、北陸新幹線延伸やリニア中央新幹線整備などの新しい高速交通網への対応や、住民生活や産業を支える道路ネットワークの整備、地域公共交通の確保等が求められています。
- ・諏訪地域には脆弱な地盤が多く、南海トラフ地震防災対策推進地域等に指定されていることから、自然災害に備えた関係機関の連携体制強化や住宅・建築物の耐震化の促進、自助・互助・共助の意識付けなどにより、地域防災力を強化する必要があります。
- ・脳血管疾患や急性心筋梗塞の死亡率が高いことが諏訪地域の健康課題となっています。

【取組内容】

●移動手段の確保

- ・国道 20 号バイパス建設に合わせたアクセス道路を含む道路網の構築と地域公共交通の確保に向けた取組を推進します。
- ・リニア中央新幹線長野県駅・山梨県駅へのアクセス手段等の検討と中央東線の利便性向上に向けた取組を推進します。

●安全・安心な暮らし

- ・治山・治水施設の整備、住宅の耐震化への支援や自主防災活動の強化に向けた啓発を推進します。
- ・健康づくりに対する意識や特定健診受診率の向上、食生活の改善に向けた信州 ACE プロジェクトを推進します。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
住宅の耐震化率 (建設部調)	75.7% (2013 年度)	90.0% (2020 年度)	耐震化された住宅の割合 [長野県耐震改修促進計画 (第 II 期) をもとに目標を設定]
特定健診受診率 (長野県国民健康保険団体連合会調)	44.5% (2014 年)	60.0% (2022 年)	特定健康診査対象者数に占める特定健康診査受診者数の割合 (市町村国保分) [現状は「国保保険者における特定健診等結果状況報告書」、目標は厚生労働省をもとに設定]

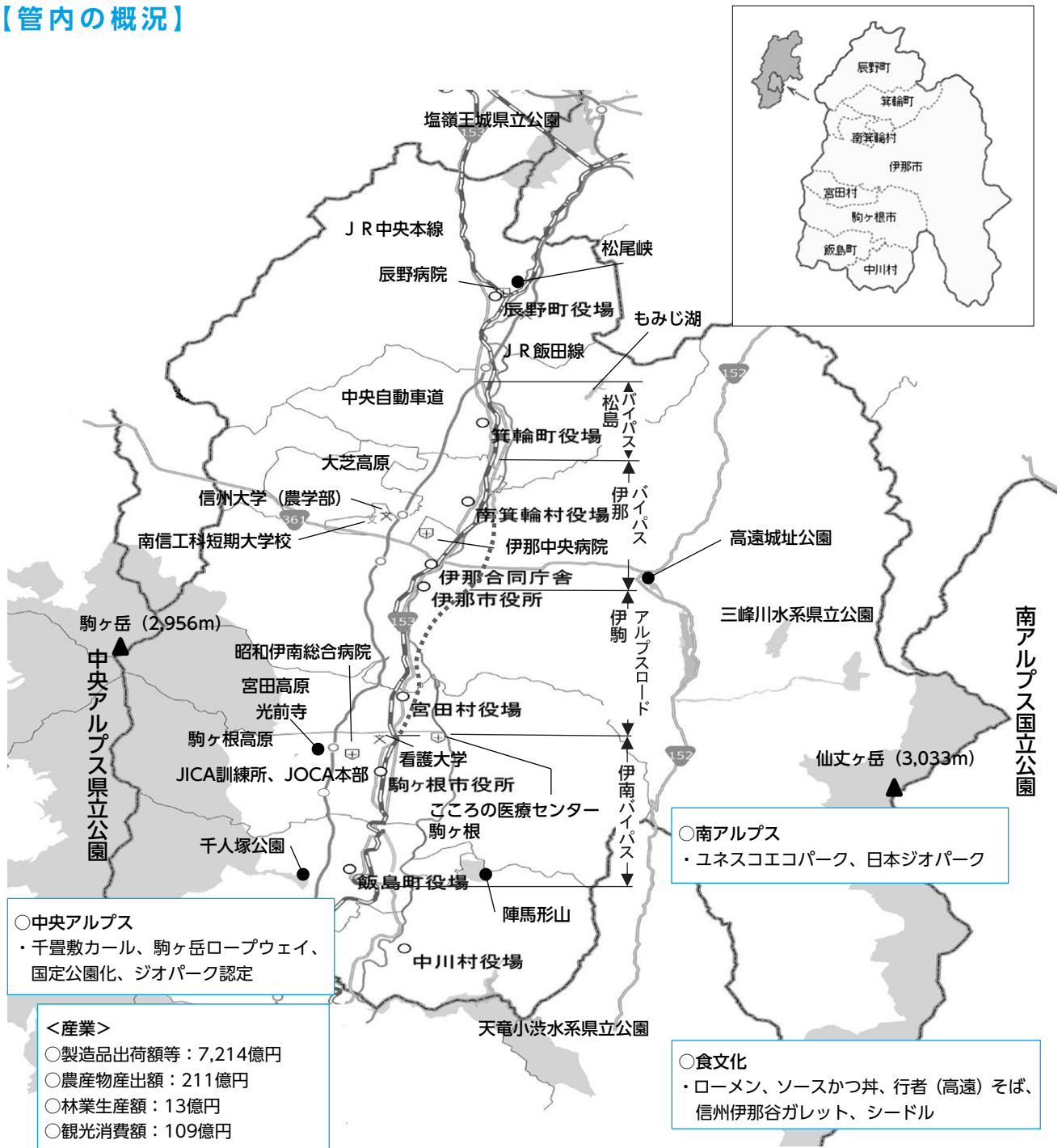
上伊那地域

伊那市、駒ヶ根市、辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村

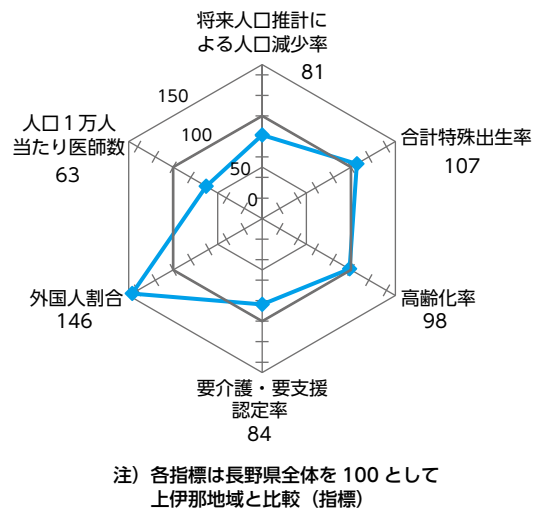
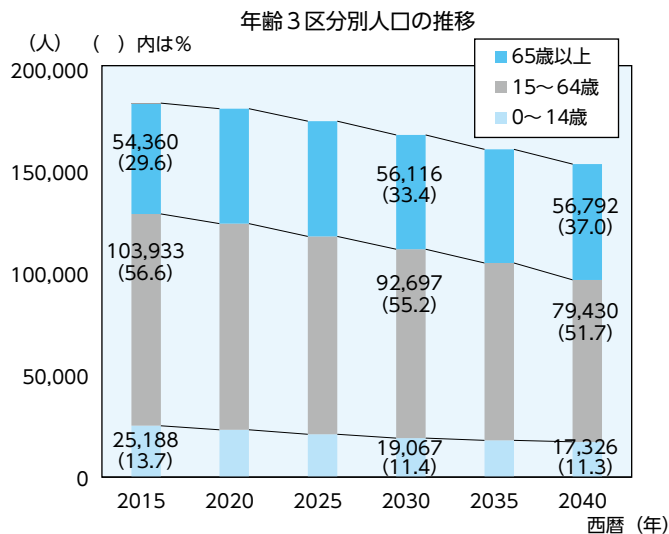
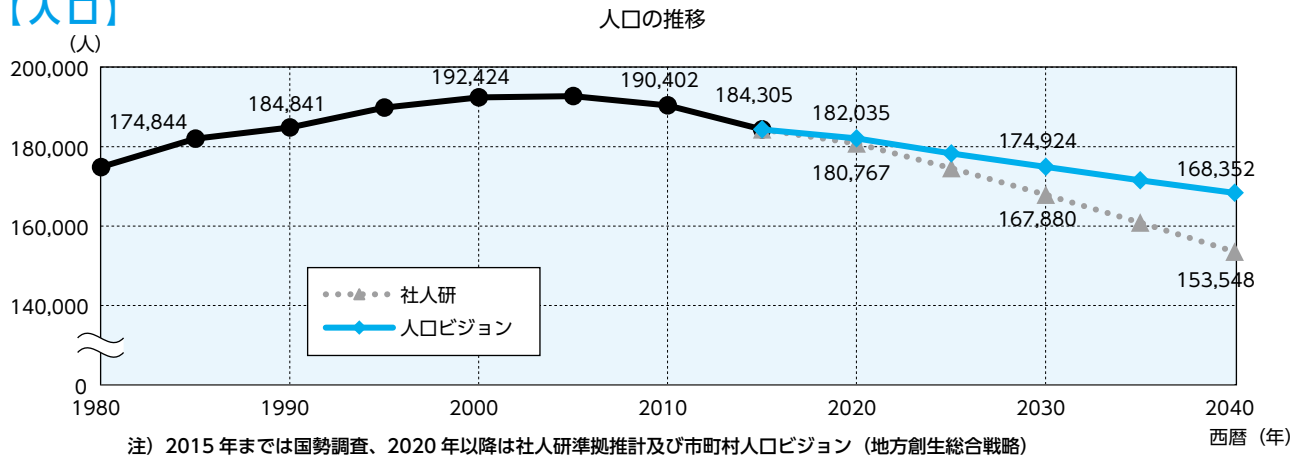
上伊那地域の特性

- ・全国で唯一、二つのアルプス（南アルプス、中央アルプス）を展望できる雄大な山岳景観を有する地域です。
- ・高い技術を持つものづくり産業が集積し、ものづくり産業を中心として経済が発展してきた地域です。
- ・高い品質を誇る米をはじめ、河岸段丘等を利用した多彩な農畜産物の生産が盛んな地域です。
- ・リニア中央新幹線、三遠南信自動車道等の高速交通網や国道 153 号の整備により、新たな発展が期待される地域です。

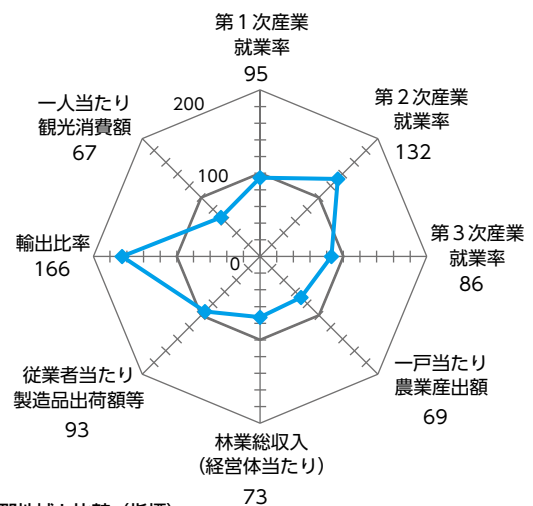
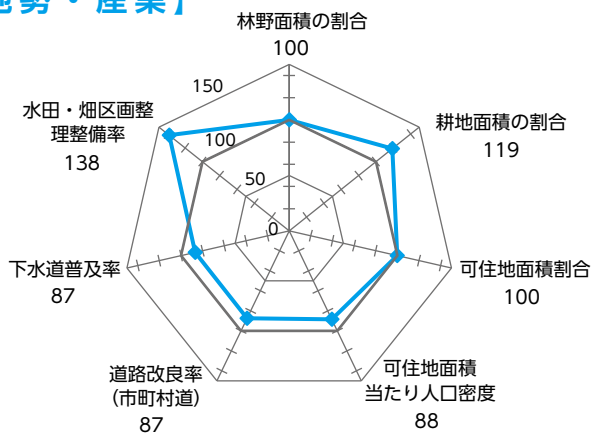
【管内の概況】



【人口】



【地勢・産業】

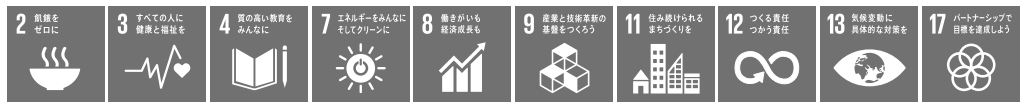


- ・地域全体としての人口は減少しますが、南箕輪村の人口増加が見込まれるなど、将来人口推計による人口減少率は県全体と比較して緩やかに推移します。
- ・地域全体に占める耕地面積の割合が大きく、農業生産基盤の整備も進んでいることから、水田・畑区画整理整備率は県全体を大きく上回っています。
- ・ものづくり産業の集積した地域であることから、第2次産業就業率が比較的高く、輸出比率も県全体を大きく上回っています。
- ・地域への観光は、日帰りが圧倒的に多いことなどから、一人当たり観光消費額は県全体を大きく下回っています。

リニアの時代へ 世界とつながり豊かな暮らしが営まれる伊那谷 (INA Valley)

- ここに生まれた人々が、自分たちの地域を支えながら、安全・安心な環境で健康で生き生きとした人生を送ります。
- 高い技術力を持ったものづくり産業が集積し、地域経済の強固な基盤が築かれています。一方で、良質な米を中心に、多彩で付加価値の高い作物を先進技術を用いて生産する農業が営まれるなど、バランス良く発展した産業により豊かな地域が形成されています。
また、豊かな自然や森林資源、気候風土に適応した農産物などを上手に活用した循環社会の実現に向けた取組が進んでいます。
- リニア中央新幹線や三遠南信自動車道等の高速交通網の整備により大都市や海外との行き来が活発になっています。南アルプスと中央アルプスが創り出す雄大な自然景観、そこで営まれる人々の生活が織りなす伊那谷の風景・風土・風格に魅せられて、多くの人がこの地を訪れます。

地域重点政策



1 “伊那谷らしく” 豊かで活力に満ちた暮らしづくり

災害等に強い安全・安心な地域づくりを進めるとともに、地域の強みを活かした産業を振興するなど、人口減少と高齢化が進む中であっても、多様な主体の連携により、“伊那谷らしく” 豊かに生き生きと暮らせる地域をめざします。

【現状と課題】

- 人口は、2005年の19万2千人をピークに減少局面に入り、現在ではピーク時から1万人減少して18万2千人となり、今後も人口減少と高齢化の進展が見込まれます。
- 地域全体が南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されており、地域防災力の強化と災害に強い地域づくりを進める必要があります。
- 製造品出荷額等は7,214億円で、県全体の12.3%を占め、ものづくり産業が地域経済の基盤となっています。
- 全国トップレベルの品質と単位収量を誇る稲作を中心に多様な作物が生産されており、兼業農家が多い中であって、営農の組織化も進んでいます。
- 地域の8割は森林であり、豊富な森林資源を活用した木質バイオマス*など自然エネルギーの供給地としての役割が期待されています。

【取組内容】

●安全・安心で健康に暮らせる環境の整備

- 南海トラフ地震等の大災害を想定した緊急輸送ルート確保のための道路整備や橋梁の耐震補強を進めるとともに、土砂災害対策などの防災力向上に取り組みます。
- 安全で暮らしやすい環境づくり、安心して子どもを産み育てることができる環境づくり、地域全体で、子ども・若者、高齢者、障がい者を支える仕組みづくりを進めます。
- 医師等医療従事者の確保等により医療体制を強化するとともに、地域包括ケア体制の構築など、安心して健康で長生きできる環境づくりを進めます。

●快適に楽しく暮らせる地域社会の実現

- ・元気な高齢者が、豊かな知識と経験を地域づくりに活かしたり、農業や林業に従事したりすることで地域経済の担い手として主体的に活躍できる環境づくりを進めます。
- ・若者が自ら取り組む「まちなかづくり」や、多様な価値観に基づくライフスタイルを実現できる「田舎暮らし」と「新規就農」、「新規就林」などを支援します。
- ・スポーツ・文化芸術活動を気軽に楽しむことができる環境づくり、地域の独自性を活かしたスポーツ大会や文化芸術イベントの開催などの取組を支援します。



地域に根づくスポーツ文化

●地域の強みを活かした産業の育成・強化

- ・伊那谷の地域特性を活かした複合型・循環型の農業経営の実現、安全・安心でブランド力の高い農畜産物の生産拡大に向けた取組を進めます。
- ・集落営農組織の更なる強化に向け、リーダー・担い手の育成を進めるとともに、園芸品目の導入等による多様な事業展開に向けた取組を支援します。
- ・中山間地におけるドローンや自動運転システムの実用化、スマート農林業の展開など、地域課題の解決に向け、先駆的技術、ICT*やIoT*技術の活用を進めます。
- ・地元企業の優れた技術力を活かす地域オープンイノベーション*体制の構築を進めるとともに、信州大学農学部、南信工科短期大学等との連携により、「I N A V a l l e y 産業支援ネットワーク」を立ち上げるなど、農・商・工の垣根を超えた製品開発等を支援します。
- ・電子・機械関係企業の集積を活かし、看護大学等の学術研究機関とも連携し、ADL*支援産業など健康・医療分野での次世代産業の創出・発展に向けた取組を支援します。
- ・次世代を担う産業集積を進めるため、企業誘致活動や創業しやすい環境づくりを進めます。



自動運転システムの実証実験

●地域資源を活かした循環社会の構築

- ・地域内の学校、宿泊施設・飲食店において地域で生産される多様な農産物の利用を進めるなど、地域全体としての食料自給率向上をめざします。
- ・豊富な森林資源を活用した観光振興、生産品のブランド化と他産業との連携を進め、森林を活用した地域内の経済循環に向けた取組を進めます。
- ・県内生産の大半を占める木質ペレットをはじめとしたバイオマス*の生産・普及拡大、小水力の発電への活用等を進め、エネルギーの「地消地産*」をめざします。



森林資源を活かす木質バイオマス

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
新規就農者数 (上伊那地域振興局調)	17.2人/年 (2012～2016年度)	21人/年 (2018～2022年度)	45歳未満で新たに農業に就業した人の数 [第3期長野県食と農業農村振興計画の目標をもとに設定]
農産物産出額 (農政部調)	211億円 (2015年)	229億円 (2021年)	農業生産活動による最終生産物の総産出額 [第3期長野県食と農業農村振興計画の目標をもとに設定]
林業生産額 (上伊那地域振興局調)	13億円 (2015年)	15億円 (2021年)	木材、特用林産物の林業生産活動による生産額 [現状の15%程度の増を目標に設定]
製造業の従業者一人当たり付加価値額 工業統計調査(経済産業省)	1,185万円/人 (2015年)	1,340万円/人 (2020年)	製造品出荷額等から原材料費、減価償却費等を控除した額を従業者数で除した数値 [過去(5年間)を5ポイント程度上回る伸び率(13%)による増を目標に設定]
企業立地件数(工場・研究所) 工場立地動向調査(経済産業省)	3.8件/年 (2012～2016年)	5件/年 (2018～2022年)	敷地面積1,000㎡以上の工場・研究所の立地件数 [現状の1件増を目標に設定]
木質バイオマス生産量 (上伊那地域振興局調)	ペレット 2,655 t (2016年度)	4,000 t (2022年度)	ペレットの生産量 [現状の1.5倍を目標に設定]
	薪 6,535 層積㎡ (2016年)	11,800 層積㎡ (2022年)	薪の生産量 [過去(5年間)の生産増加量を20%程度上回る増を目標に設定]



2 伊那谷の未来を担う人づくり

地域に根ざしたキャリア教育、地域の教育資源を活用した人材育成や産業教育を展開するなど、地域を愛し、地域に学び、地域の未来を切り拓く人づくりを進めます。

【現状と課題】

- ・信州大学農学部、看護大学、南信工科短期大学校などの教育機関やJICA*駒ヶ根、JOCA*などの人材育成機関が集積しており、これらを十分に活用する必要があります。
- ・地域に愛着を持った人材の育成や、地域外に進学した学生のUターン就職などによる地域を支える人材確保の取組が進められています。

【取組内容】

● 地域を支え社会に貢献できる人材の育成

- ・伊那谷の文化・産業・自然等を理解し、ふるさとに誇りと愛着の持てる人材を育成するため、地域に根ざしたキャリア教育の取組を進めます。
- ・人口減少に対応した高校教育のあり方について地域の意見集約を図るなど、後期中等教育や産業教育のめざすべき方向性について検討を進めます。



農業水利資産による体験学習

- ・ J I C A、 J O C Aの活動等とも連携し、地域に貢献できる人材の育成、グローバルに活躍できる人材の育成を進めます。

●地域産業の未来を拓く人材の育成・確保

- ・ 地元企業等と連携し、地域外へ進学した学生のUターン就職など、地域産業を支える人材確保に取り組むとともに、南信工科短期大学校を活用した「企業人材育成研修」の実施など、高等教育機関とも連携した人材育成を進めます。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
23歳人口の割合（対18歳時） （上伊那地域振興局調）	62.7% （2017年）	75.0% （2022年）	18歳人口に対する5年後の23歳人口の割合 [18歳時人口の4分の3を目標に設定]



3 二つのアルプスを活かした交流圏域づくり

二つのアルプスにより形成される雄大な景観をはじめとした、伊那谷の豊かな資源を最大限に活用した交流圏域づくりを進め、活力に溢れた地域をめざします。

【現状と課題】

- ・ 観光地延利用者数（年間）は475万7千人で、県全体の5.3%にとどまっています。日帰り客の割合が高く、滞在型の観光地づくりが求められています。
- ・ 広域DMO*の設立に向けた取組が進められており、DMOを中心とした広域観光の展開が期待されています。
- ・ 南アルプスや中央アルプスに代表される山岳景観や、ソースかつ丼、ローメン、行者そばやそばガレットといった多彩な食文化などの地域資源を有効に活用して交流の拡大を図る必要があります。

【取組内容】

●伊那谷（INA Valley）の発信

- ・ 二つのアルプスに囲まれ、地域の暮らしが育んだ日本有数のランドスケープ「INA Valley」の価値を更に高めるため、景観育成を進めるとともに効果的な情報発信に取り組みます。



国定公園化をめざす中央アルプス

●二つのアルプスのレベルアップと活用の拡大

- ・ 南アルプスにおいて、引き続き、エコパーク*、ジオパーク*の取組を展開するとともに、植生の保護やアクセスの強化に向けた取組を進めます。
- ・ 中央アルプスにおいて、国定公園化、ジオパーク認定に取り組むなど、高いレベルでの保護と活用に向けた取組を進めます。
- ・ 大城山、入笠山、陣馬形山や萱野高原、鹿嶺高原、宮田高原等の中低山・高原について、アウトドア・自然体験をはじめとした積極的な活用を進めます。



つづら折りを駆け上がるヒルクライム

●伊那谷らしさを活かした広域観光の創出

- ・ソースかつ丼、ローメン、行者そばなどに加え、「信州伊那谷ガレット」などの新たな食文化を創出・発展させるとともに、個性的な食品産業の集積を活かした旅行商品の造成を進めるなど、「食」と「健康」による交流の拡大を図ります。
- ・農家民泊を促進するとともに、体験施設等を有効に活用し、農山村を拠点とした交流の拡大を図ります。
- ・広域DMO*を中心として滞在交流型観光の実現に向けて取り組むとともに、伊那谷全域、木曾・飛騨地域との連携を進め、より広域的な観光流動の創出に向けた取組を進めます。
- ・広域観光を支えるため、国道152号、国道361号等の交通基盤整備、広域交通ネットワークの構築、自動運転システムなど新技術の活用を進めます。



地域食材による「信州伊那谷ガレット」

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
南アルプス延利用者数 観光地利用者統計調査（観光部）	22万人 (2016年)	25万人 (2022年)	鹿嶺高原、南アルプスむら・美和湖、南アルプス北部・分杭峠を訪れた日帰り客、宿泊客の延べ人数 [現状の10%程度の増を目標に設定]
中央アルプス延利用者数 観光地利用者統計調査（観光部）	94万人 (2016年)	103万人 (2022年)	中央アルプス駒ヶ岳（駒ヶ根市）、駒ヶ根高原、中央アルプス横川峡、中央アルプス駒ヶ岳（宮田村）を訪れた日帰り客、宿泊客の延べ人数 [現状の10%程度の増を目標に設定]
中低山・高原延利用者数 観光地利用者統計調査（観光部）	197万人 (2016年)	207万人 (2022年)	伊那西部高原、入笠山、鹿嶺高原、駒ヶ根高原（駒ヶ根市）、萱野高原、大芝高原、陣馬形山、駒ヶ根高原（宮田村）、宮田高原を訪れた日帰り客、宿泊客の延べ人数 [現状の5%程度の増を目標に設定]
観光地延利用者数 観光地利用者統計調査（観光部）	476万人 (2016年)	500万人 (2022年)	管内観光地を訪れた日帰り客、宿泊客の延べ人数 [現状の5%程度の増を目標に設定]
延宿泊客数 観光地利用者統計調査（観光部）	71万人 (2016年)	80万人 (2022年)	管内観光地の延べ宿泊客数 [現状の10%程度の増を目標に設定]



4 リニア開業を見据えた 伊那谷（INA Valley）づくり

国内各都市や海外との交流拡大、新たなライフスタイルによる移住・定住促進など、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道等の交通網整備の効果を十分に活かすことができる地域づくりを進めます。

【現状と課題】

- ・リニア中央新幹線や三遠南信自動車道などの整備により、東京、名古屋をはじめとした国内各地や国際空港などとの時間距離が大幅に短縮されることから、交流の拡大が強く期待されています。
- ・外国人延宿泊者数（年間）は1万6千人で、県全体の1.9%にとどまっています。
- ・移住先としての人気・評価が高い地域であり、リニア中央新幹線の開業なども見据えた移住・定住対策に取り組む必要があります。

【取組内容】

●リニアの整備効果を最大限に活かす地域づくり

- ・移住・定住、U I Jターンを促進するとともに、「リモートワーク」*や「二地域居住」など都市との対流による新たなライフスタイルやリニア中央新幹線を活用した通勤スタイルを提案し、地域に必要な人材の確保を進めます。
- ・JICA*、JOCA*の活動等とも連携し、山岳資源等を活かした国際交流やインバウンド*の拡大を図るとともに、地域企業の国際的な展開やグローバルに活動する企業の立地を促進します。



陣馬形山からの伊那谷展望

●リニアとのアクセス確保と流動の拡大

- ・リニア中央新幹線とのアクセス基盤となる国道153号バイパス（伊那バイパス、伊南バイパス、伊駒アルプスロード）の整備を進めます。
- ・JR飯田線がリニア中央新幹線とのアクセス基盤としての役割を果たせるよう、リニア長野県駅と結節する乗換新駅の設置と速達性の高い列車の運行、観光需要を視野に入れた快適性の高い列車の運行を働きかけます。
- ・リニア中央新幹線の整備効果を県全体に波及させるため、松本、諏訪地域等と結節する国道153号等の整備を進めるとともに、JR飯田線とJR中央本線との円滑な連絡を働きかけます。
- ・リニア中央新幹線とのアクセスのあり方について、必要な調査・研究を行い、「リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議」において方向性を明らかにします。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
移住者数 (企画振興部調)	227人 (2016年度)	350人 (2022年度)	新規学卒Uターン就職者や数年内の転出予定者などを除く県外からの転入者 [現状の1.5倍程度を目標に設定]
外国人延宿泊者数 外国人延宿泊者数調査(観光部)	16千人 (2016年)	48千人 (2021年)	外国人の延べ宿泊者数 [現状の3倍を目標に設定]

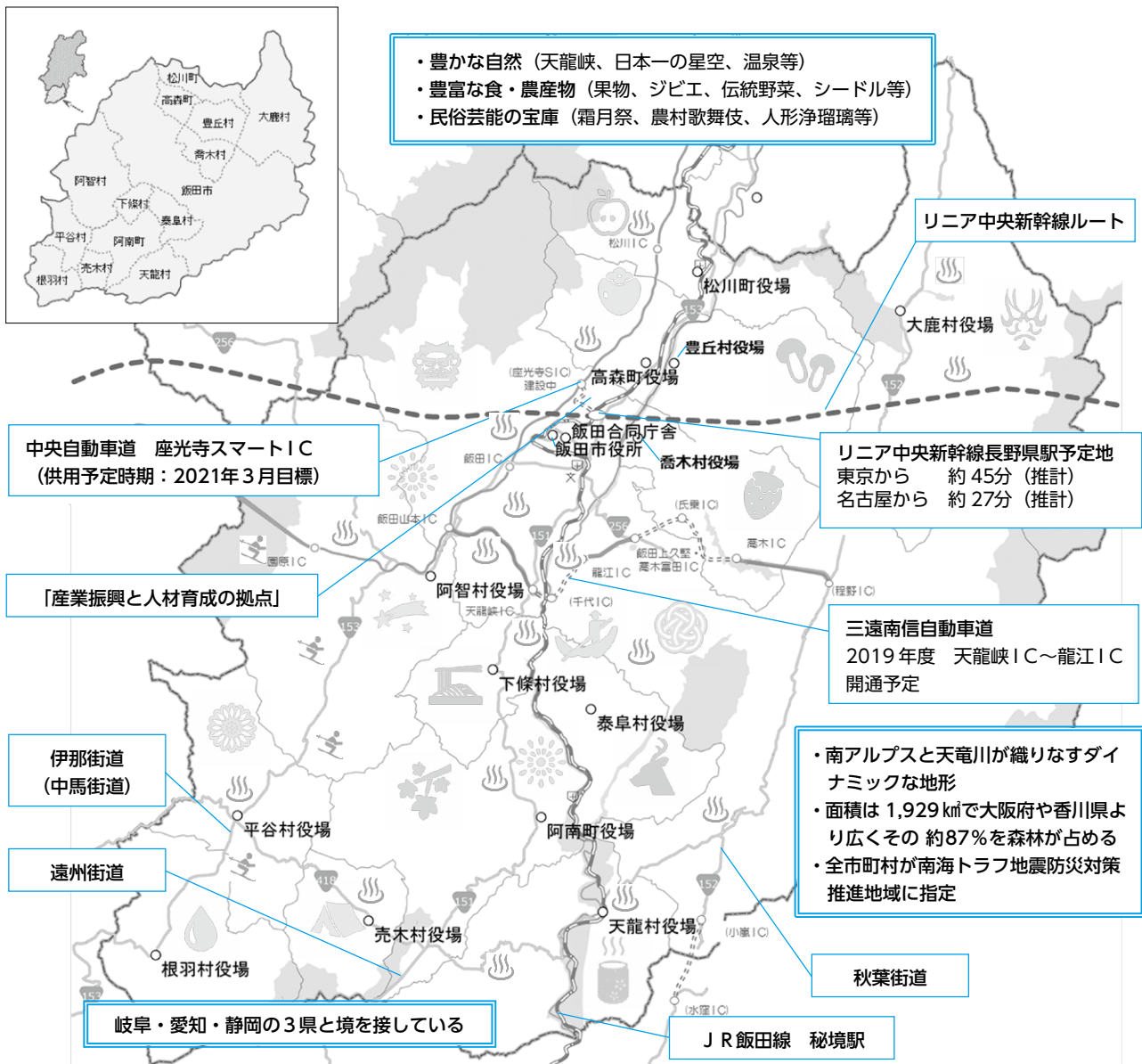
【将来目標】

指標名	現状	目標	備考
東京との時間距離 (建設部リニア整備推進局調)	168分 (2017年)	81分 (2027年～)	伊那市～東京間の最短時間

南信州地域の特性

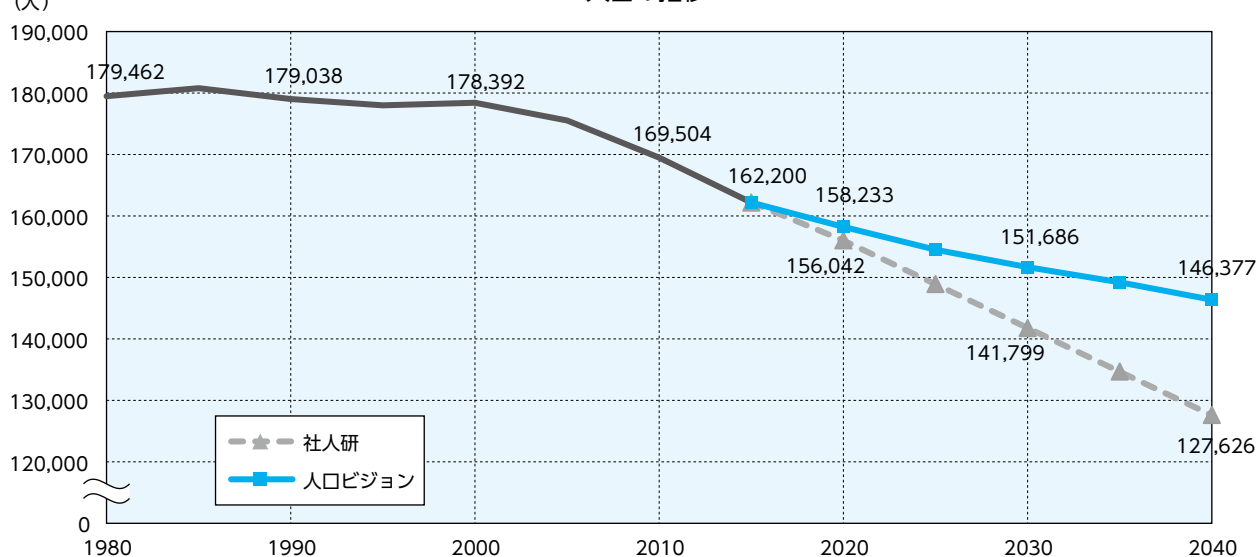
- ・古くから三河（愛知県）や遠州（静岡県）と信州を結ぶ南の玄関口として発展してきました。豊かな自然環境の中、特色ある伝統文化が育まれ、人形芝居や農村歌舞伎等の民俗芸能が数多く点在し、「民俗芸能の宝庫」と呼ばれています。
- ・産業は、精密加工技術が集積し、それを活かした航空宇宙プロジェクトなど次世代産業の取組が進むとともに、水引や半生菓子等の地場産品の製造や、温暖な気候・中山間地域の地勢を活かした多様な農林畜産物の生産が行われています。
- ・高齢者就業率はトップクラス、健康長寿でいきいきと暮らす人が多く、高齢化が進む中において他地域のモデルとなり得る可能性を有しています。
- ・2027年にはリニア中央新幹線及び飯田市内の長野県駅の開業が予定され、三遠南信自動車道（飯田市～静岡県浜松市）の整備も進むことで、ヒト・モノの交流が飛躍的に増大することが予想されます。

【管内の概況】



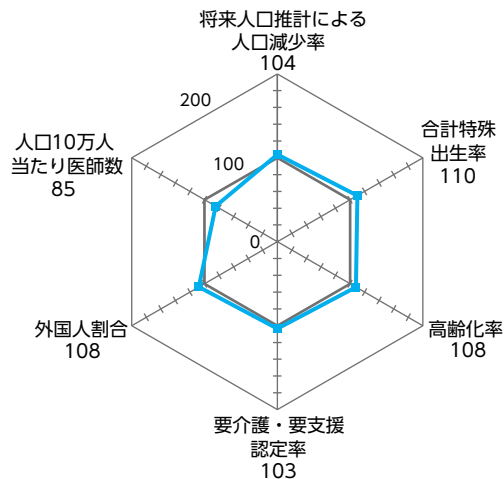
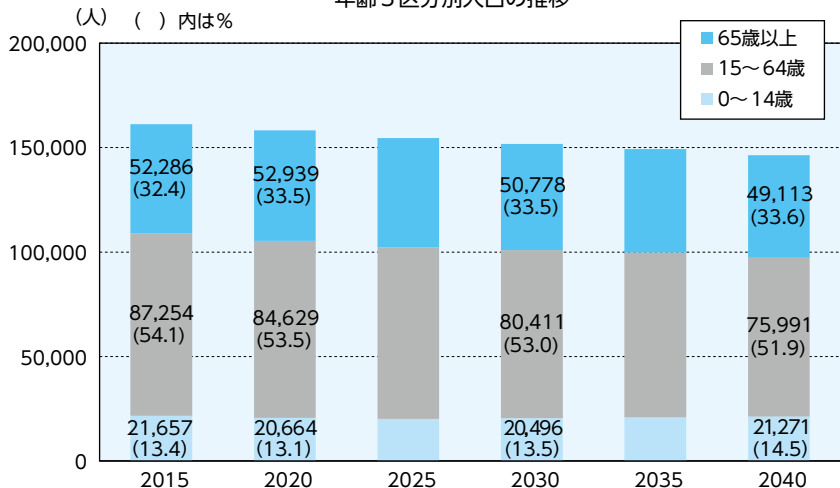
【人口】

人口の推移

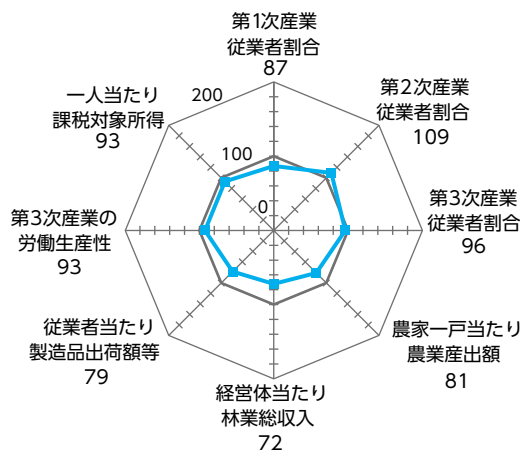
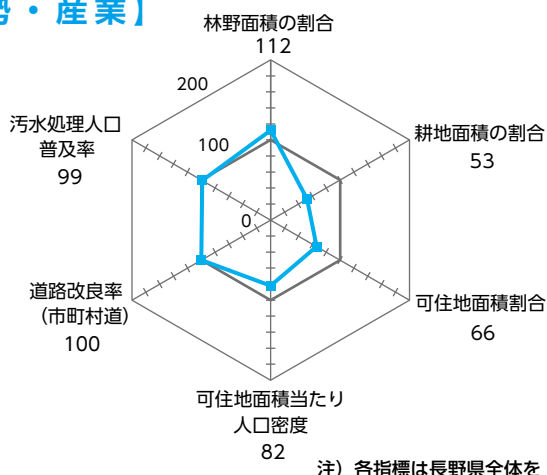


注) 2015年までは国勢調査、2020年以降は社人研準拠推計、及び市町村人口ビジョン (地方創生総合戦略)

年齢3区分別人口の推移



【地勢・産業】



注) 各指標は長野県全体を100として南信州地域と比較 (指数)

- ・人口は、信州創生戦略及び市町村人口ビジョンに沿って人口減少に歯止めをかける政策を講じることにより、2040年に約14.6万人 (社人研準拠推計+約1.8万人) となる見込みです。
- ・全県と比較して高齢化率が高く、65歳以上人口の割合は2020年度以降約34%で推移する見込みです。
- ・地勢・産業は、全県と比較して「農家一戸当たり農業産出額」「経営体当たり林業総収入」が低く、農林業の収益性の向上が課題です。また、「従業者当たり製造品出荷額等」が低く、製造業の労働生産性の向上が課題です。

伝統と最先端が響き合う「リニア新時代」のフロンティア～南信州～

【「リニア新時代」の南信州地域の姿】

10年後に迫るリニア中央新幹線の開業により、飯田市内の長野県駅へ東京から約45分、名古屋から約27分で到着できるようになり、大都市圏との移動時間が大幅に短縮します。加えて、三遠南信自動車道の整備により、飯田市から静岡県浜松市の所要時間が大幅に短縮され、南信州地域と遠州地域とのアクセスが格段に向上します。まさに、南信州地域の新たな時代の幕開けであり、地域の更なる発展が期待されています。

このような地の利を活かし、三大都市圏によるスーパー・メガリージョン*の一翼を担うとともに、「リニア新時代」にふさわしいフロンティアとなるべく、次のような地域をめざします。

○「研究開発型企業の集積地域」

- ・大学、公設研究機関、ベンチャー企業等が同居した研究開発支援拠点の整備
- ・県外企業が研究開発部門を移転、地域企業が研究開発分野に進出
- ・航空宇宙、次世代自動車、医療・バイオ等の成長分野に取り組む企業が集積

○「交流の一大拠点地域」

- ・リニア中央新幹線長野県駅や三遠南信自動車道とのアクセス道路網、コンベンションセンター・アリーナ等の整備
- ・MICE*の誘致やインバウンド対応による国際交流、広域観光の拠点

○「ICT*活用教育・学びの先進モデル地域」

- ・超高速通信回線の整備促進により、地域内の小規模校を含む全ての小・中学校で、ICTを活用した先進的教育環境を整備し、ICTと南信州地域の特性（豊かな自然環境、伝統文化等）を融合させた特色ある学びを实践
- ・遠隔生涯学習講座など、ICT環境を地域住民の学びの基盤として利活用

○「二地域居住やU・I・Jターンの全国モデル地域」

- ・大都市圏との時間短縮効果と大自然との近接性を活かした「行ってみたいまち、住んでみたいまち」＝「南信州」ブランドの確立
- ・サテライトオフィス等による遠隔勤務、二地域居住やU・I・Jターンなど多様なライフスタイルを営む拠点

【今後5年間の「めざす姿」と「地域重点政策」】

「リニア新時代」の将来像を見据え、今後5年間でめざす当地域の姿と、重点的に取り組む政策（地域重点政策）を次のとおり掲げます。

1 地域の潜在力を活かした産業が躍進する南信州

- ・新たな成長産業の振興、産業人材づくり
- ・地域の特性を活かした地場産業・農林業の振興
- ・南信州地域が一体となった広域観光の推進

2 豊かな自然・文化と共生し、人と地域が輝く南信州

- ・南信州地域が一体となった移住定住・郷学郷就の推進
- ・交流を促進するまちづくり・交通基盤整備
- ・南信州地域の「伝統文化」の保存・継承と活用

3 安全・安心な暮らしが実現できる南信州

- ・健康で暮らせる地域づくりと地域医療の充実
- ・誰もが生きがいを持ち、支え合う社会の形成
- ・災害に強い基盤整備の推進・地域防災体制づくり

また、めざす姿の実現に向けて、次の「基本的視点」のもとに、地域重点政策を展開していきます。

- ① 南信州の「強み」を伸ばし、「魅力」を更に高める
- ② 南信州としての「一体的な取組」を進める
- ③ 県境及び圏域を越えた連携を推進

地域重点政策



1 地域の潜在力を活かした産業が躍進する南信州

【現状と課題】

- ・労働生産性が県平均以下で、事業所数も減少傾向が続いており、新たな成長産業への事業展開の促進や地場産業の更なる振興と域外展開が必要です。
- ・高等学校卒業後に進学等により地域を離れる若者が多い中、地域産業の将来を担う人材の確保と育成が必要です。
- ・消費者ニーズの高い品目や新たな品種への転換等により、高品質で競争力の強い果樹産地づくりが必要です。
- ・収穫期に入った豊富な森林資源の利活用に向け、林業の収益性向上や間伐の促進に加え、地域材等の需要拡大や販路開拓が必要です。
- ・観光客数と観光消費額は減少傾向であり、地域内に点在する小規模ながら魅力的な観光地を活かすため、地域が一体となった広域観光の振興施策の推進が必要です。

【取組内容】

● 新たな成長産業の振興、産業人材づくり

- ・旧飯田工業高等学校の施設を利用した「産業振興と人材育成の拠点^注」等での、航空機産業をはじめとする成長期待分野や精密加工組立技術を活用した先進的のものづくり分野に取り組む人材の育成、企業の技術開発や設備投資等を支援します。
- ・南信州地域の企業・就職情報の一層の充実を図るとともに、東京・名古屋でのU・Iターン希望者向けの就職支援や、進学前の高校生や保護者を対象にした地元就職への意識付けに取り組みます。

注：2016年度から旧飯田工業高等学校の跡地を活用して整備が進められている施設で、信州大学航空機システム共同研究講座、長野県工業技術総合センター航空機産業支援サテライト、南信州・飯田産業センター等が集約されている。

● 地域の特性を活かした地場産業・農林業の振興

- ・水引や半生菓子など伝統技術を活用した地場産業の新市場の開拓、ブランド化等を支援します。
- ・市田柿のブランド力強化への取組やりんごの新品種「シナノリップ」など果樹県オリジナル品種の戦略的拡大により、管内最大の生産品目である果樹の更なる生産振興を図ります。
- ・シードルの製造など6次産業化の取組を支援し、農業の高付加価値化を図ります。
- ・ていざなす等の伝統野菜を含め、地元農林畜産物の更なる認知度の向上と安定生産を促進します。
- ・林業の収益性向上や間伐推進を図るため、路網整備や高性能林業機械の導入を支援するとともに、市町村等がめざす森林認証取得や森林認証材の普及啓発・ブランド化の支援等を通じ、地域材の流通拡大を促進します。

● 南信州地域が一体となった広域観光の推進

- ・南信州地域が一体となった観光地域づくりを推進するため、観光戦略の策定と戦略に基づくプロモーションを実施する地域連携DMO*の設立を支援します。
- ・市町村や関係団体等と連携し、農林業や伝統工芸等の体験型観光やシードル等の観光資源を有機的につないだ周遊・滞在型観光プランづくりに取り組みます。
- ・周遊観光客の増加をめざし、隣接する愛知県東三河・静岡県遠州地域や上伊那・木曾地域と共同で情報発信を行いながら連携を深め、周遊モデルづくり等に取り組みます。



航空宇宙産業クラスター拠点工場



市田柿かきのれん

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
シードルの醸造量 (南信州地域振興局調)	40.0kl (2016年度)	55.0kl (2022年度)	南信州地域の醸造所におけるシードル(りんごワインを含む)の醸造量 [管内事業者への聞き取り調査をもとに設定]
観光消費額 観光地利用者統計 (観光部調)	97.7億円 (2016年)	108.5億円 (2022年)	管内の観光地内で観光旅行者が支出した宿泊費、交通費、飲食費等の総計 [観光地利用者数と1人当たり観光消費額の増加を見込み設定]
柿の栽培面積 (農政部調)	517ha (2016年度)	542ha (2022年度)	南信州地域における柿の栽培面積 [農業生産団体の目標をもとに設定(4ha/年(5年間で約20ha)の拡大)]
素材(木材)生産量 (林務部調)	34,554m ³ (2015年)	40,000m ³ (2022年)	建築・チップ用等に使用される木材(丸太等)の生産量 [搬出間伐面積の伸びや木質バイオマス利用の見込みを勘案し設定]



2 豊かな自然・文化と共生し、人と地域が輝く南信州

【現状と課題】

- ・若者世代が進学や就職等により地元を離れ、極端に少なくなっています。
- ・リニア中央新幹線開業や三遠南信自動車道整備を見据えた道路ネットワークの整備が必要となっています。
- ・南信州地域の貴重な資産である民俗芸能が、地域コミュニティの弱体化等に伴う後継者の減少や不在から、存続の危機にさらされています。
- ・豊かな自然や景観、特色ある伝統文化、いきいきと暮らす人々の存在など、南信州地域の「財産」を活かした移住者や交流人口の増加に向けた取組が必要です。

【取組内容】

●南信州地域が一体となった移住定住・郷学郷就の推進

- ・県・南信州広域連合・市町村で構成する「南信州暮らし」応援隊が主体の大都市圏での移住セミナーを開催し、南信州暮らしの魅力や仕事・住居等の情報を効果的に発信します。

- ・南信州地域の企業・就職情報の一層の充実を図るとともに、東京・名古屋でのU・Iターン希望者向けの就職支援や、進学前の高校生や保護者を対象とした地元就職への意識付けに取り組みます。
- ・農業に興味を持ち南信州地域へ移住を希望する方を対象とした体験型研修を実施するなど、南信州地域での「農ある暮らし」の定着を推進します。
- ・地域住民の生涯学習の取組や、市町村や地域づくり団体の行う、地域の歴史や文化、産業を学び、地域への愛着を深める取組を支援します。
- ・飯田O I D E長姫高等学校で実施している「地域人教育」や「自分たちでつくろうプロジェクト」など、地域課題に関わり実体験を伴う探究的な学びを促進します。
- ・市町村の行うICT*活用教育や中山間地域の特性を活かした学び等の先進的な取組を支援します。

●交流を促進するまちづくり・交通基盤整備

- ・リニア中央新幹線へのアクセス道路の整備や駅周辺整備、三遠南信自動車道へのアクセス道路及び三遠南信自動車道現道活用区間の整備を進めます。
- ・リニア中央新幹線開業を見据えたコンベンションセンター・アリーナ等の整備について、南信州広域連合等とともに検討します。
- ・交通弱者に配慮した効率的な交通体系の構築に向けて、南信州地域交通問題協議会や市町村が行う地域公共交通の確保・維持のための取組を支援します。
- ・日常生活や産業、教育など様々な活動の基礎となる情報通信基盤の整備や情報通信技術の利活用を促進します。
- ・公民館活動をはじめとした、地域住民が学びや交流を通じて自ら課題を発見し、その解決に向け自主的・主体的に取り組む地域づくり活動を支援します。
- ・南信州広域連合と市町村が推進する、都市企業との交流による地域の課題解決の取組など、南信州地域と関わりを持つ「つながり人口」の拡大に向けた取組を支援します。
- ・地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」の推進やレジ袋の削減、エコドライブの推進など、南信州地域の先駆的取組を活かした環境にやさしいライフスタイルへの転換を図るとともに、道路アダプトシステム*や竹林整備等による環境美化・景観育成を促進し、更なる環境先進地域づくりに取り組みます。

●南信州地域の「伝統文化」の保存・継承と活用

- ・「南信州における民俗芸能継承のための基本方針^注」に基づく、民俗芸能団体や継承推進組織の行う担い手確保等の取組を支援します。
- ・民俗芸能の保存・継承に協力し支援いただける南信州民俗芸能パートナー企業の登録拡大を推進します。
- ・地域づくり団体等の行う、地域の特色ある伝統食材や郷土料理等の保存・継承のための取組を支援します。

注：民俗芸能の継承のために地域全体で推進すべき取組の方向性を示したもの。
民俗芸能団体や行政機関等で構成する「南信州民俗芸能継承推進協議会」が策定。



タブレットを活用した授業



三遠南信自動車道天龍峡大橋（仮称）



信州のチロル 下栗の里



大島山獅子舞

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
移住者数 (企画振興部調)	152人 (2016年度)	212人 (2022年度)	新規学卒Uターン就職者や数年内の転出予定者等を除く県外からの転入者 [県全体の目標をもとに設定]
リニア中央新幹線関連道路の供用開始箇所数 (建設部調)	0箇所 (2016年度)	3箇所 (2022年度)	リニア中央新幹線の関連道路のうち、2022年度までに供用開始される箇所数 [長野県リニア活用基本構想に基づき、リニア関連道路として整備をめざす箇所]
南信州民俗芸能パートナー企業登録企業・団体数 (南信州地域振興局調)	18企業・団体 (2016年度)	70企業・団体 (2022年度)	民俗芸能の保存・継承に協力し支援を行う南信州民俗芸能パートナー企業に登録された企業・団体数 [現在の取組状況をもとに設定]



3 安全・安心な暮らしが実現できる南信州

【現状と課題】

- ・ 全県と比較して65歳以上の人口割合が高く、高齢化が進んでいますが、高齢者の就業率はトップクラスとなっています。
- ・ 人口10万人当たりの医師数は県平均以下であり、加えて医師の高齢化による地域医療への影響が懸念されています。また、在宅医療を支える医療・介護従事者の確保が必要で、特に中山間地域への支援が必要となっています。
- ・ 増加する要介護高齢者と生活に困窮する高齢者世帯への対応が必要です。
- ・ 全市町村が南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されており、また、土砂災害等が発生しやすい複雑な地形を有することから、地域の防災力の向上が求められています。

【取組内容】

●健康で暮らせる地域づくりと地域医療の充実

- ・ 信州食育発信3つの星レストランの登録店舗の拡大など、健康に配慮した食環境整備を進めることにより、地域住民の健康づくりを推進します。

- ・分娩取扱機関の開設支援等により周産期医療体制の充実を図ります。
- ・飯田下伊那診療情報連携システム (ism-Link) *などICT*を活用した情報共有ツールの利用拡大等により、在宅医療・介護の連携を強化します。
- ・地域独自の医療職合同就職ガイダンスの開催など医療・介護従事者確保に向けた取組を進めます。

●誰もが生きがいを持ち、支え合う社会の形成

- ・延長保育・病児保育の取組や子どもの居場所づくりなど、子どもを安心して産み、育てやすい環境づくりを促進します。
- ・要介護高齢者の増加に対応した施設・居宅など介護サービス基盤の整備を支援するとともに、高齢者の就労や社会参加活動の支援など人生二毛作社会の実現に向けた取組を進めます。
- ・信州パーソナル・サポート事業の自立相談支援をはじめ、障がい者、生活困窮者、ひとり親家庭の親など就労機会を得ることが困難な方の自立を支援する取組を推進します。

●災害に強い基盤整備の推進・地域防災体制づくり

- ・緊急輸送路の防災対策強化や河川の治水対策、砂防施設等の施設整備や山地災害危険地区の整備を推進するとともに、住宅や建築物の耐震化を促進します。
- ・道路施設の長寿命化や土地改良施設の補修・更新を推進します。
- ・防災訓練等の実施により地域防災体制の強化を図るとともに、静岡・愛知県との防災連携会議や合同訓練により、県境を越えた応援・受援等を実施できる体制を確保します。



シニア大学卒業式



主要地方道飯田富山佐久間線道路防災工事

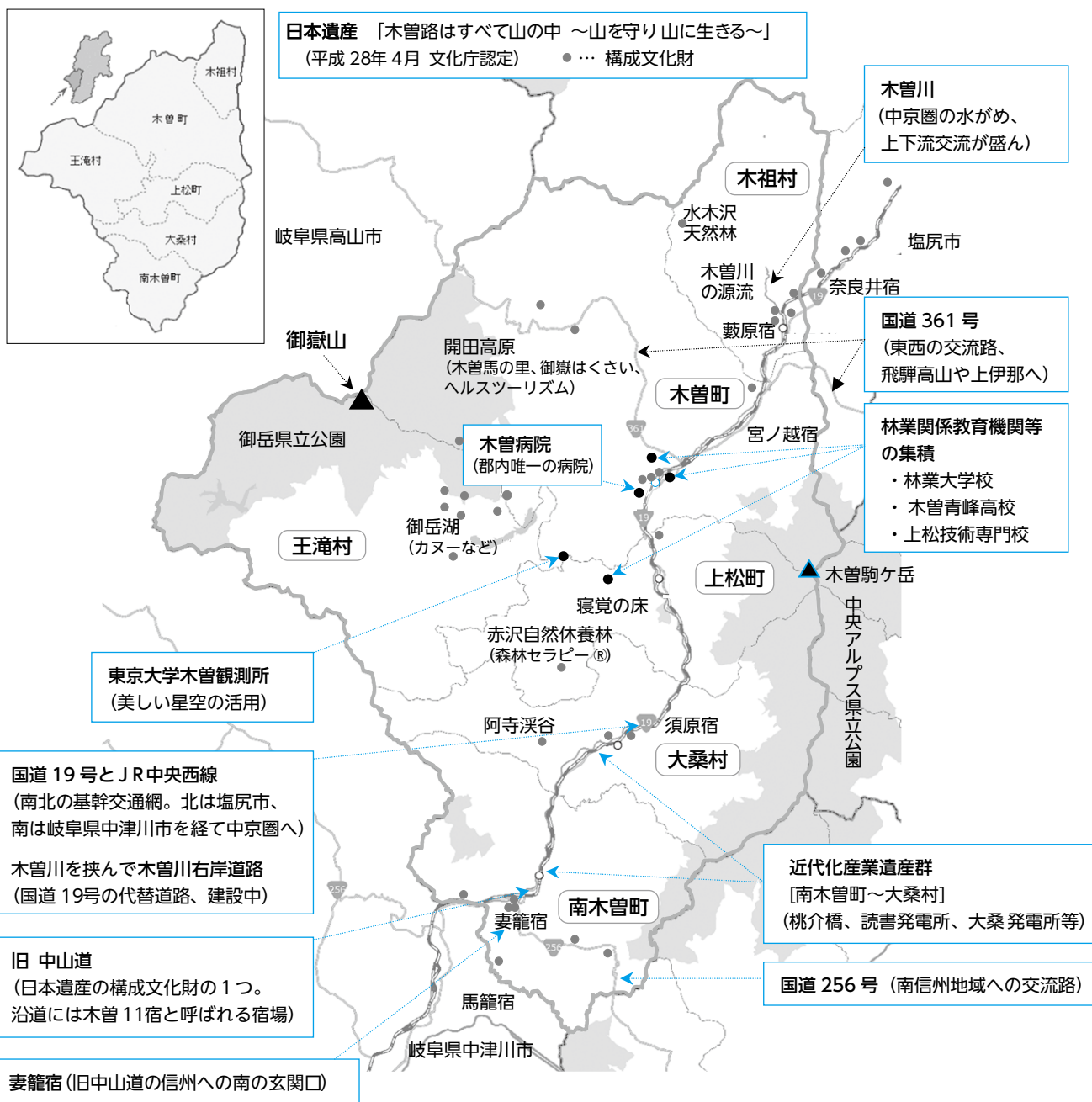
【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
人口10万人当たり医療施設従事医師数 医師・歯科医師・薬剤師調査（厚生労働省）	188.4人 (2016年度)	200人以上 (2022年度)	南信州地域の人口10万人当たりの医療施設従事医師数 [第2期信州保健医療総合計画の目標をもとに設定]
シニア大学卒業後の社会参加活動への参加意向率 (公財)長野県長寿社会開発センター調	49.2% (2016年度)	60.0% (2022年度)	シニア大学卒業後にボランティア活動や市民活動等へ参加する意向を示す人の割合 [県事業の目標(年2%増)をもとに設定]
住宅の耐震化率 (建設部調)	75.7% (2015年度)	90.0% (2020年度)	耐震化された住宅の割合 [長野県耐震改修促進計画(第Ⅱ期)の目標をもとに設定]

木曾地域の特性

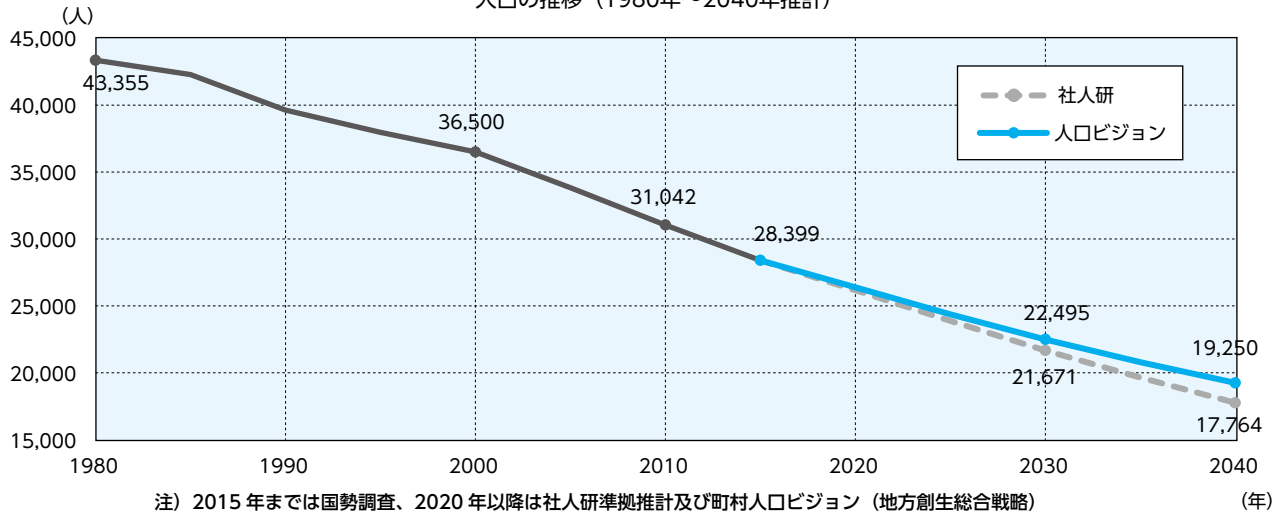
- ・御嶽山、木曾駒ヶ岳や高原、渓谷、美しい星空など、豊かな自然に恵まれています。
- ・国道 19 号と J R が南北に縦断し、中京圏へのアクセスが良好です。また国道 361 号や 256 号が東西を横断し、南信地域や岐阜県高山市などにつながっています。
- ・木曾川の源流を有し、下流域である中京圏との上下流交流が盛んです。
- ・面積の約 93% を森林が占め、林業・木工関係の学校等が集積しています。
- ・「日本遺産」* に認定された旧中山道や宿場、渓谷などの自然美、伝統工芸など優れた観光資源が豊富です。
- ・人口減少が著しく (H22 国調 31,042 人→H27 国調 28,399 人：△ 8.5%)、今後、町村の推計でも 2040 年には 2 万人を下回ると見込まれています。
- ・活火山である御嶽山麓や山間・谷あいの地域は自然災害のリスクを抱えています。

【管内の概況】

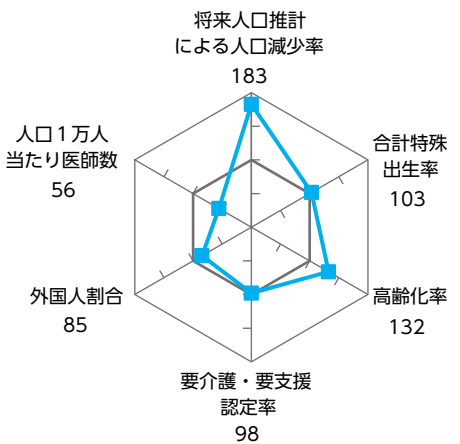
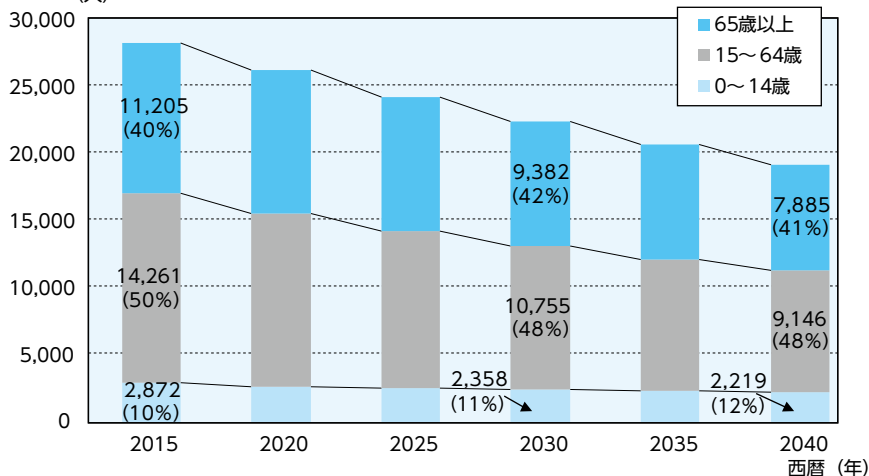


【人口】

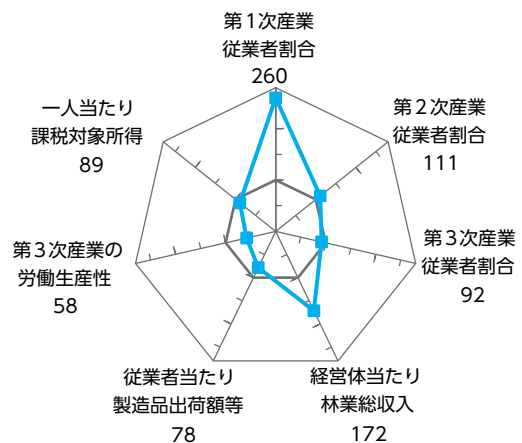
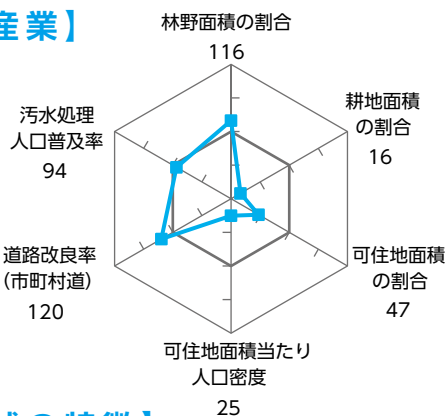
人口の推移（1980年～2040年推計）



年齢3区分別人口の推移（2015年～2040年推計）



【地勢・産業】



【木曾地域の特徴】

- 【人口】 木曾地域は人口減少率が高く、各町村が人口ビジョンに基づき対策を行うことにより減少幅は緩やかになりますが〔折れ線グラフ：青線〕、それでも2040年には2万人を切ると見込まれています。また、人口1万人当たり医師数が県平均の約半分と少ない状態です。〔レーダーチャート：県100に対し56〕
- 【地勢】 山間・谷あいの地形のため、耕地面積や可住地面積の割合がかなり小さくなっています。〔レーダーチャート：県100に対し、耕地面積の割合16、可住地面積の割合47〕
- 【産業】 県平均に比べ、第1次産業（農林漁業）従業者の割合が高く〔レーダーチャート：県100に対し260〕、林業総収入（経営体当たり）も大きい〔同172〕一方で、第3次産業の生産性は低い状況です〔同58〕。

人口減少下でも「木曽らしい」上質な生活が安全に営め、自己実現ができる地域であり続けるために

御嶽山が気高くも優しく人々を迎え、木曽川の清流は安らぎを与えている。圧倒するばかりの山々の緑は、地域に安全と豊かさをもたらしている。歴史を感じさせる街道のたたずまいに、住民や旅人が優しい眼差しをかわして行き交い、子どもたちが元気な挨拶をして通り過ぎる。以前にも増して、この地域の景観や雰囲気は、国内外の人々の共感を得るものとなっているようだ。ここでは、自分が自分でいられる。夜には息をのむ星々が天空に煌めく山と谷の集落に、穏やかな時が流れている。

広大な森林と木曽川の水源を擁する美しく豊かな自然、街の景観、祭りなどの伝統文化、人と人とのつながりや治安の良さなど、木曽の強み、「木曽らしさ」が木曽の人々により守られ、時を超えて引き継がれています。

御嶽山の防災対策が進み、活火山の特徴を理解しながら多くの登山者が訪れています。その中で、豊富な地域資源を活かした観光産業や木曽川の上下流交流が地域に活力を生み、住んでよし、訪れてよしの地域づくりが進んでいます。

森林・林業、木材加工業が復興し、地域に豊かさをもたらすとともに、人材育成のメッカとして全国的にも高い評価を得ています。

製造業やサービス業は確かな雇用で地域経済を支え、農業は後継者が育って特色ある営みがなされ、人々は安定した所得を得て暮らしています。

「木曽らしさ」に魅かれた人たちが移住し、自己実現の場を得ています。若者や子育て世代、人生の先輩など様々な人たちが、地域づくりに積極的に関わっています。子どもたちはのびのびと育ち、地域を知り、将来の選択肢の中に、地域で暮らす自分を思い描くことができます。

夢の実現に必要な基本的な力を、地域の小・中・高校、特別支援学校で身に付けることができます。林業大学校、上松技術専門校、信州木曽看護専門学校では、実践的で高度な技能・技術を習得できます。こうして木曽地域で「郷学郷就」が実現しています。

人口減少社会においても、医療、教育、地域交通などの基本的な生活基盤や経済活動基盤が維持され、人々は「木曽らしい」質の高い生活を安全に営んでいます。

地域重点政策



1-1 「木曽らしさ」を活かした地域づくり

～日本の宝である「木曽の森林」や林業・木工関係教育機関等の集積を活かす～

- ・木曽を日本の林業・木工関係人材育成のメッカとするとともに、地域での就職・起業を促進し人材の定着を図ります。
- ・林業の体制整備と生産性向上、高付加価値化を進め、産業としての林業振興を図ります。
- ・伝統工芸など木工技術の継承と木材加工業の展開を支援します。

【現状と課題】

- ・木曽地域は総面積の93%を森林が占めています。天然の木曽ヒノキが希少となる一方、高品質な人工林の木曽ヒノキやカラマツの蓄材が進んでいます。

- ・林業大学校、上松技術専門校、木曾青峰高校という、森を守り、育て、利用する「学びの場」が集積しています。
- ・林業事業体では人材の確保とともに、林業の高度化・生産性の向上が求められています。一方、上記学校を卒業後、地元で就業する者は1～2割程度にとどまっています。
- ・製材業の製品出荷量は低減傾向にあります。また、木を活かした伝統工芸技術も継承に課題が生じつつあります。

【取組内容】

●林業、木材加工業の高付加価値化 …「地域内6次産業化」を推進

- ・間伐材を丸太のままではなく製材加工するなど、地域内で「付加価値」を高める体制づくりに取り組みます。
- ・人工林木曾ヒノキや「信州プレミアムカラマツ*」のブランド化を進めます。また、木曾産材の優れた特徴を積極的に発信します。
- ・森林整備等にもつながる木質バイオマス*燃料の活用を促進します。
- ・木曾の優れた人材（クラフトマン）や素材（木曾ヒノキなど）、伝統工芸技術等を活かした新製品の開発とPR、流通体制の整備を支援します。
- ・森林浴発祥の地であることを活かし、森林セラピー®*など森や木と触れ合う体験を取り入れた健康と観光との連携を図ります。

●林業・木工関係人材育成の拠点形成 …「林業・木工を学ぶなら信州木曾へ」

- ・豊かな森林、林業の歴史や技術の蓄積に加え、「学びの場」の集積を活かして、全国でトップクラスの林業・木工関係の人材育成拠点化をめざします。
- ・林業大学校、上松技術専門校、木曾青峰高校がカリキュラム等で有機的に連携し、信州大学等の協力も求めながら、木曾の強みを活かした日本最高レベルの専門的教育や技能訓練を提供します。
- ・卒業生の地域就業と定住を促進します。



スギの間伐作業



森林の景観整備作業



1-2 「木曾らしさ」を活かした地域づくり

～日本遺産にも認定された、優れた「観光資源」を活かす～

- ・平成 26 年の御嶽山噴火災害等で減少した観光客の入り込みを回復させます。
- ・世界に通用する「木曾ブランド」を再構築し、木曾らしい景観・雰囲気の中を国内外の人々が行き交う木曾路の実現を進めます。
- ・観光関係者が連携して地域資源の発掘や磨き上げを行い、観光客の満足度を高めます。

【現状と課題】

- ・木曾地域は豊かな自然や歴史、「日本遺産」に認定された文化遺産など豊富な観光資源に恵まれています。また、大都市（中京）圏からのアクセスも比較的良好です。
- ・観光客の入り込みは、平成 6 年をピークに低落傾向にありましたが、さらに平成 26 年の御嶽山噴火災害で大きく落ち込み、災害前の水準まで戻っていません。

【取組内容】

●御嶽山噴火災害からの観光復興

- ・木曾観光復興対策協議会の活動など、災害からの観光復興を支援・推進します。

●観光地域づくり…木曾ブランドの再構築と発信、連携による広域観光を推進

- ・「日本遺産」を活かして、世界に通用する「木曾ブランド」の再構築を進めるとともに、木曾路固有の魅力の国内・世界へ向けた発信を推進します。（JAPAN といえば TOKYO, KYOTO, “KISO” ,…）
- ・「木曾路の眺望景観整備基本方針」に基づき、国道 19 号や J R 沿線、木曾川沿いなどの「眺望景観」の整備を進めます。
- ・広域的な地域 DMO* の展開を支援するとともに、観光人材を継続的に育成します。
- ・木曾の観光地を組み合わせ、また、地域外とも組み合わせる滞在時間を延ばした観光を推進します。
例) 「上伊那・南信州地域、岐阜県東濃・飛騨地域との広域観光ルート」（リニア中央新幹線開通を視野に）、「金沢・飛騨高山・木曾ルート」（伝統文化を楽しむインバウンド*の定番コースに）
- ・始点から終点まで安全に歩いて楽しめる中山道・木曾路（中山道・木曾路トレイル）の整備と発信、「宿場」の活用を推進します。
- ・東京大学木曾観測所と連携し、美しい「星空」を活用した観光を推進します。
- ・海外の学校との交流を通じた、木曾の歴史と文化の発信を推進します。
- ・「すんき」などの発酵食品や「木曾産そば」「木曾牛」「御嶽はくさい」など、木曾ならではの食を活かした地域ブランディングを推進するとともに、地産地消を促進します。
- ・御岳県立公園の公園計画を、保護と利用の両面から、地域の意見を取り入れながら改定します。



赤沢自然休養林



妻籠宿

2 「御嶽山」の安全対策の推進と土砂災害の防止等 ～時間経過による風化ではなく、着実に前進していく～

- ・御嶽山を、人々が火山であるという認識のもと安心して登れる山とするため、ハード・ソフトの防災対策を進めるとともに、噴火に備えた対応力の向上を図ります。
- ・土砂災害や地震などの自然災害に対する防災・減災力を高めます。

【現状と課題】

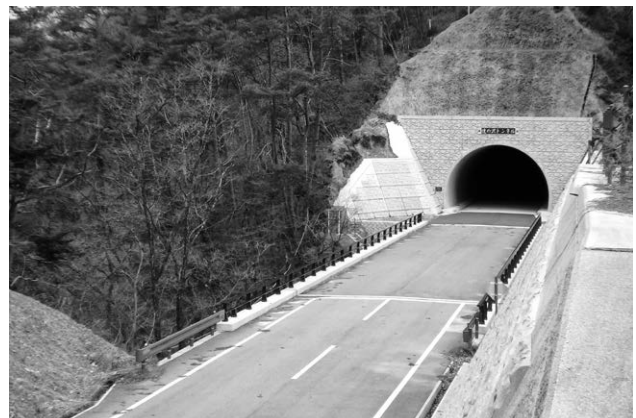
- ・御嶽山は敬愛を込めて「おやま」と呼ばれ、古より木曾地域内外の人々の心の拠り所として多くの人々が登山し、観光の拠点ともなっています。しかし、平成26年の噴火災害が示すように活火山ゆえの危険性もはらんでおり、観光客、特に登山者に対する安全性の向上が課題となっています。
- ・木曾地域は急峻な山々に面した谷あいの集落が多く、平成26年の梨子沢土石流災害など豪雨による土砂災害の危険性が高いことから、ハード・ソフト両面において地域全体での防災・減災対策が必要です。

【取組内容】

- 「御嶽山」安全対策の充実 …大きな犠牲を生んだ災害の地として、火山防災の先進的な取組を推進
 - ・地域の拠点であり県立自然公園でもある御嶽山を、再び地域内外の人々が安心して登れる山とするため、関係機関が連携し、安全対策を着実に進めます。
 - ・登山道・避難施設整備、携帯電話不感地域解消等の支援
 - ・「御嶽山火山マイスター」の養成と火山防災知識の普及啓発
 - ・関係町村による「御嶽山ビジターセンター（仮称）」の設置・運営の支援
 - ・関係機関との情報共有・伝達体制等の連携強化、防災訓練の充実
- 地域の強靱化 …「蛇抜け」などの土砂災害対策や地震対策を推進
 - ・集中豪雨や地震に備え、ハード（砂防・治山・農業関連施設の整備、住宅・建築物の耐震化促進等）、ソフト（「災害時支え合いマップ」の作成支援、総合防災訓練、医療救護訓練等）の両面で防災対策を推進します。
 - ・災害発生時のライフラインを確保するため、岐阜県とも連携し、木曾川右岸道路の整備を推進します。



木曾川源流



木曾川右岸道路

3 人口減少下における人材の確保

～「木曾らしさ」の再認識と発信により流出を防ぎ、移住・定住、交流人口を拡大する～

- ・木曾の良さ、田舎暮らしの良さがわかる人々が移住し、地元の人とお互いを尊重しながらつながりを持ち、生活を楽しみながら、新しい観点からまちづくりにも関わることを促進します。
- ・木曾で生まれ育った人たちが地元の良さを知り、学校卒業後も木曾で暮らしたり、Uターンして地元で定住することを促進します。
- ・木曾川の上下流交流などにより交流人口や木曾ファン（つながり人口）を増やします。交流も個人や自治体レベルから、学校や経済団体などへの拡大を図ります。
- ・地域の産業を支える人材の確保を支援します。

【現状と課題】

- ・木曾地域は県内で最も人口減少が著しく、特に若者の多くが進学や就職を機に地域外へ流出し、地域の活力の維持、産業の発展に必要な人材の不足が懸念されます。
- ・とりわけ多様な働く場の確保、地元企業と人材のマッチングなどが課題です。
- ・各町村とも移住・定住の促進に力を入れており、地域おこし協力隊の受け入れも増えつつありますが、ニーズに合った就労支援や住居の提供などが求められています。
- ・木曾川下流域である中京圏等と上下流交流（イベント、森林整備支援等）が盛んに行われています。

【取組内容】

- **地元企業と人材のマッチング …木曾には「魅力」と「働く場」があることを情報発信**
 - ・木曾の企業が求める人材像と学生・生徒が求める企業像、双方向の情報発信を木曾地域全体で実施します。
 - ・県名古屋事務所や大阪事務所と連携し、中京圏・関西圏を中心に大学生のインターンシップの受け入れを推進します。
 - ・小・中学生のうちから地元企業を知る取組を地域全体へ拡大するよう支援するとともに、将来の選択に役立つように「木曾のこと」（文化、歴史、生活など）の学びを促進します。
- **起業・就業支援 …住民と行政の距離が近い木曾の利点を活かしたきめ細かな支援**
 - ・町村等と住民との距離の近さを活かして、関係者の連携の下、就業・起業希望者に対し、情報面や資金面で、総合的かつきめ細かに支援します。
 - ・木曾ブランドである「御嶽はくさい」「木曾牛」や、「木曾産そば」「赤かぶ」「えごま」など特色ある農業を維持・発展させていくため、関係機関と連携し、農業後継者・担い手の確保・育成を図ります。
 - ・地域の課題解決や地域の活性化を図る起業、木曾ならではの木工や伝統工芸関係の起業・就業支援を推進します。
- **移住・交流促進 …外から人を呼びこみ、交流・連携で地域課題を解決へ**
 - ・県と町村等が広域的に連携し、木曾への移住を地域全体で促進します。
 - 例）相談窓口の一本化、「働き方・住まい方・暮らし方」をセットにした情報発信等
 - ・木曾川上下流交流は、個人や自治体レベルでの交流に加え、学校や経済界への交流拡大を図るとともに、交流による課題解決を促進します。
 - 例）上流の森林整備、木曾産木材の中京圏への販路拡大等
 - ・木曾川沿いの南北の交流に加え、高山市や伊那谷との交流、白檜峠を越えた交流など東西の交流も促進します。（木曾はかつて「文化の十字路」）
- **若者定住・Iターン・Uターン促進 …「木曾暮らし」の良さを再認識**
 - ・関係機関と連携し、木曾の暮らしや地元企業の魅力を木曾地域全体で情報発信し、特に若者のIターンやUターンを促進します。また、地元で定着しようとする若者の希望の実現を支援します。



開田高原 木曾馬の里



木曾路の眺め



4 生活基盤・経済活動基盤の確保

～県・市町村・関係機関が連携し、暮らしを支える基盤を維持する～

- ・人口減少下においても、住み慣れた地域で心豊かに安心して暮らし続けられるよう、基本となる医療、福祉、教育、産業、地域交通など生活・経済活動基盤の維持・確保を図ります。
- ・生活・経済活動基盤が確保されることにより、木曾が移住・定住先としても魅力ある地域として移住希望者等に選ばれ続けることを目指します。

【現状と課題】

- ・県立木曾病院が、二次救急医療など高度な医療を提供できる郡内唯一の病院として住民や観光客の健康、安心を支えています。医師・看護師が不足している状況です。
- ・児童・生徒数の減少に伴い、学級減などの課題に直面しています。
- ・高齢化の進行に伴い、通院などの生活の足としての公共交通の必要性が一層高まるものと見込まれます。
- ・治安の良さは木曾で暮らしていく上での大きな安心材料かつ貴重な財産であり、今後とも安全・安心な暮らしを守る拠点を充実させていくことが必要です（木曾警察署の改築等）。
- ・広域連携等により行政の効率化を図り、暮らしを支える公共的なサービスを持続的に提供できるようにすることが必要です。

【取組内容】

●医療 … 木曾の救急医療の拠点「木曾病院」の機能堅持等

- ・木曾病院の機能を堅持するため、信州大学等の関係者の支援を求めるとともに、信州木曾看護専門学校等と連携し、必要な医師・看護師等の医療従事者を確保するよう努めます。
- ・木曾地域南部から木曾病院への通院手段や、身近な医療機関である診療所が確保されるよう、町村等の取組を支援します。
- ・木曾に住む人々の木曾病院に対する期待や感謝と医療従事者の医療に対する思いが相互に伝わるよう、関係機関と連携を図りながら医療従事者と地域住民との情報交流の機会を増やします。

●福祉 … 地域包括ケアシステムの整備促進

- ・医療機関や福祉施設等と連携した地域包括ケアシステムの整備に向けて、主体となる町村や広域連合に情報提供等の支援を行います。

●教育 … 多様な夢の実現に必要な教育の維持・充実

- ・これまで木曾青峰高校と蘇南高校が木曾地域の人材育成等に果たしてきた役割を踏まえつつ木曾地域全体の高校の将来像を総合的に検討し、生徒の希望と地域の期待に即した教育の充実を図ります。

- ・高等学校において、探究的な学びを促進します。また、多様な進学希望に応える教育環境の提供を検討します。
- ・小規模校（小・中学校）について、新たに町村の枠を越えた連携や小・中学校間の教員交流を検討するとともに、小・中学校と特別支援学校との交流や共同学習を推進するなど、教育環境の維持・向上を支援します。

●道路 … 木曾の大動脈「国道 19 号」と代替道路「木曾川右岸道路」等の整備

- ・木曾地域の基幹道路である国道 19 号の整備と、ソフト・ハード両面の交通安全対策を促進します。
- ・様々な機能（災害時のライフライン、救急搬送輸送路、企業誘致や流出防止、リニア中央新幹線開業効果の波及等）を持つ「木曾川右岸道路」の着実な整備を推進します。
- ・東西の交流を支える国道 256 号、361 号の整備を推進します。

●交通 … 木曾全体で生活・通院の足を確保

- ・生活や通院（木曾病院）の足として、また観光二次交通として欠かせない地域公共バスの広域運行化、利便性の向上を図ります。また、デマンドタクシー*等他の方法の活用拡大についても検討します。
- ・リニア中央新幹線の開通を見据え、岐阜県駅及び長野県駅の周辺地域と連携して、リニア駅への交通アクセスの改善を促進します。

【「連携」の推進】

人口減少が進む木曾地域にあって、豊かな地域をつくり安全・安心な暮らしを維持していくためには、「連携」が重要です。

現在、木曾地域においては、県と町村等との広域連携による眺望景観の整備や移住・定住促進等の取組が始まっていますが、県、町村、広域連合、国などの行政機関はもとより、住民や民間企業・団体などあらゆる主体が、それぞれの強みを活かし木曾に適した形で「連携」し、地域の進むべき方向性を共有し、様々な課題に取り組み、地域のめざす姿を実現していくことが求められています。

さらには、木曾川下流域をはじめとする他の地域との連携の輪を広げ、深めていくことも重要です。

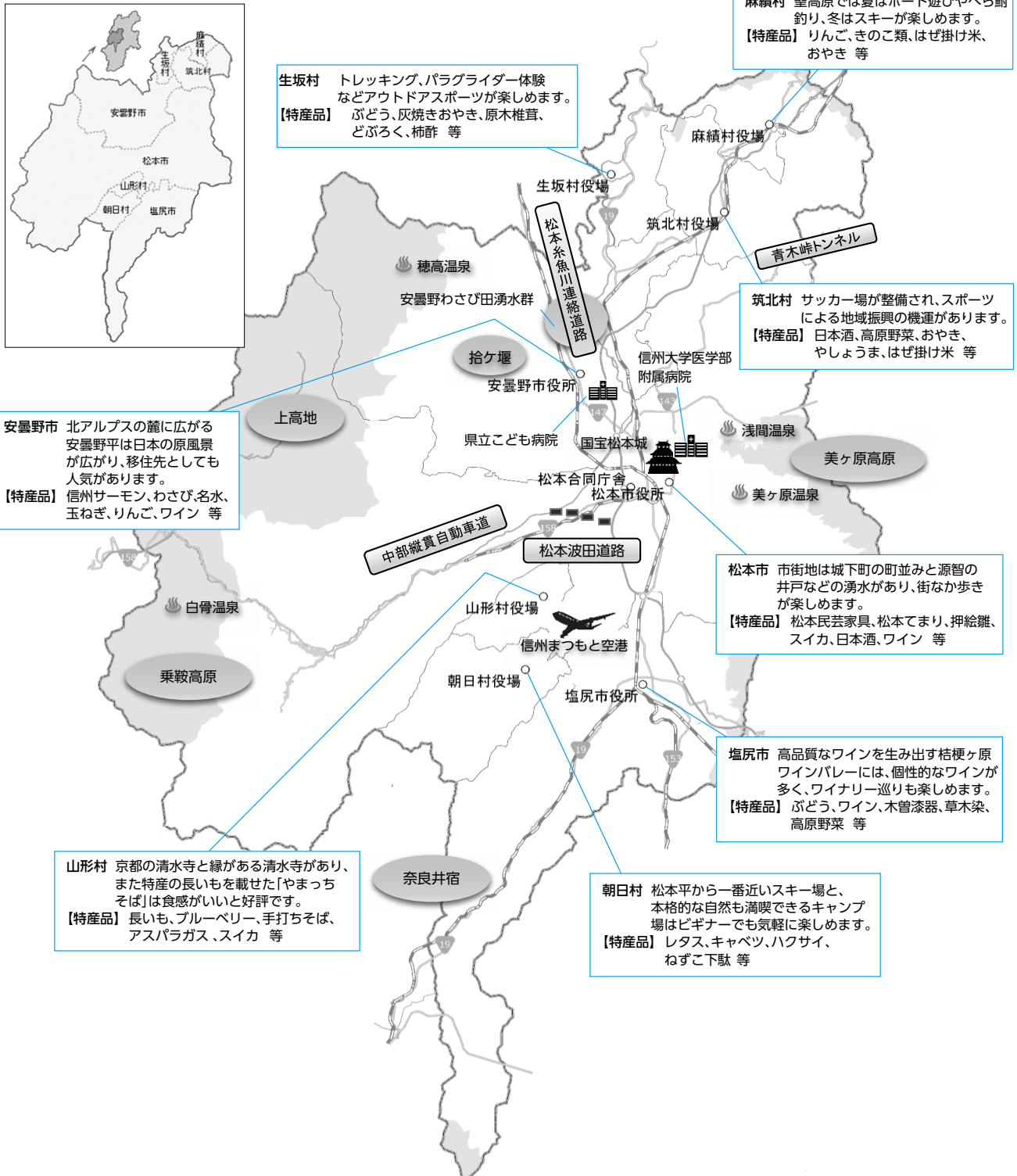
【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
製材業の製品出荷量 長野県木材統計（林務部調）	13,705m ³ (2015年)	15,075m ³ (2021年)	丸太を製材（加工）した製品の出荷量（林業・木材加工業の高付加価値化に関する指標） [現状の10%増加を目標に設定]
観光客1人当たりの消費額単価 来訪者満足度調査（長野県観光機構）	18,874円 (2016年度)	20,000円 (2022年度)	木曽地域内で観光旅行者が支出した宿泊費、交通費、飲食費等の1人当たり平均支出額 [飲食・買物等各1コインずつ（計1,000円）の増加を目標に設定]
観光地延利用者数 (観光部調)	221万人 (2016年)	290万人 (2022年)	管内観光地を訪れた日帰り客、宿泊客の延人数 [御嶽山噴火前（H25）への回復を目標に設定]
外国人延べ宿泊者数 観光地利用者統計（観光部）	17,973人泊 (2016年)	30,000人泊 (2022年)	木曽地域内の旅館やホテルに宿泊した外国人の延べ人数 [大桑村以北のハイカー宿泊数について現状の3倍増加を目標に設定]
御嶽山噴火警戒レベルの認知度 (木曽地域振興局調)	— (2016年)	100% (2022年)	御嶽山噴火警戒レベルを認識している登山者の割合 [情報提供の充実等を踏まえて設定]
災害時住民支え合いマップの作成済み地区数 (健康福祉部調)	157地区 (2016年度)	175地区 (2022年度)	木曽圏域内における災害時住民支え合いマップ作成済み地区数<全地区数：292> [年間3地区の作成を目標に設定]
移住者数 (企画振興部調)	69人 (2016年度)	94人 (2022年度)	新規学卒Uターン就職者や数年内の転出予定者などを除く県外からの転入者 [県全体の目標をもとに設定]
新規就農者数（累計） (木曽地域振興局調)	8人 (2016年度)	10人 (2022年度)	木曽地域における45歳未満の新規就農者数（5か年の累計数） [年間2名程度の新規就農を目標に設定]
特定健診受診率 (長野県国民健康保険団体連合会調)	54.7% (2015年度)	58.7% (2021年度)	特定健康診査対象者数に占める特定健康診査受診者数の割合（市町村国保分） [県全体の目標をもとに設定]
木曽川右岸道路（南部）の整備率 (木曽建設事務所調)	50% (2016年度)	60% (2022年度)	木曽川右岸道路（南部）の計画延長のうち、整備した延長割合 [整備スケジュールをもとに設定]
水質の環境基準達成率（河川） 水質測定結果（環境部調）	100% (2016年度)	100% (2022年度)	木曽地域の主要河川の環境基準（BOD）達成地点数の割合（基準達成地点数/水質常時監視地点数） [現状の維持を目標に設定]

松本地域の特性

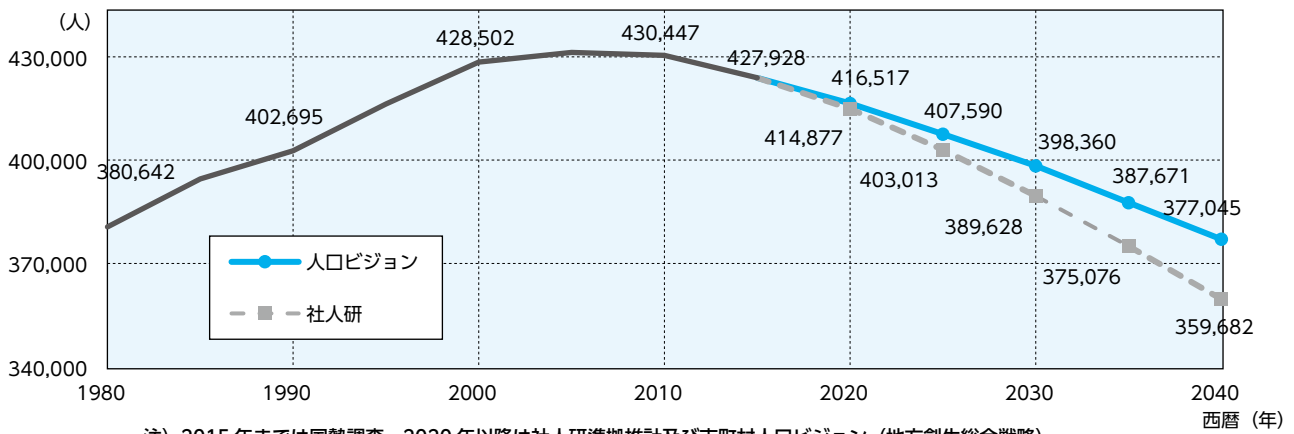
- ・ 県内唯一の空の玄関口である「信州まつもと空港」を有しています。
- ・ 信州大学医学部附属病院、県立こども病院など高度で専門性の高い医療機関を有し、また、健康・医療関連産業と連携可能な研究教育機関が存在しています。
- ・ 大規模地震の発生確率が全国主要活断層の中で最大である、糸魚川静岡構造線断層帯が存しています。
- ・ 市村間で、特に人口の増減の差が大きくなっています。

【管内の概況】

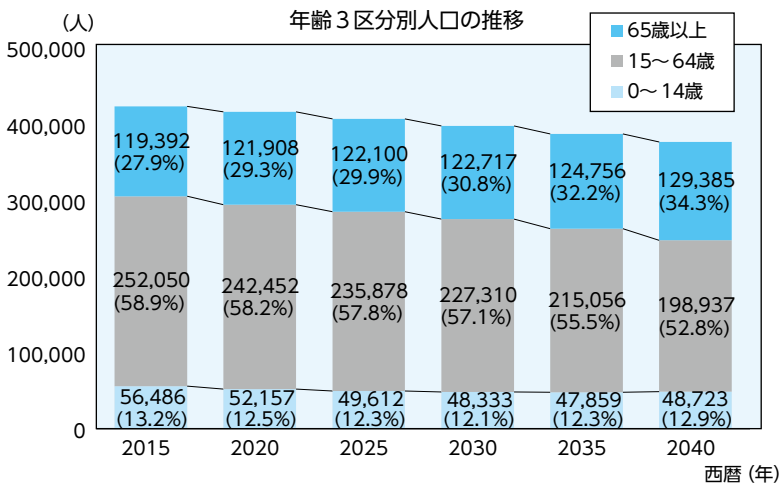


【人口】

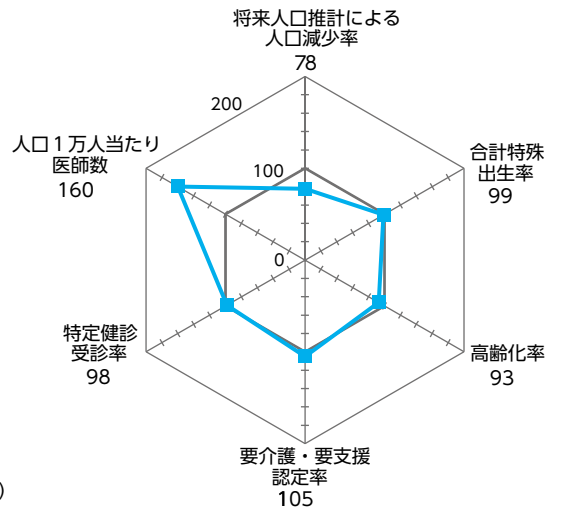
人口の推移



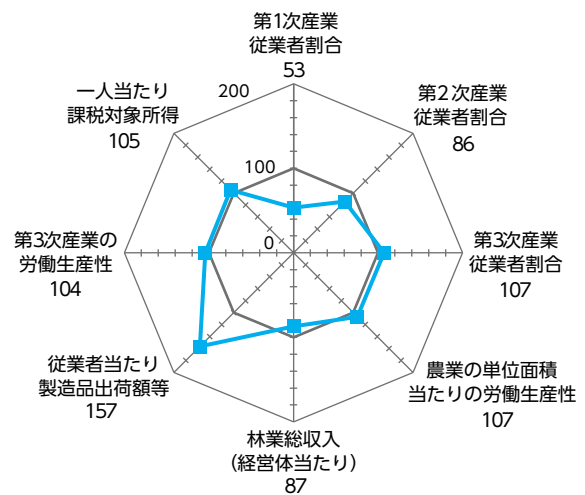
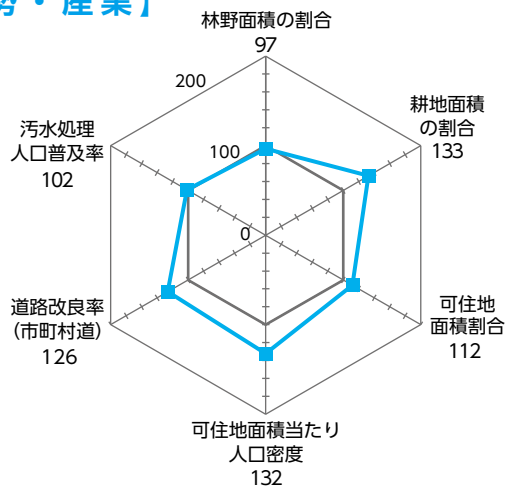
注) 2015年までは国勢調査、2020年以降は社人研準拠推計及び市町村人口ビジョン (地方創生総合戦略)



注) 2015年は国勢調査、2020年以降は市町村人口ビジョン



【地勢・産業】



注) 各指標は長野県全体を100として松本地域と比較 (指数)

- ・人口は、少子高齢化の進行等により減少することが見込まれていますが、可住地面積割合及び可住地面積当たり人口密度は高く、その減少率は、県平均より低くなっています。
- ・信州大学医学部があることなどにより、人口1万人当たりの医師数が県平均より多くなっています。
- ・大規模経営体、集落営農等による生産性の高い農業が営まれていることなどにより、県平均と比較して、第1次産業従事者割合は低いものの、耕地面積の割合及び農業の単位面積当たりの労働生産性は高くなっています。
- ・第2次産業については、電子・電気・情報等の県内有数の生産規模を誇る工場が集積し、従業者当たり製造品出荷額等は、県平均より高くなっています。

美しい信州の中心に世界の人々が集い、賑わいあふれ、住みやすい松本地域をめざします

県内唯一の空の玄関口である信州まつもと空港を有するという特性を活かし、世界水準の山岳高原リゾートに向けた観光地域づくりを行います。

また、一層健康で長生きできる地域とするための取組を行うとともに、想定される大規模地震に対する備えの充実を図るなど、地域の全ての住民が安全・安心で豊かさを実感できる地域づくりを行います。

地域重点政策



1 信州まつもと空港を活かした観光振興

県内唯一の空の玄関口である信州まつもと空港に対する地域の期待は非常に大きく、「信州まつもと空港の発展・国際化に向けた取組方針」を実現するため、地元住民の理解を得て、空港を活かした広域的な観光地域づくりを進めていきます。

【取組内容】

● 滞在型の周遊観光対策

- ・ 国宝松本城、安曇野わさび田湧水群、拾ヶ堰、ワインなど我が国を代表する観光資源等を活かした、滞在型の周遊観光ルートを創出します。その際、高山、白川郷、立山黒部アルペンルートなど他圏域の観光資源と連携して、山岳高原観光地として一層の魅力向上を図ります。
- ・ 空港を利用しやすくするため、二次交通の適切な方向性について、市村、観光団体その他関係者と協議を進めます。
- ・ 広域観光に資するため、中部縦貫自動車道の整備を促進するとともに、松本糸魚川連絡道路、国道 143 号青木峠トンネル、国道 158 号などの調査検討・整備を進めます。



信州まつもと空港のFDA機

● 車利用者の増加を見据えた対応

- ・ 空港利用者の増加に対応できるよう、空港施設の機能拡充を行うとともに、地元住民の安全性も考慮して、周辺道路の歩道等の整備を行います。

● 賑わいの創出

- ・ 空港周辺環境改善の取組として、地元とのアダプト協定*等による植栽や除草活動を支援します。
- ・ 松本平広域公園が 2019 年に開催される第 36 回全国都市緑化信州フェアの主会場となるため、その賑わいが一過性のものとならないよう、飲食店の設置などについて検討を進めます。



国宝松本城と埋橋

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
観光消費額 観光地利用者統計調査（観光部）	353 億円 (2016 年)	391 億円 (2022 年)	管内の観光地内で観光旅行者が支出した宿泊費、交通費、飲食費等の総計 [現状から県全体の目標の増加率をもとに設定]
延宿泊客数 観光地利用者統計調査（観光部）	3,048 千人 (2016 年)	3,724 千人 (2022 年)	管内観光地の延べ宿泊客数 [現状から県全体の目標の増加率をもとに設定]

2 産学官金連携等による健康長寿の取組

当地域は、住民・団体などが健康増進に熱心に取り組んでおり、信州大学医学部附属病院、県立こども病院などの高度で専門性の高い医療機関及び健康・医療関連産業と連携可能な信州大学、松本歯科大学、松本大学などの研究教育機関が存在しています。そうした地域の特長を活かし、健康長寿の取組を発展させていきます。

【取組内容】

● 関連産業の振興

- ・次世代産業クラスター*の形成をめざす取組として、産学官金連携により、住民参加型の健康・医療関連産業の集積を進めます。

● 健康増進の取組

- ・松本大学、市村、関係団体などと連携して、健康に配慮した食に関する取組の推進、幅広い年齢層の住民がスポーツを通じて健康長寿を実現するための取組を推進します。
- ・特定健康診査の受診率向上に向けた市村の体制づくり及び企業が従業員の健康増進を図る取組を支援します。

● 産科医療体制の維持

- ・医師会、信州大学、医療関係機関、市村などで構成する「松本地域出産・子育て安心ネットワーク協議会」により、関係機関が連携した産科医療体制確保の取組を支援します。



県立こども病院



信州チャレンジスポーツDAY

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
特定健康診査受診率 (健康福祉部調)	48.2% (2014年度)	60.0% (2019年度)	協会けんぽ、国保における特定健康診査対象者数に占める受診者数の割合 [国の健康日本21に準拠して目標を設定]
分娩数と出生数の比率 分娩数(健康福祉部調)、出生数(人口動態調査)	109.2% (2015年)	100.0% 以上を維持 (2022年)	出生数に対する管内産科医療機関の分娩取扱数の比率 [出生数に対して管内産科医療機関の分娩取扱数を上回ることを目標に設定]

3 地震防災対策の充実強化

当地域に存在する牛伏寺断層を含む糸魚川静岡構造線断層帯は、30年以内にM7.6程度の地震発生確率が13～30%と全国主要活断層の中で最大であり、地震防災対策が喫緊の課題となっています。

【取組内容】

●大規模災害に備えた行政の体制整備

- ・震度7規模の地震を想定した合同庁舎の耐震補強及び防災機能の強化工事を実施し、大規模地震発生時の災害拠点施設としての機能を確保します。
- ・長野県広域受援計画を踏まえ、管内市村と設置した松本地域大規模地震対策連絡協議会において、市村の避難所の運営や救援物資の受け入れ体制の構築を支援します。
- ・医療機関や医療従事者が偏在している状況を踏まえ、広域的な災害時の医療連携が円滑に行われるよう、市村の合同医療救護訓練などを支援します。

●地域住民に対する意識啓発

- ・住民自ら災害に備えることが大切であることの意識啓発を行うことで、住宅の耐震化及び地震保険への加入を促進します。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
住宅の耐震化率 (建設部調)	80.5% (2016年度)	90.0% (2020年度)	耐震改修の実施などにより耐震性を有する住宅の割合 [住宅の新築・建て替え動向を踏まえ目標を設定]



4 中山間地域の魅力向上

当地域は山形村以外の中山間地域がある市村において人口が減少しており、特に麻績村、生坂村、朝日村及び筑北村では減少率が高くなっています。地域に暮らす誰もが豊かさを実感できる地域とするためには、中山間地域の振興を図ることが重要となっています。

【取組内容】

●農業振興

- ・地域農業の再生を図るため、地域の特色を活かした農産物であるブドウ、レタス等の生産・販売を促進します。
- ・活気ある地域づくりを行うため、農業活性化施設の整備等による住民自ら行う特産品の加工・販売や開発等の取組を支援します。
- ・地域の農業者及び地域おこし協力隊*員との連携による農作業を担う受託組織などの設立・運営を支援します。

●林業振興

- ・松本地域の主要樹種であるカラマツ・アカマツの住宅への利用等を促進します。

- ・松本地域を中心に生産されている良質なコンテナ苗*木を県下全域に供給し、本県の森林施業の効率化・低コスト化に寄与するため、その生産に係る技術改良を進めます。
- ・危険な松くい虫枯損木を伐採し、被害材を木質バイオマス*燃料として有効活用する取組を推進します。

●スポーツ振興

- ・スポーツによる地域振興を図るため、ラフティング、パラグライダーなどのアウトドア活動を活かした取組及びスポーツ合宿の誘致などスポーツ施設を活かした取組を支援します。

●働く場の提供等の取組

- ・テレワーク*による働く場の提供に係る取組を支援します。
- ・地域の文化遺産を活かして、その歴史などを学び、観光振興につなげていく住民の取組を支援します。



世界かんがい施設遺産拾ヶ堰



重要文化財牛伏川階段工



ホイール・パラグライダー



カラマツの集材作業

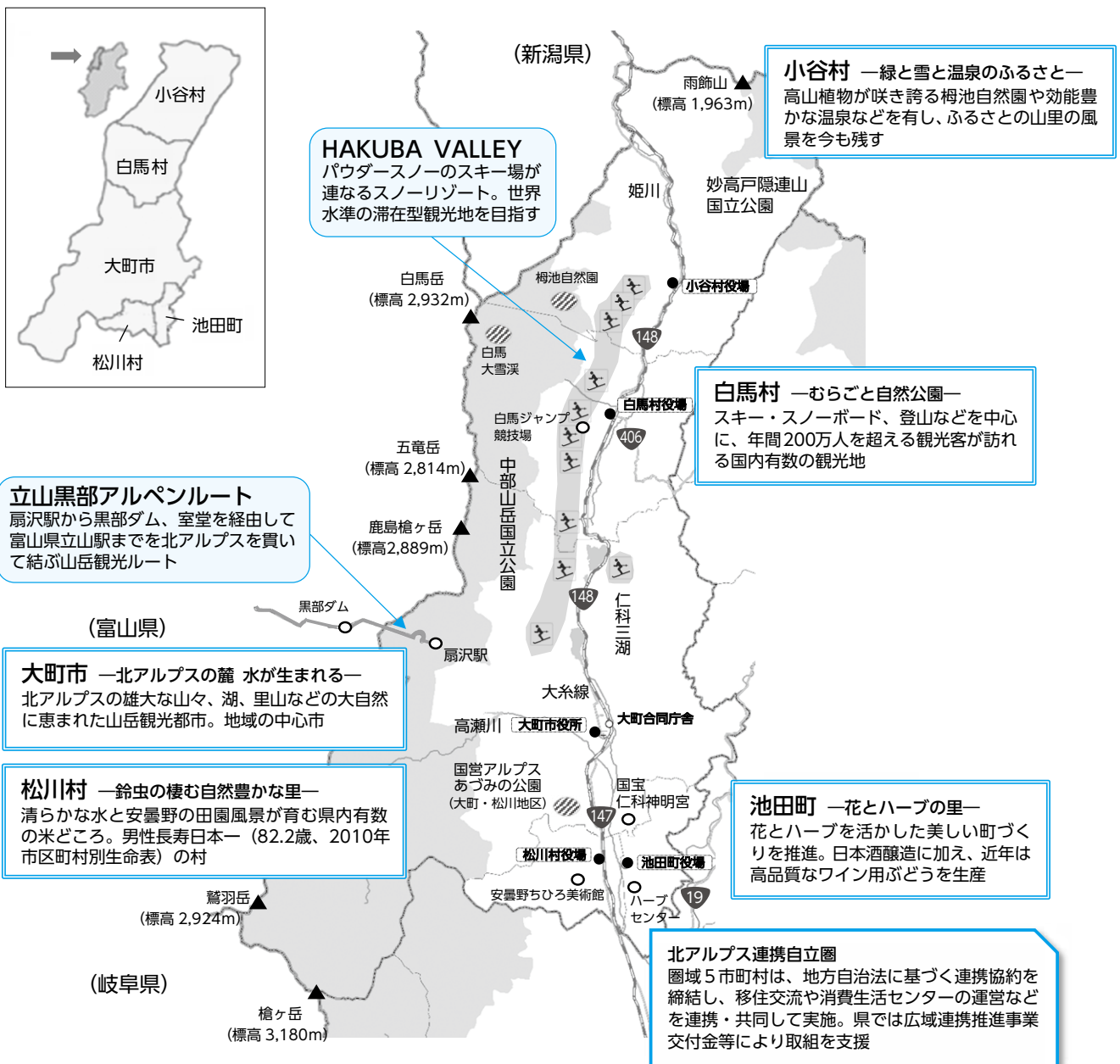
【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
荒廃農地解消面積 (農政部調)	300ha (2012年～2016年 の累計)	450ha (2018年～2022年 の累計)	荒廃農地を作付け農地に戻した面積 [第3期長野県食と農業農村振興計画 の目標をもとに設定]
素材(木材)生産量 木材統計(林務部)	36千m ³ (2016年)	58千m ³ (2022年)	建築・チップ用等に使用される木材(丸 太等)の生産量 [現状から県全体の目標の増加率をも とに設定]

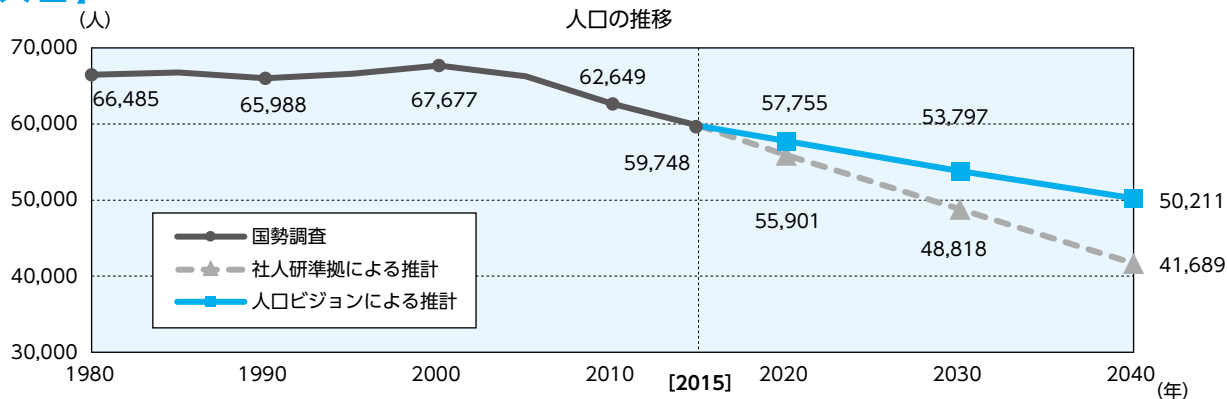
北アルプス地域の特性

- ・ 3000 m級の北アルプスの山並み、その山麓に広がるアカマツや広葉樹林、四季の風景を映す仁科三湖、安曇野の田園風景など、豊かな自然と雄大な景観に恵まれ、これらは地域の宝です。
- ・ 農業、観光業、機械・窯業などの製造業が、地域産業の中心です。農業は北アルプスの豊富な雪解け水を活かした米づくりが盛んです。また、観光面では、立山黒部アルペンルート、HAKUBA VALLEYのスキー場のほか、温泉や美術館、博物館など、豊富な観光資源を有し、年間約700万人の観光客が訪れます。
- ・ 地域の人口は2000年（平成12年）の約68,000人をピークに減少し続けており、県内でも少子高齢化の進行が速い地域です。

【管内の概況】

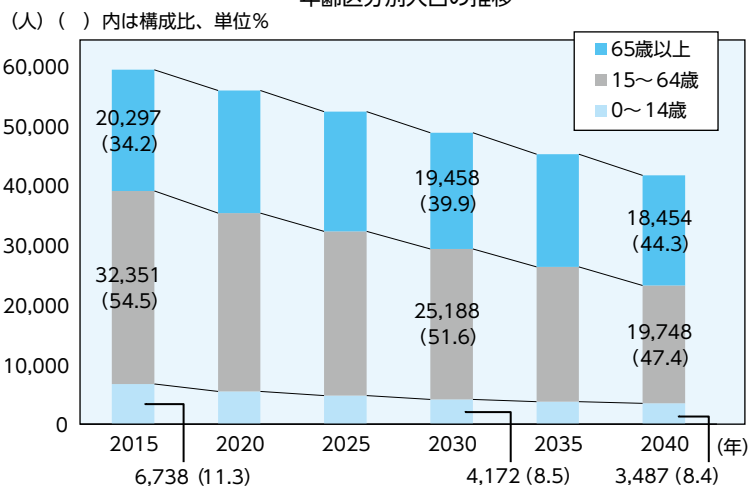


【人口】

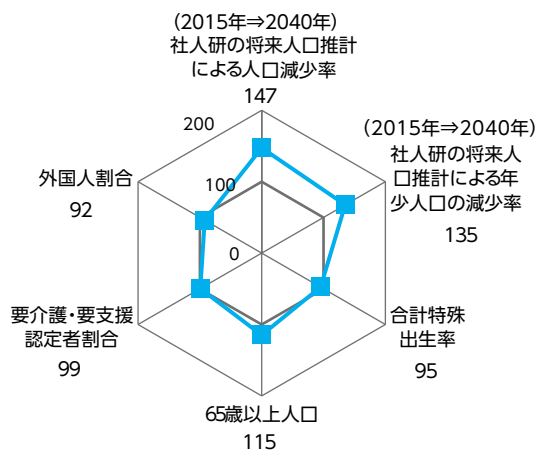


注) 2015年までは国勢調査(年齢不詳者を含む)、2020年以降は社人研準拠推計及び管内市町村の人口ビジョン(地方創生総合戦略)。

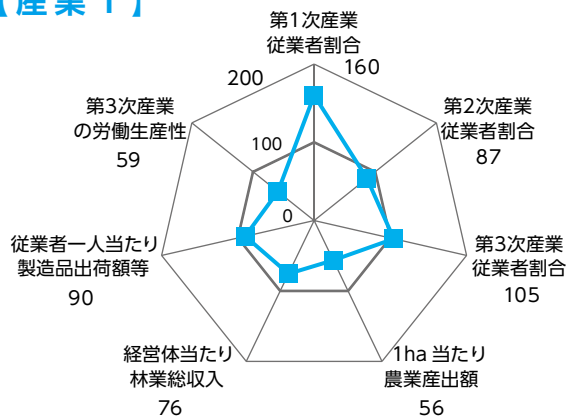
年齢区分別人口の推移



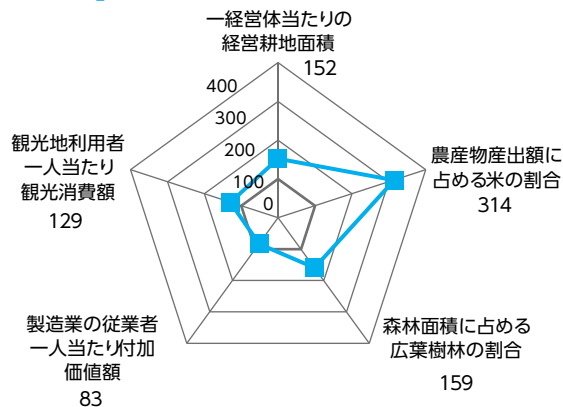
県平均(100)と北アルプス地域との比較



【産業 1】



【産業 2】

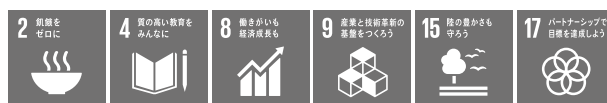


- ・人口減少率、65歳以上人口は県平均を上回り、合計特殊出生率は平均を下回っています。他地域に比べ少子高齢化の進行が速く、社人研の推計では2040年には2015年の7割程度まで人口が減少する見込みです。
- ・農業は稲作が中心のため、農業経営体への農地集積が進み、経営体当たりの耕地面積が大きく、また、森林は多雪地帯のため人工林化が進まず、広葉樹林(天然林)が多く残されています。
- ・米が主力作物であることや人工林が少なく林業事業体の規模も小さい地域特性から、1ha当たり農業産出額や経営体当たり林業総収入は県平均を下回っています。
- ・製造業は下請け型の企業が多く、従業者一人当たりの製造品出荷額等や付加価値額は県平均を下回っています。一方、国内有数の観光地を抱え、利用者一人当たりの観光消費額は県平均を上回る状況にあります。

北アルプス地域に「暮らす人」誰もが自信と誇りを持ち、「訪れる人」すべてが感動と喜びを実感できる地域をめざします

北アルプスの雄大な山々と安曇野の田園風景に象徴される、私たちの北アルプス地域は、豊かな自然の恵みと心癒す景観、先人たちの英知と営みにより、地域に根差した産業を育て、人々の暮らしと地域の絆を守ってきました。しかし、地域人口の急激な減少が危惧される中においては、人口減少がもたらす様々な影響と向き合い、何よりも「人」を大切にしたい地域づくりに取り組んでいかなければなりません。地域には、美しい自然環境や先人たちが築き上げてきた農業・観光基盤などの地域の強みがあります。これらを最大限に活かし、ここに「暮らす人」誰もが自信と誇りを持ち、生き生きと働き、安心して暮らせる地域づくり、「訪れる人」すべてが感動と喜びを実感し、多くの人々に再び訪れていただける観光地域づくりに取り組みます。

地域重点政策



1 北アルプスの恵みと人々の知恵を活かした産業の振興

- 〈農〉競争力の高い米づくりを推進するとともに、地域特性を活かした園芸作物の生産振興、ブランド力の向上などにより、米づくりを中心に収益性の高い農業が営まれる地域をつくります。
- 〈林〉林業がビジネス（生産された木材が売れる・使われる）として成り立つ仕組みをつくることにより、循環型林業の構築をめざします。
- 〈工〉地域の強みを活かした製品開発や人材育成の支援により、ものづくり地域としてのレベルアップをめざします。

【現状と課題】

- 〈農〉北アルプス地域は販売農家経営耕地面積の87%を水田が占めるなど、米が主力作物です。平成30年産から米政策の見直しが行われ、稲作農家の収益減少が懸念されるため、競争力の高い米づくりによる収益確保への取組が必要です。
- 〈農〉稲作農家の経営安定には、米だけに頼らない、かつ、水田を活用した園芸作物の導入・拡大による経営の複合化が求められており、土壌条件に応じた作付けへの誘導と栽培技術の普及が必要です。
- 〈農〉新たな地域特産品の掘り起しとそのブランド化、農産物等の「地消地産*」の推進による販売力強化が必要です。
- 〈林〉北アルプス地域の森林面積の66%は広葉樹で、その8割以上が伐採適齢期を迎えています。広葉樹を有効活用する仕組みができれば、地域林業がビジネスとして成り立つ可能性があります。
- 〈林〉松くい虫被害は池田町、松川村から大町市社・常盤地区や標高の高い地域へ拡大傾向にあり、適切な防除対策の推進とともに、被害材の利用促進策の構築が必要です。
- 〈工〉製造業は特色ある技術を持つ企業がある一方で、下請型で経営基盤の弱い企業が多く、付加価値額も減少傾向にあり、企業の「稼ぐ力」の強化が必要です。

【取組内容】

〈農〉米の効率的な生産の推進

- ・ICT*を活用した生産工程管理システムや水田水位センサーの導入促進、高密度播種育苗*等の実証・普及により米の効率的な生産を推進します。
- ・農作業の効率化を図るため、ほ場間の大型機械のスムーズな移動を可能にする水路の埋設化や自動草刈機が走行できる畦畔法面勾配の造成、用水路への自動給水栓の設置など、次世代を見据えた農地整備を推進します。

〈農〉 特色ある米づくりの推進

- ・長野県原産地呼称管理制度・信州の環境にやさしい農産物認証制度を活用した、減農薬・減化学肥料栽培の取組拡大に向け、講習会の開催や栽培技術導入効果のPRを通して付加価値の高い米づくりを推進します。
- ・県下の酒米生産地であり豊富な用水に恵まれた立地を活かし、生産者、酒蔵と連携して、酒米の高品質化に向けた栽培技術（深水管理）の実証・普及や、新品種（山恵錦）の普及に取り組みます。



北アルプスの山々を映す水田

〈農〉 園芸作物の戦略的導入、地消地産の推進

- ・需要が高い、アスパラガスや加工・業務用野菜（ジュース用トマト、タマネギ等）の生産を拡大するため、土壌条件に応じた栽培技術の普及に取り組むとともに、水稻育苗ハウスを活用したミニトマト等の園芸作物の作付け拡大を推進します。
- ・大町市、池田町で生産されるワイン用ぶどうの高品質化と生産拡大を図るため、栽培技術の向上と生産基盤の整備に取り組みます。
- ・観光宿泊施設等での地域食材の利用を拡大するため、地元生産者が取り組む大町温泉郷や白馬村内での農産物供給体制の構築を支援します。



ジュース用トマトの機械収穫

〈農〉 地域特産物のブランド化の推進

- ・商工関係団体やJA等と連携し、新たな地域特産物の発掘・育成に取り組むとともに、北アルプス山麓ブランドを活用した販売促進を支援します。

〈林〉 広葉樹林業のビジネス化

- ・信州大学と連携した航空レーザ測量*による資源量（樹種、本数、一本ごとの太さ等）把握技術の確立や、広葉樹材の用途に応じた生産・加工・販売の仕組みを構築するモデル事業の実施により、広葉樹資源を活かした林業のビジネス化に取り組みます。



広葉樹丸太の市場の調査

〈林〉 アカマツ材の利用促進と併せた健全な森林の育成

- ・松くい虫の被害材・未被害材の用途に応じた利用促進とともに、更新伐やアカマツ以外の樹種への転換により、効果的な松くい虫被害防除対策を推進します。

〈工〉 経営基盤強化による製造業の稼ぐ力の強化

- ・産学官金の連携により、地域資源を活用したヘルスツーリズム関連製品の開発等を推進します。
- ・テクノ安曇野高瀬プロジェクト、北アルプスものづくり連絡協議会等が取り組んでいる技能継承や人材の育成を支援します。



テクノ安曇野高瀬プロジェクトの技能検定受験対策講座

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
省力・低コスト技術の導入による 水稲栽培面積 (北アルプス地域振興局調)	35ha (2017年度)	95ha (2022年度)	高密度播種育苗・直播技術による水稲栽培面積 [農家の動向やJAの目標をもとに設定]
酒米(山恵錦)栽培面積 (北アルプス地域振興局調)	6ha (2017年度)	35ha (2022年度)	山恵錦の栽培面積 [現在栽培している「しらかば錦」の全て、「美山錦」「ひとごち」の5%程度を置き換えることとして設定]
加工・業務用野菜栽培面積 (北アルプス地域振興局調)	12.2ha (2016年度)	20ha (2022年度)	ジュース用トマト、タマネギ、キャベツの栽培面積 [JA等の目標をもとに設定]
民有林の広葉樹素材(木材)生産量 (北アルプス地域振興局調)	1,600m ³ (2012～2016年の生産量から算出)	2,400m ³ (2022年)	広葉樹素材(丸太等)の生産量 [過去5年間(2012～2016年)の生産量から算出した値に施策推進による増産分を加算し設定]
民有林のアカマツ素材(木材)生産量 (北アルプス地域振興局調)	3,900m ³ (2012～2016年の生産量から算出)	8,900m ³ (2022年)	アカマツ素材(丸太等)の生産量 [過去5年間(2012～2016年)の生産量から算出した値に施策推進による増産分を加算し設定]
製造業の従業者一人当たり付加価値額 工業統計調査(経済産業省)	9.3百万円 (2015年)	10.5百万円 (2022年)	付加価値額を従業者数で除した値 [県全体の伸び率を参考に設定]



2 四季折々に訪れ、北アルプスと安曇野の自然を満喫できる観光地域づくり

四季を通じて多くの観光客が訪れ、その誰もが安心して快適に時を過ごし、喜びと感動に満ちた体験ができる観光地をめざします。

【現状と課題】

- ・最近10年間の観光客数は、冬期(12～3月)は約250万人、春～秋期(4～11月)は約450万人前後で推移しています。グリーンシーズン、特に観光客が減少する春・秋の誘客への取組が必要です。
- ・高齢化等の社会環境の変化や、多様化する旅行者ニーズへのきめ細かな対応が求められています。
- ・外国人宿泊者数は近年、増加傾向にあり、更なる誘客や管内への回遊促進に向けた、多彩なサービスの検討、提供が必要です。

【取組内容】

● サイクルツーリズムの推進

- ・北アルプスの絶景や安曇野の田園風景を楽しめるモデルコースを設定し、市町村と連携して自転車に配慮した道路環境の整備を推進します。
- ・地域全体でサイクリストを歓迎する気運を高めるため、サイクルスポーツへの住民理解の促進や運転マナー向上等に取り組みます。また、白馬村、小谷村を中心に進められている「サイクルステーション*」の取組を地域全体に広げ、受入態勢の充実を図ります。
- ・大都市圏の自転車イベントへの出展やSNSを活用し、北アルプス地域の魅力や走る楽しさ、モデルコース等の情報を発信します。
- ・隣接する日本海エリアや県内他圏域と連携し、広域モデルコースの設定やイベントへの出展、情報発信等に取り組み、広域的なサイクルツーリズムを推進します。



サイクルツーリズム

●ユニバーサルツーリズム、ヘルスツーリズム、体験型観光の推進

- ・高齢者や障がい者など、誰もが安心して快適に旅行できる観光地づくりに向けた受入態勢の整備などを観光団体等とともに検討し、その取組を支援します。
- ・豊富な温泉や森林セラピー基地、特産のハーブを活用したヘルスツーリズムの推進、自然や農業、食文化等の地域資源を活かした、農家民泊をはじめとした体験型観光の強化などの取組を支援します。

●インバウンド*対応の促進

- ・地域DMO*（(仮称) HAKUBA VALLEY プロモーションボード）の設立・運営や、インバウンド向けサービスの充実に向けた市町村等の取組を支援します。



夕食を楽しむインバウンド観光客

●登山道や街並み整備の推進、山岳環境の保全

- ・市町村や山小屋組合等が実施する登山道の整備や、多言語標識の設置を支援します。
- ・大町市内の歴史ある建物を活かした、まちなかへの誘客に向けた取組を支援するとともに、白馬エリアの玄関口である白馬駅前の無電柱化を核とした景観・環境整備に住民と協働して取り組みます。
- ・北アルプス高山帯等の植生や生態系を守り、観光客の安全を確保するため、野生鳥獣の高標高地への侵入状況や被害を把握し、関係機関と連携して防除対策に取り組みます。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
観光地延利用者数 観光地利用者統計調査（観光部）	702万人 (2012～2016年の平均)	724万人 (2022年)	観光地の延べ利用者数 [過去5年間(2012～2016年)の平均にグリーシーズンの伸びを加算し設定]
グリーンシーズン(4～11月) 観光地利用者数	446万人 (2012～2016年の平均)	468万人 (2022年)	観光地の4～11月の延べ利用者数 [過去の伸び率を参考に設定]



3 生涯を通じて健康で、安心・安全に暮らせる地域づくり

〈健・医・福〉保健医療と福祉の充実により、暮らす人すべてが、住み慣れた環境の中で生涯を通じて健康で生き生きと暮らせる地域をめざします。

〈防〉住民の力を活かした地域防災力の向上により、誰もが安心して暮らし、訪れる地域をつくります。

【現状と課題】

〈健〉三大死因別死亡率では、男性は悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、女性は心疾患が県平均よりも高くなっています。また、平成26年度の特健診結果では、糖尿病につながるおそれがある空腹時血糖値、ヘモグロビンA1cの値が基準値を超える割合が男女ともに県平均を上回る状況です。

〈医〉国指定のがん診療の拠点病院がなく、がん患者の他医療圏への流出率は10圏域中2番目に高く、松本医療圏に依存しています。また、出産や脳血管疾患に対応する医療体制の充実が必要です。

〈福〉介護福祉施設では人材の確保に苦慮しており、高齢化に伴う要介護者の増加が見込まれる中、介護人材確保に向けた圏域全体での取組が求められています。

〈防〉糸魚川・静岡構造線上に位置し、30年以内の震度6弱以上の地震発生確率は、池田町、松川村は22%、大町市は14%と推計*されています。急峻な地形、脆弱な地質から大規模な土砂災害が発生しやすい状況にあります。

*出典：地震ハザードステーション 2016年版（防災科学技術研究所）

【取組内容】

〈医〉がん対策の推進

- ・北アルプス医療センターあづみ病院がめざす、地域がん診療病院*指定への支援や、病院、医師会等と連携したがん診療研修会の開催支援などにより、大北医療圏全体のがん対策を推進します。

〈医・福〉医療・介護人材の確保

- ・医学生、研修医等を対象にした症例検討会をはじめとする、市立大町総合病院等が取り組む医師招へい事業の支援や、北アルプス地域を訪れる医療関係者に対する病院・地域の魅力発信等に取り組みます。
- ・大北圏域介護保険事業者連絡協議会や市町村と連携し、首都圏での合同職場説明会、高校生への介護職場の魅力アピールなど、介護福祉施設の人材確保の取組を支援します。

〈健〉生活習慣病予防対策の推進

- ・糖尿病など生活習慣病の予防に向け、市町村、関係団体等の食育活動への支援や、運動指導者のスキルアップ、アドバイザー派遣による運動習慣の定着に取り組みます。

〈防〉住民の力を活かした地域防災力の向上、観光地の防災対策の強化

- ・神城断層地震の経験を活かして、住民自らが災害発生時に適切に対応できるよう、自主防災組織研修会や避難所運営訓練、災害時住民支え合いマップの策定などを支援し、地域防災力の向上に取り組みます。
- ・立山黒部アルペンルートなど観光地の被災時に備え、関係自治体や事業者と連携して、災害時における情報共有・伝達の方法や避難対策を検討し、防災対策の強化を図ります。

〈防〉砂防施設等の整備、緊急輸送路の防災機能の強化

- ・土砂災害から地域住民の生命財産を守る砂防施設等の整備を進めるとともに、災害時の物資輸送等を確実にするため、落石対策など緊急輸送路の防災機能強化に取り組みます。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
がん患者の大北医療圏からの流出状況 (健康福祉部調)	35% (入院) 24% (外来) (2015年度)	31% (入院) 21% (外来) (2022年度)	がん患者の大北医療圏からの流出割合 [がん診療体制の充実により、現状から1割抑制を目標に設定]
災害時住民支え合いマップ策定地区数 (大町保健福祉事務所調)	159地区 (2017年度)	230地区 (2022年度)	災害時住民支え合いマップ策定済みの地区数 [管内全地区の策定を目標に設定]



4 北アルプス地域を選び、生き生きと活動できる地域づくり

「暮らす人」誰もが自信と誇りを持ち、生き生きと暮らし活動できる仕組みづくりを通して、移住・Uターン・定住しやすい地域をめざします。

【現状と課題】

- ・急激な人口減少や少子高齢化が懸念される中、地域コミュニティや産業・生活環境を維持していくためには、人口減少への歯止めとともに、必要な人材の確保や次代を支える若者が地域に就職・定着できる環境や仕組みづくりが必要です。
- ・地域への移住者（外国籍を含む）は増加傾向にありますが、地域おこし協力隊員の任期終了後の定着も含め、移住希望者や地元出身の若者に選ばれる地域となるための取組が求められています。
- ・高齢化率は県平均を上回るものの、男性の平均寿命日本一*の松川村など元気な高齢者が多い地域であり、人生100年時代を見据え、元気な高齢者が活躍できる仕組みづくりが必要です。 ※出典：2010年市区町村別生命表

【取組内容】

●若者の定住・定着支援、地域を支える人材の確保

- ・デュアルシステム*等による就業体験など、学校が取り組むキャリア教育の充実を支援し、若者の地域への就労を促進します。
- ・地域外に進学した学生に企業情報や就職情報を提供する取組を支援し、地元企業等へのUターン就職を促進します。
- ・若者が地域を学び地域への愛着を深める機会の提供等を通して、将来にわたり地域を支える人材の育成を推進します。



協力隊員の起業等相談会

●地域おこし協力隊員の定着支援

- ・協力隊員の交流や円滑な活動、任期終了後の定着を支援する交流・相談会の開催や、地域全体で起業や就業をサポートする環境づくりに取り組みます。

●北アルプス連携自立圏と連携した移住・定住の推進

- ・北アルプス連携自立圏の広域移住相談体制の整備や、移住セミナー開催等の取組を支援するとともに、様々な機会や媒体を通じて、北アルプス地域で暮らし、働く魅力を市町村と連携して発信します。

●外国籍住民が暮らしやすい環境整備の推進

- ・北アルプス地域で増加傾向にある外国籍住民が安心して暮らせる相談体制や情報提供の充実など、市町村等の取組を支援します。

●高齢者の社会参加の推進

- ・シニア活動を応援する団体等を登録・紹介する仕組みづくりや、活動の場を求めるシニアと活動の場を提供する団体等のマッチングに取り組み、高齢者の社会参加を進めます。



高齢者福祉施設でのしめ縄づくり

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
移住者数 (企画振興部調)	161人 (2016年度)	224人 (2022年度)	新規学卒Uターン就職者や数年内の転出予定者などを除く県外からの転入者 [県全体の目標をもとに設定]



5 地域を支える松本糸魚川連絡道路の整備

北アルプス地域と松本地域や糸魚川地域とを結ぶ地域高規格道路の調査検討・整備を進め、地域経済の活性化と地域住民の利便性の向上をめざします。

【現状と課題】

- ・高速交通ネットワークの空白地帯であり、高速道路へのアクセス性が低いことが、企業誘致や観光誘客、重篤患者の救急搬送の上で課題となっています。
- ・大町以北の国道148号で事故や雪による交通障害が発生した場合、広範囲に影響が及ぶため、災害に強い道路環境の早期整備が必要です。

【取組内容】

●松本糸魚川連絡道路の整備推進

- ・安曇野市～大町市街地南の現道活用区間及び大町市街地区間の調査・検討を推進します。また、松本糸魚川連絡道路と同等の規格により、国道148号小谷村雨中バイパス、白馬村白馬北工区の整備を推進し、早期完了に努めます。

長野地域の特性

- ・長野地域は、善光寺平を中心に政治・経済・文化・教育等の機能が集積し、県の中核的な地域として発展しています。
- ・多種多様な産業が栄え、特に機械・電気・食品をはじめとした製造業は地域経済のけん引役となっています。また、農業も盛んで、中でも果樹は市場性が高く生産量も多く、全県1位の産出額を誇っています。
- ・観光においては、善光寺をはじめとする歴史的遺産、温泉や国立公園、自然や伝統文化体験など豊かな資源に恵まれています。
- ・新幹線や高速道路により首都圏・北陸圏との近接性が高いことや、都市部と自然豊かな地域が共存することも本地域の特徴です。

【管内の概況】



信濃町

- ・冷涼な気候の高原の町、積雪は2mに及び地域も
- ・主な農産物は米、高原野菜（トウモロコシ等）、酪農
- ・野尻湖、黒姫山、一茶記念館等を有し、避暑やウィンタースポーツ、歴史・文化で観光客を惹きつける

飯綱町

- ・「ふるさとの原風景」が広がる美しい町
- ・りんご、ももなど果樹栽培が盛んな農業町
- ・平成17年10月1日、牟礼村と三水村が合併し誕生
- ・隣接する長野市に50%を超える住民が通勤・通学

小布施町

- ・面積約19km²の長野県で一番小さな町
- ・りんご、ぶどう、栗など果樹栽培が盛んな農業町
- ・江戸後期には船運や街道の要衝として栄え、近年では歴史や文化を軸にしたまちづくりが進む

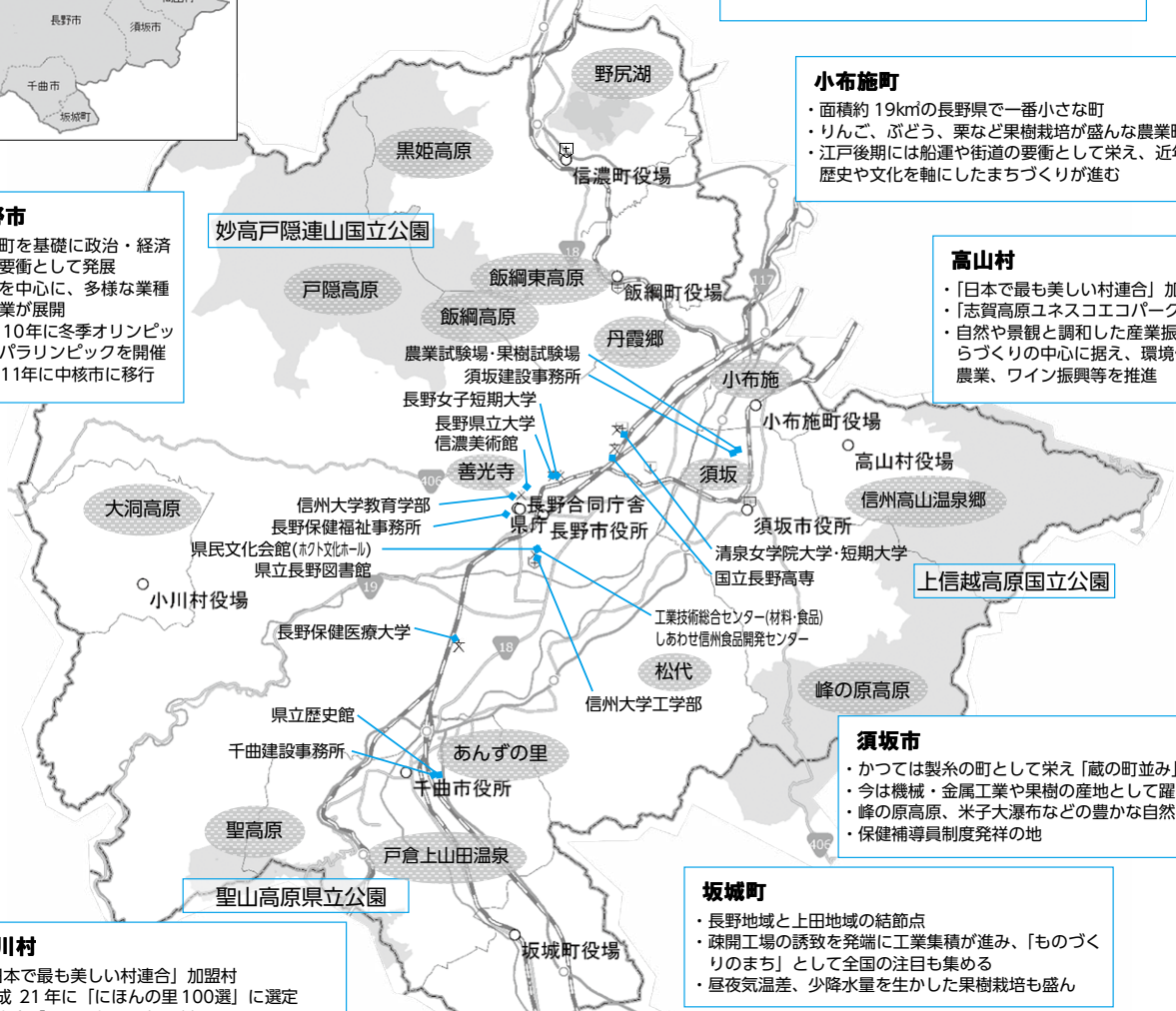
長野市

- ・門前町を基礎に政治・経済等の要衝として発展
- ・商業を中心に、多様な業種の産業が展開
- ・平成10年に冬季オリンピック、パラリンピックを開催
- ・平成11年に中核市に移行

妙高戸隠連山国立公園

高山村

- ・「日本で最も美しい村連合」加盟村
- ・「志賀高原ユネスコエコパーク」登録
- ・自然や景観と調和した産業振興をむらづくりの中心に据え、環境保全型農業、ワイン振興等を推進



小川村

- ・「日本で最も美しい村連合」加盟村
- ・平成21年に「にほんの里100選」に選定
- ・郷土食「おやき」の元祖の村
- ・大洞高原にある「星と緑のロマントピア」には天文台やプラネタリウム館がある

千曲市

- ・交通網が集積する「要衝の地」
- ・松本・上田地域へも1時間以内で移動可能
- ・千曲川が中央を流れ、東に科野の里、西にさらしなの里、南に戸倉上山田温泉など特色ある優れた地域資源がバランスよく配置

須坂市

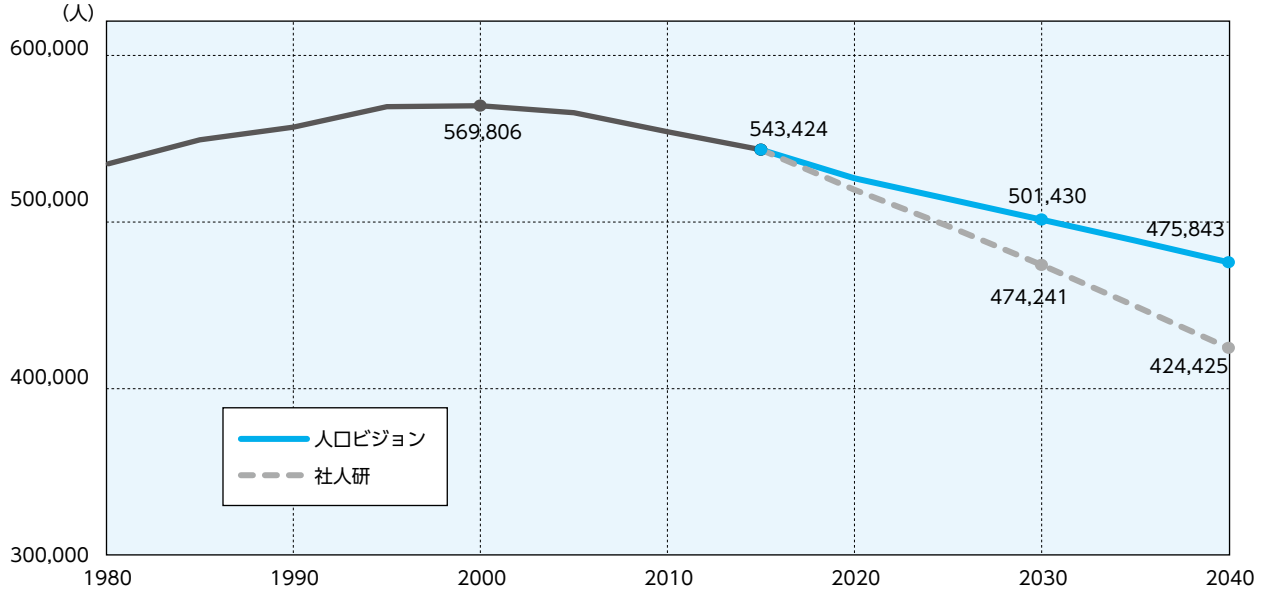
- ・かつては製糸の町として栄え「蔵の町並み」が残る
- ・今は機械・金属工業や果樹の産地として躍進
- ・峰の原高原、米子大瀑布などの豊かな自然
- ・保健補導員制度発祥の地

坂城町

- ・長野地域と上田地域の結節点
- ・疎開工場の誘致を発端に工業集積が進み、「ものづくりのまち」として全国の注目も集める
- ・昼夜気温差、少降水量を生かした果樹栽培も盛ん

【人口】

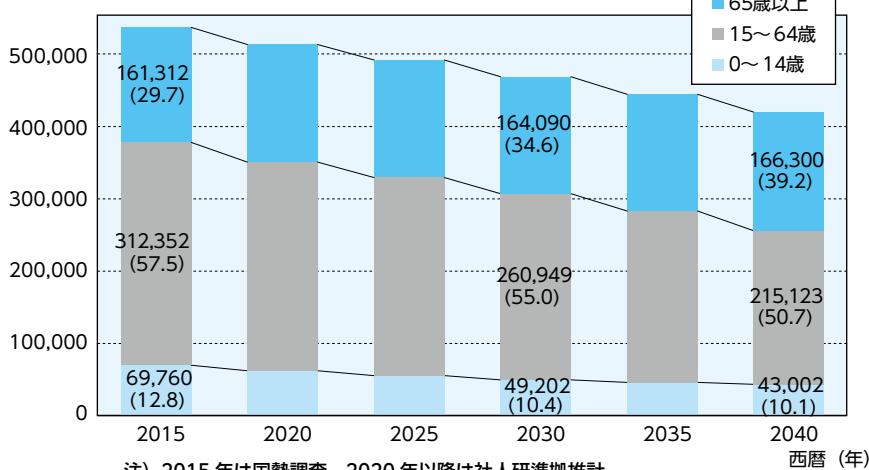
人口の推移



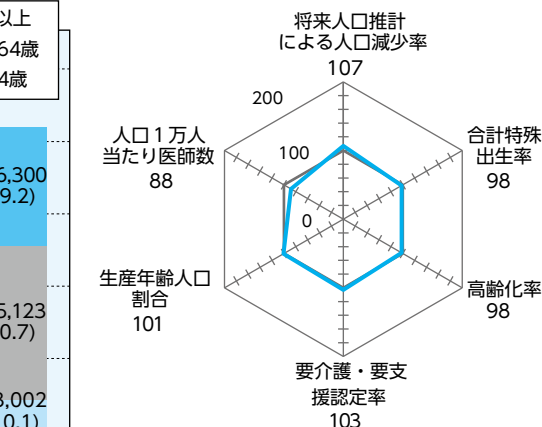
注) 2015年までは国勢調査、2020年以降は社人研準拠推計及び市町村人口ビジョン(地方創生総合戦略)。

西暦(年)

年齢3区分別人口の推移

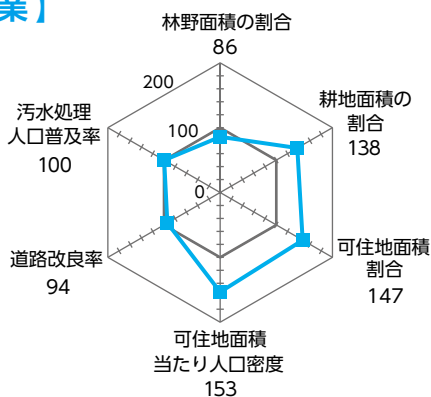


注) 2015年は国勢調査、2020年以降は社人研準拠推計

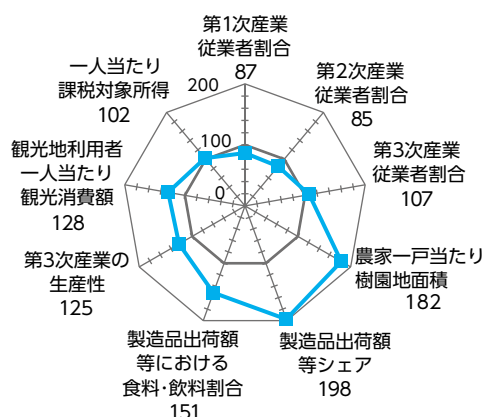


注) 各指標は長野県全体を100として長野地域と比較(指数)

【地勢・産業】



注) 各指標は長野県全体を100として長野地域と比較(指数)



注) 各指標は長野県全体を100として長野地域と比較(指数)

長野地域は、西暦2000年をピークとして人口減少トレンドにあります。地方創生の取組を通じて、西暦2040年に人口減少を約5万人抑制することを目標に掲げています。

また、当地域は耕地面積割合・可住地面積割合等が県平均を上回り、首都圏等との近接性といった好条件もあり地勢的に恵まれています。産業的にも、果樹を中心とした農業、食品産業をはじめとした製造業、人口集積を背景とした第三次産業が盛んで、それらの関連指標は県平均を上回っています。

「活力あふれ・人が集い・文化薫る」中核的都市圏の形成へ

- ・長野地域は、県下の人口の約4分の1を占め、中核市である県都長野市を中心に主要な官公庁や民間事業所、高度医療機関、教育文化施設などの高次都市機能が集積するほか、多様な産業や観光資源も存在し、本県の政治、経済、教育、文化芸術などの面で中心的な役割を果たしています。また、首都圏や北陸圏との近接性といった地理的な条件にも恵まれ、高いポテンシャルを有する地域となっています。
- ・地域の有するポテンシャルを最大限発揮できるよう、長野地域連携中枢都市圏*の取組と足並みをそろえ、都市と農村部が広域的に連携しあいながら、「活力あふれ、人が集い、文化薫る」長野地域をめざします。

地域重点政策



1 地域資源を生かして県経済をけん引する「活力あふれる」長野地域づくり

大学・研究機関の集積等を生かして新技術の活用を進めるなど、ものづくり産業の振興を図ります。とりわけ、食品産業については、地域における集積を生かし、健康長寿にも着目してステップアップを図ります。また、地域の特色である果樹を中心として農産物の魅力を高め、競争力の強化を図りながら次の世代へつなげる農業を構築します。

さらに、地域の森林を守るとともに、それを生かして林業の活性化を図ります。

【現状と課題】

- ・出荷額が全県の約4分の1を占める食品産業の集積やしあわせ信州食品開発センターを始めとした支援機関があることは地域の強みです。
- ・地域を担う多様な農業の担い手の確保・育成と技術・経営力の向上は引き続き課題です。
- ・地域の特色である果樹の強みを農商工観連携で更に伸ばし、生かしていく必要があります。
- ・人口減少下においては海外需要の取り込みが必要であり課題です。
- ・依然として多い野生鳥獣害等は課題である一方、2019年に新たなジビエ肉解体処理・加工施設ができることなどは強みです。
- ・小水力発電等の自然エネルギー推進は一定の成果を収めています。

【取組内容】

● 地域の特長を生かした「ものづくり産業」強化

- ・信州大学などの学術研究機関や長野県工業技術総合センターなどの産業支援機関の集積及びアクア・イノベーション拠点*が研究している高機能膜などの優位性ある材料等の技術シーズ*（種）も生かしながら、地域の実情に即したものづくり産業の振興に向け、地域企業への技術の普及や研究開発力向上の支援等に取り組みます。
- ・特に、食品産業については、発酵食品や機能性食品、未利用バイオマス*活用製品などの分野の発展性を見据えて、北信地域振興局等とも連携しながら、発酵に欠かせない遺伝資源の活用・保護や製品開発支援等の取組を進めます。



信州大学 国際科学イノベーションセンター

● おいしい農産物の継承と魅力向上、競争力の強化

- ・地域農業における多様な担い手の確保・育成や新品種・新技術等の導入、6次産業化の支援、農業生産基盤の整備、荒廃農地の活用などを進めます。

- ・特に、地域の特色である果樹については、これらの取組から一歩進めて、農商工観が連携した果物を生かした地域活性化の取組を進めます。

●地域製品の広域的な販路開拓

- ・新潟県や東北信の地域振興局等と連携して、地域の農林水産物や加工食品を生産者が直接仕入れ担当者に売り込むとともに生産者の提案営業力等の向上を図る商談・交流会を開催するなど、地域製品の販路開拓を広域的に推進します。
- ・関係機関の協力を得て、海外需要の取込みに向けた研究を進めます。



うまいものまるごと大商談会 2017

●地域の森林資源の保護・活用

- ・野生鳥獣を集落等へ近づけないための総合的な鳥獣被害対策や森林病害虫対策を進めるとともに、イベントの開催などジビエの需要を喚起する取組を行うほか、伐採適期を迎えつつある森林資源の活用を推進します。

●自然エネルギーの活用促進

- ・管内の特徴である豊富で安定した水量や落差のある千曲川の支流を活用した小水力発電等の推進を図るなど、自然エネルギーの普及拡大に向けた取組を支援します。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
食品産業製造品出荷額等 工業統計調査（経済産業省）	1,782 億円 (2014 年)	2,070 億円 (2022 年)	[H29.7 内閣府試算の名目 GDP 成長率（ベースラインケース）を上回る年率 2% の成長を見込み試算]
生産性を高める農地の条件整備面積 (農政部調)	1,220ha (2013～2016 年度累計)	1,365ha (2018～2022 年度累計)	[2022 年度までに整備を予定している面積を積み上げ]
果樹戦略品種等の栽培面積 (農政部調)	1,155ha (2016 年度)	1,480ha (2022 年度)	果樹戦略品種：シナノスイート、シナノゴールド、秋映、ナガノパープル、シャインマスカット、サザンスイート、リンゴ長果 25、ブドウ長果 11、スモモ長果 1 [過去 15 年のトレンドを勘案して設定]
果樹の新規就農者数（45 歳未満） (農政部調)	32 人／年 (2014～2016 年度平均)	32 人／年 (2022 年度)	[人口減少下にあっても現状と同水準を目標に設定]
素材（木材）生産量 木材統計（林務部）	65,431m ³ (2015 年)	77,000m ³ (2022 年)	[搬出間伐や主伐の伸び等を勘案して設定]
小水力発電設備導入容量（新規認定分） (環境部調)	461kW (2016 年度末)	1,841kW (2022 年度末)	[2022 年度までに設置を予定している設備の容量を積み上げ]



2 「人が集い、文化薫る」魅力ある長野地域づくり

首都圏・北陸圏との近接性、豊富な観光資源、豊かな自然など、地域の強みを生かした観光を推進するとともに、都市部と自然豊かな地域が共存する当地域の特性を生かした移住・二地域居住を推進します。

また、自らが生まれ育った地域の文化・産業・自然への理解を深めることにより、ふるさとに愛着を持ち、戻って来たい・自慢したい・長野地域をめざすとともに、大学生などの若者と連携して活力あるまちづくりを進めます。

さらに、長野県立大学を含む高等教育機関*や、全面改築が予定されている信濃美術館などの教育・文化施設の集積を生かした「文化に親しむ」地域づくり、2027年の第82回国民体育大会開催を見据えた「スポーツに親しむ」地域づくりを進めるとともに、地域の随所に存在する「都市景観・農村景観・自然景観」や「農業遺産・土木遺産」の文化資源・観光資源等としての価値を掘り起こして、地域の活性化を図ります。

【現状と課題】

- ・首都圏等に近く、観光客を惹きつける温泉や国立公園等の資源に恵まれるなど観光面の強みがある一方、インバウンド*誘客や観光満足度の向上に向けて一層の取組が求められています。
- ・都市機能の集積に加えて自然も豊かなため、移住・二地域居住先としてのポテンシャルが高いことが強みです。
- ・大学進学を機に長野地域を離れる者のUターンの促進や地域活動への住民参加の促進等を図る上で、地域愛をいかに育むかが課題です。
- ・若者同士が交流しつつ地域課題に向き合う場が、一部地域において先進事例があるものの、長野地域全体では少ないのが課題です。
- ・高等教育機関入学定員や博物館数、図書館蔵書数について全県の約4分の1を占めるなど、教育・文化基盤が集積していることは強みです。
- ・長野県立大学開学や信濃美術館の全面改築、2027年の第82回国民体育大会開催を契機として、教育・文化・スポーツの振興を図る必要があります。
- ・優れた景観や土木遺産等の地域資源が点在しており、次世代への継承や、観光等の面からの活用が望まれます。

【取組内容】

●満足度の高い魅力ある観光地域づくり

- ・多様な主体と連携・協働しながら、長野地域ならではの観光資源を生かした満足度の高い観光に向けて取り組むとともに、観光を支える基盤の整備に取り組みます。

●移住・二地域居住先として選ばれる環境づくり

- ・人口や企業などが集積した都市部の利点と豊かな自然・農村の魅力を生かした多様なライフスタイルの情報発信により地域の認知度の向上を図るなど、移住・二地域居住先として選ばれる環境づくりを、市町村と連携して進めます。

●ふるさとを大切に育てる心の育成

- ・ふるさと長野地域に誇りと愛着を持ち、地域を大切に育てる心を育てるため、「ふるさと教育」や「愛護活動によるまちづくり」を推進します。

●若者や高等教育機関と連携した地域づくり

- ・長野県立大学をはじめとした高等教育機関が集積するなど若者が比較的多い地域の特性を生かし、若者同士がコミュニケーションを図り、併せて、地域課題解決の方策等を検討する場を創設します。



長野県立大学 三輪キャンパス

- ・長野県立大学ソーシャル・イノベーション創出センターなどの高等教育機関と地域が連携した取組を支援するとともに、高等教育機関と地域のニーズを仲介するコーディネート機能を実現します。

●文化・スポーツに親しむ豊かな生活環境づくり

- ・信濃美術館や県立長野図書館、県立歴史館といった管内の様々な文化施設等において行われる文化芸術活動・生涯学習活動を支援します。
- ・2027年の第82回国民体育大会を見据え、健康長寿にも寄与する地域におけるスポーツ活動を支援するとともに、プロ



信州ふるさとの見える丘（薬師山展望台公園・千曲市）

スポーツチームを育てる取組も支援します。

- ・小布施や姨捨、戸隠などの都市・農村・自然景観の維持・保全・価値向上を図るとともに、レガシー（オリンピック、土木・農業土木）の活用を推進します。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
観光地利用者数 観光地利用者統計調査（観光部）	1,570 万人 (2016 年)	1,650 万人 (2022 年)	管内観光地を訪れた日帰り客、宿泊客の延人数 [2017 年実績見込みから 5 % 増加を目標に設定]
観光消費額 観光地利用者統計調査（観光部）	693 億円 (2016 年)	728 億円 (2022 年)	管内観光地内で観光旅行者が支出した宿泊費、交通費、飲食費等の総計 [2017 年実績見込みから 5 % 増加を目標に設定]
移住者数 (企画振興部調)	238 人 (2016 年度)	320 人 (2022 年度)	新規学卒 U ターン就職者や数年内の転出予定者などを除く県外からの転入者 [信州創生戦略の目標を基に設定]
地域の行事に参加する児童生徒の割合 全国学力・学習状況調査（文部科学省）	小学校 85.9% 中学校 58.2% (2017 年度)	維持・向上 (2022 年度)	[全国平均を大幅に上回る現状の水準以上を目標に設定]
学術、文化、芸術、スポーツの振興を活動分野とする NPO 法人数 (県民文化部調)	78 法人 (2016 年度)	維持・向上 (2022 年度)	[人口減少下にあっても現状の水準以上を目標に設定]
信州ふるさとの見える（丘）認定数 (建設部調)	12 箇所 (2016 年度)	17 箇所 (2022 年度)	[2017 年度実績見込みから毎年 1 箇所増加を目標に設定]



3 地域重点政策を支える、地域一体となった「生活基盤の確保」の推進

医療・介護や防災・減災、基盤整備等、安全・安心・快適な暮らしの基盤の確保を着実に推進し、「活力あふれ・人が集い・文化薫る」長野地域に向けて推進する地域重点政策を下支えします。

【現状と課題】

- ・更なる高齢化進展に伴って、医療分野ごとの連携、機能分化による効率的な医療体制の構築や、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができる環境づくりが課題です。
- ・平成 26 年の神城断層地震をはじめとして、大雨・大雪などによる災害の発生が続くなか、様々な災害事象に迅速・的確に対応するため、ソフト・ハード両面で計画的な対策・体制整備を進める必要があります。
- ・人口減少社会において既存の社会資本ストックも有効活用しながら、地域の生活と経済を支える基盤の整備を「適時・的確」「効率的・効果的」に進めることが課題です。
- ・社会・経済の発展に欠かせない重要な社会基盤である公共交通を将来にわたって維持・存続させることが課題です。

【取組内容】

●地域で安心して医療・介護を受けることのできる体制の構築

- ・医療の効率的な連携体制の構築に向けた取組を進めるほか、医療・介護関係者の情報共有の取組を支援するなど地域包括ケア体制の拡充に向けた取組を促進します。

●安全・安心・快適な地域づくり

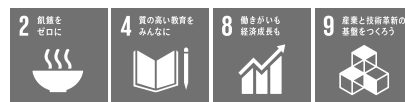
- ・想定を超えて頻発する自然災害に対応する防災・減災対策を進めるほか、地域ぐるみの防災体制構築、災害に強い森林づくりを推進します。
- ・緊急輸送路の信頼性向上や交通渋滞の解消など、地域の生活と経済を支える安全・快適な「まち・みち・かわづくり」を進めるとともに、人口減少社会を見据えて公共施設マネジメントを推進します。
- ・公共交通の維持に向けた検討を進めます。



都市計画道路 高田若槻線（長野市）

地域連携プロジェクト

地域重点政策のうち、「活力あふれる長野地域」と「人が集い、文化薫る長野地域」の両分野に関連し、地域において市町村や関係機関と密接に連携して取り組む必要があるものについては、「地域連携プロジェクト」として推進します。



1 「ながの果物語り」プロジェクト

農商工観の連携等により、長野地域の特色である果樹を軸に地域活性化を推進します。

【現状と課題】

- ・産出額が全県の約4割を占める、生産性の高い果樹栽培が地域の強みです。
- ・長野地域の果樹のブランド化とともに、果樹の強みの、地域産業ひいては地域全体への波及が求められています。

【取組内容】

- ・首都圏等に対して市町村や農協等と協働し果物の魅力を積極的に発信するほか、稼げる技術習得支援等により「稼ぐ力」を強化します。
- ・食品産業製造品出荷額等が県内1位という長野地域の強みを生かせるよう、果物を生かした新商品の開発について、宿泊業や飲食業などの実需者のニーズを踏まえて企画から販売まで支援します。
- ・外国人観光客の伸びが低迷している現状を踏まえ、果物狩り等の外国人観光客から評価の高い体験型ツアーの受入体制の整備等を進め、ツアーの提案に結びつけるなど、果物を生かしたインバウンド*を促進します。
- ・高品質な果樹生産を支える畑地かんがい施設の整備や果樹団地の再生整備による高生産性団地の形成を行います。
- ・果樹園等農村景観の持つ価値を再発見し、地域の魅力として発信します。



「ながの果物語り」ロゴマーク

【達成目標】

「果樹戦略品種等の栽培面積」「果樹の新規就農者数（45歳未満）」（再掲）

2 「体験」と「交流」を軸とした「地域の特長を生かした広域観光」推進プロジェクト

アクティビティ等の「体験」と地域の人々との心温まる「交流」を軸とした長野地域ならではの観光を推進することで、観光満足度の向上を図り、再び訪れたいと思われる地域づくりを進めます。

【現状と課題】

- ・首都圏に近く、温泉や国立公園等の自然環境に恵まれるとともに、伝統文化や農作業等の体験につながる地域資源が豊富にあります。また、サイクリング等のアクティビティを観光に活用する取組も始まっています。
- ・伸び率が全県平均を下回っているインバウンドを促進する必要があります。
- ・魅力ある観光資源の掘り起こし・磨き上げや観光を支える基盤の更なる整備等、観光客の満足度を高める必要があります。
- ・広域的に連携して観光を進める必要性は認識されていますが、その取組は限られています。

【取組内容】

- ・埋もれた観光資源の掘り起こしや周遊モデルルートの検討など、インバウンド誘客や満足度の高い観光振興を図るための「体験」と「交流」を軸としたメニューの磨き上げに関係機関と連携して取り組みます。
- ・観光案内力向上や体験コンテンツづくりのための研修会など、「体験」と「交流」を地域で担う人材の養成を図ります。
- ・2つの国立公園があるメリット等を最大限に活用した広域観光を、東北信の地域振興局や群馬県、新潟県等と圏域を越えた連携を図りながら推進します。
- ・地域住民や多様な民間事業者、市町村等と幅広く協働しながら、地域が一体となった持続可能な観光振興を推進します。
- ・千曲川沿いのサイクリングロードの整備や小布施市街地における道空間整備、戸隠神社、善光寺周辺の道路整備などの観光を支える基盤づくりを、市町村とも連携しながら、地域戦略推進型公共事業等により進めます。



野尻湖の SUP 体験（信濃町）

【達成目標】

「観光地利用者数」「観光消費額」（再掲）

北信地域の特性

北信地域は、長野県の最北端に位置しており、中央を千曲川が流下し、高社山を境に北部は最深積雪が2mを超える全国有数の豪雪地帯となっています。

人口は、2017年（平成29年）4月1日現在、85,908人となっており、国立社会保障・人口問題研究所によると、2040年には63,855人まで減少すると推計されています。

この地域は、農業と観光が基幹産業となっており、県内有数の米、果物、きのこ等の産地であるとともに、志賀高原や斑尾高原など雄大な自然環境、湯田中渋温泉郷や野沢温泉など豊富な観光資源に恵まれた県内有数の観光エリアとなっています。

【管内の概況】



野沢温泉村（特別豪雪地帯指定）
 ・野沢温泉、スキー場など県内有数の観光地
 ・伝統野菜（野沢菜）の産地
 ・麻釜（天然記念物）、道祖神祭り（国重要無形民俗文化財指定）、野沢菜漬、伝統的工芸品「あけびづる細工」（県知事指定）などが有名

栄村（特別豪雪地帯指定）
 ・秘境「秋山郷」が観光名所
 ・米、山菜等の産地
 ・伝統的工芸品のねこつぐら等「栄村つぐら」（県知事指定）が有名

北陸新幹線飯山駅
 H27.3月北陸新幹線金沢延伸に伴い開業

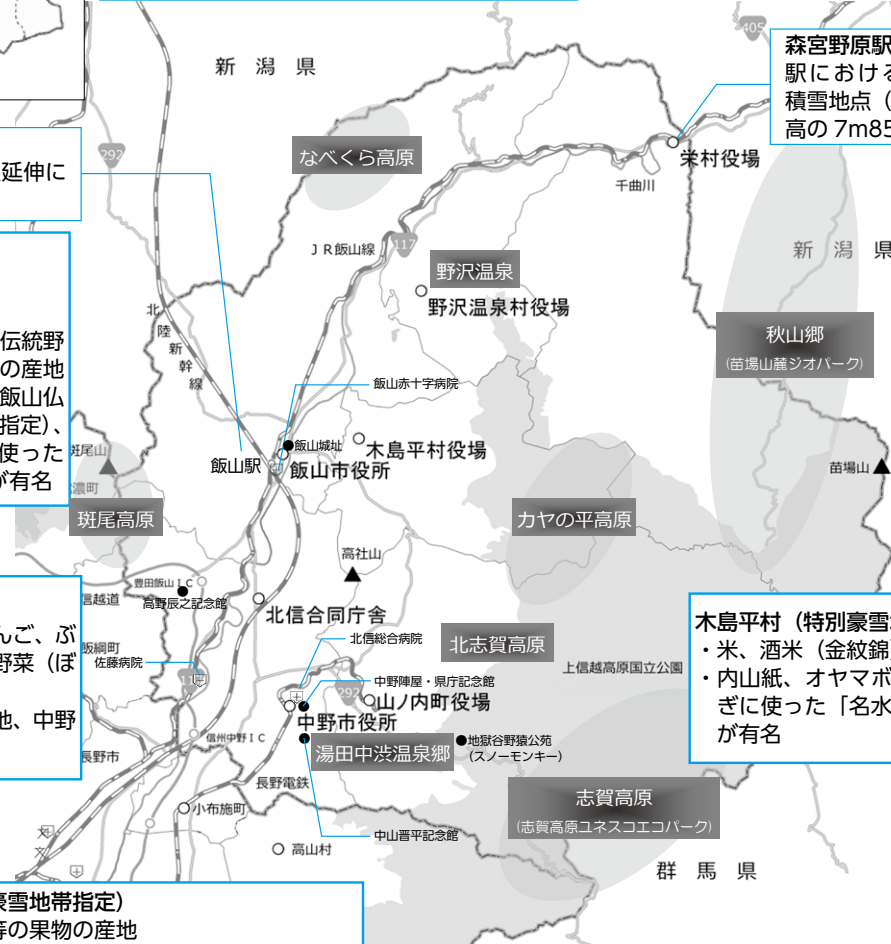
森宮野原駅
 駅における日本最高積雪地帯（観測史上最高の7m85cmを記録）

飯山市（特別豪雪地帯指定）
 ・寺と仏壇のまち
 正受庵や仏壇通りが有名
 ・米、アスパラガス等野菜、伝統野菜（坂井芋、常盤ごぼう）の産地
 ・伝統的工芸品「内山紙」「飯山仏壇」（ともに経済産業大臣指定）、オヤマボクチをつなぎに使った「富倉そば」、「笹ずし」が有名

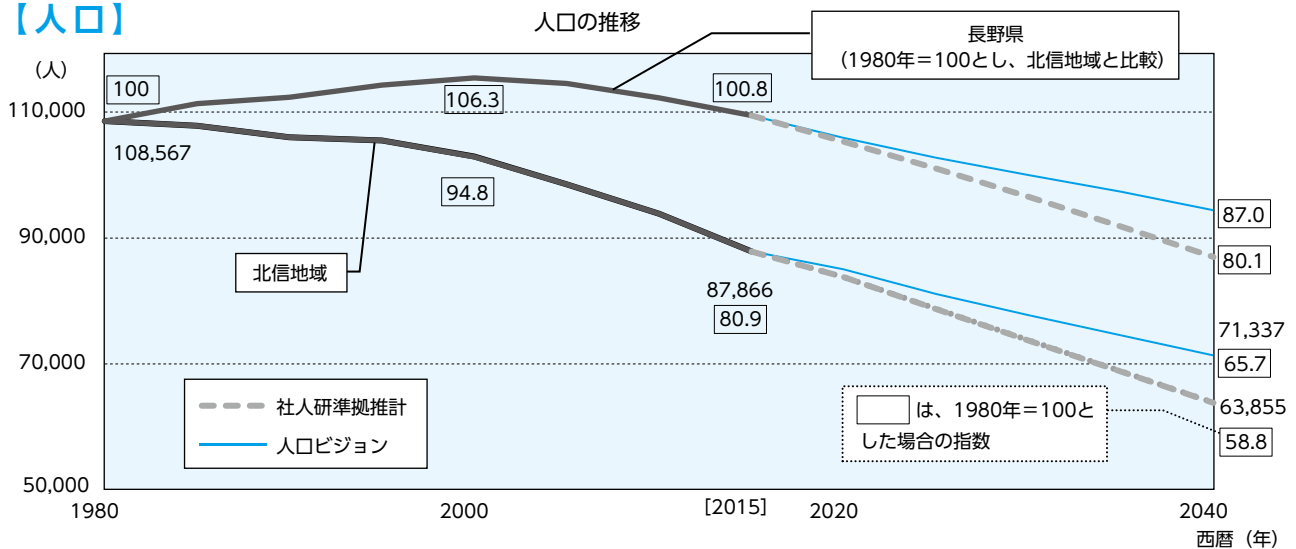
中野市（豪雪地帯指定）
 ・えのきたけ等きのこ類、りんご、ぶどう、もも等の果物、伝統野菜（ぼたんこしょう）の産地
 ・中山晋平、高野辰之の出身地、中野土人形が有名

木島平村（特別豪雪地帯指定）
 ・米、酒米（金紋錦）の産地
 ・内山紙、オヤマボクチをつなぎに使った「名水火口そば」が有名

山ノ内町（特別豪雪地帯指定）
 ・りんご、もも等の果物の産地
 ・志賀高原、北志賀高原、湯田中渋温泉郷、スノーモンキーなど県内有数の観光地
 ・伝統的工芸品「信州竹細工」（県知事指定）、オヤマボクチをつなぎに使った「須賀川そば」が有名

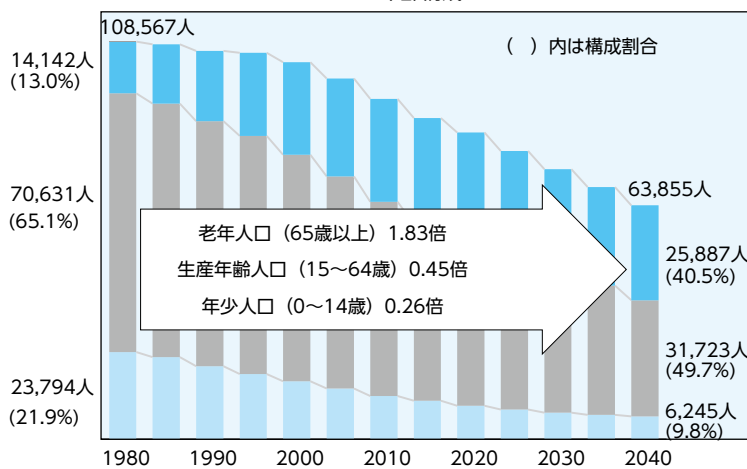


【人口】



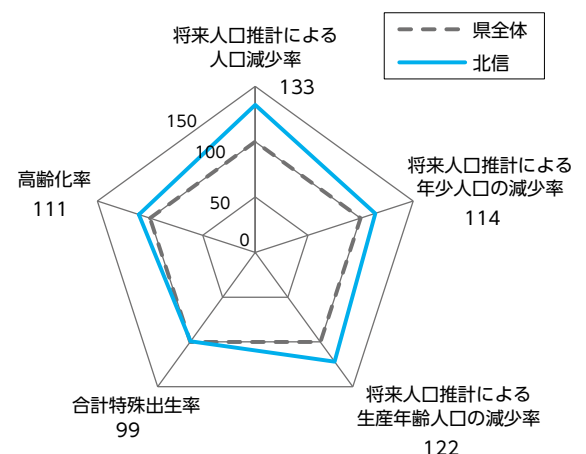
注) 2015年までは国勢調査、2020年以降は社人研準拠推計及び市町村人口ビジョン (地方創生総合戦略)

年齢構成



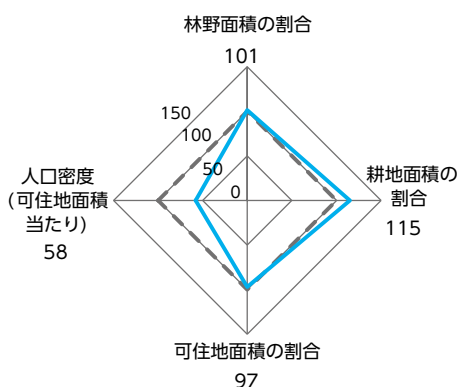
注) 2015年までは国勢調査、2020年以降は社人研準拠推計

人口関係データの県全体との比較

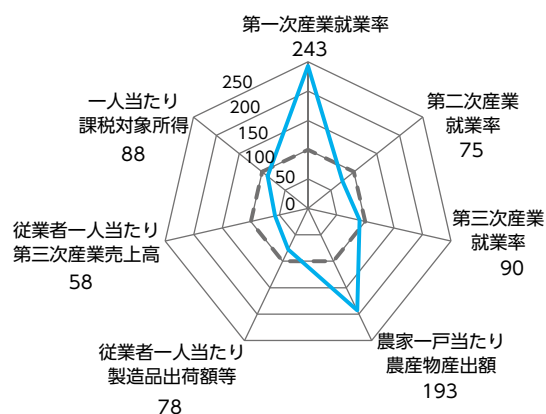


【産業・地勢】

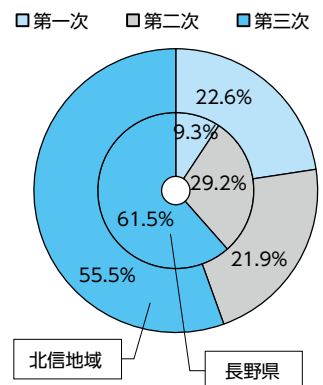
地勢データの県全体との比較



産業関係データの県全体との比較



北信地域の産業別就業率



人口については、県全体が2000年にピークを迎え減少していますが、北信地域は1980年以降、一貫して減少しています。また、年少人口と生産年齢人口は県平均を上回る減少率となっており、1980年と比較した2040年の年齢構成割合は、老年人口は2倍弱、生産年齢人口は5割弱、年少人口は3割弱と推計されています。

産業については、第一次産業の就業率や農家一戸当たり農産物産出額が県平均を大幅に上回っている一方、第二次・三次産業の就業率や売上高等は県平均を下回っています。

雪とともに育む 豊かな故郷 北信州

- ・全国有数の豪雪地帯にあって、雪に強い生活基盤が整備され、年齢を重ねても安心・安全で健康な生活を送るとともに、地域住民が支え合い、子どもたちの声が響きわたる中で、絆と活気に満ちた故郷暮らしが実現している。
- ・雪や温泉、信越トレイル*、スノーモンキー*などの恵まれた観光資源を基に、「世界水準の山岳高原観光地」「日本の原風景と文化の『故郷』」が形成されている。
- ・米、果物、きのこなどの一大産地として発展するとともに、地元農産物の地消地産が進んでいる。

地域重点政策



1 若者定着のための雪に強い故郷暮らしプロジェクト

全国有数の豪雪地帯にあって、道路や生活エリアの除雪体制を更に整えるとともに、公共交通による移動手段を確保することにより、安心して生活できる基盤を創造します。また、地域の絆の中で郷土愛にあふれた子どもを育むとともに、一人多役など複線的なライフスタイルを発信し、移住者やまちづくりに取り組む者等を支援します。

これらにより、人口の自然減への歯止めと若者の定着を図るとともに、心豊かに人生を楽しむ故郷暮らしを創造します。

【現状と課題】

- ・人口減少と急速な少子高齢化により、中山間地域では集落機能が低下しており、次のような課題に対応していく必要があります。
- ・北信地域は、大規模工場や地域経済をけん引する高付加価値型の企業が少ないことから、人口を定着させるためには、若者にとって魅力ある雇用の場を確保することが重要です。
- ・人口減少対策として、各市町村において移住促進施策が行われているほか、飯山市岡山・瑞穂地域や山ノ内町湯田中・須賀川地域、栄村小滝区等では、地域資源を活用した稼ぐ取組や住民の絆を深める取組、移住者へのサポート等が行われており、地域全体にこのような取組を広げることが必要です。
- ・中山晋平、高野辰之の出身地であり、日本の原風景を唄った童謡・唱歌が歌い継がれるとともに、中野土人形や飯山仏壇など地域に根ざした伝統的な工芸品が数多く存在しています。こうした、地域の歴史・文化・技術等を今後も後世に伝えていく必要があります。
- ・近年は豪雪による交通障害、急速な高齢化や空き家の増加に伴い生活エリアの除雪が困難となる事例や除雪による事故が多発しており、豪雪に対応できる道路除雪体制の確保と安全な生活エリアの除雪の仕組みづくりが求められています。
- ・マイカー利用が進み、民間のバス路線数や運行本数が減少する中、各市町村では、買い物や通院・通学の移動手段の確保のため、デマンドバス*等の運行や観光利用も含めた生活交通路線の確保に取り組んでいます。さらに、より効率的に市町村域を跨いで、病院、商業施設等をつなぐ公共交通の運行が求められています。

【取組内容】

① 子育ての支援と子ども・若者の郷土愛の醸成

- ・若者の出会い・交流の機会を広げるための支援を行うとともに、妊娠時からの切れ目ない母子保健の取組や子どもの居場所づくりの推進により、地域の絆の中での子どもの育みを支援します。
- ・学校教育等において、地域社会や産業界と連携し、地域の歴史・文化・産業等の探究的な学びを推進します。

- ・飯山仏壇や内山紙、ねこつぐらなどの伝統的な工芸品をつくる後継者の確保・育成を促進します。また、伝統的な工芸品の商品開発や技法などの新たな展開を通して、伝統文化の発信を行うとともに、地域の子ども・若者の郷土愛を醸成します。

②若者定着のための就労の場の拡大

- ・観光産業や食品産業等の地域の特性を生かした分野に加え、ICT*等の成長期待分野の企業を支援することにより、その集積を促進します。また、魅力ある商品やサービスの開発・販路開拓など地域の活性化につながる事業の展開や起業を支援することにより、若者が定着できる就労の場の確保を促進します。
- ・「夏雇用×冬雇用×住居」等の一人多役の働き方をテーマとした若者と企業のマッチングや、大学生の就労体験などを推進することにより、観光業をはじめとする地域産業の人手不足の解消を促進します。
- ・飯山市と中野市で本格的に始まった農福連携の取組を推進することにより、障がい者の就労の場を拡大し、自立と社会参加を促進します。

③ライフスタイルの発信と移住・交流・まち（むら）づくりの推進

- ・「夏の農業従事×冬のスキー場勤務」「農業×まちづくり活動」「宿泊業×アウトドアスポーツ」など、北信地域ならではの「一人多役型ライフスタイル」に関する情報を発信し、この地域の魅力を伝えていきます。
- ・移住者や二地域居住者、まちづくりに取り組む者を市町村と連携しサポートするとともに、移住体験の取組への助成等、移住者等を受け入れる地域を支援します。
- ・野生鳥獣を集落へ近づけないための総合的な被害防除対策を推進するとともに、地域の取組を支援することにより、安心・安全な生活基盤づくりを進めます。

④雪に負けない、雪を楽しむ暮らしづくり

- ・道路除雪に関する住民等への広報や市町村等との連携などにより、豪雪に対応した体制を確保します。
- ・市町村と連携した除雪の安全対策講習会の開催や、住宅除雪支援事業の充実等、過疎化や少子高齢化に対応した生活エリアの除雪の仕組みづくりを検討します。また、関係団体との共催による住宅改修相談会を開催するなど克雪住宅の普及を進めます。
- ・地域用水を活用して消雪を行う水路の整備に向けて、既存制度等を総合的に検討するとともに、活用可能な補助制度の紹介や水利権調整の助言等の支援を行います。
- ・豪雪地帯ならではの「雪遊び」や「かまくら村」など観光資源としての雪の活用や、農畜産物や加工食品の雪中貯蔵・雪室熟成による高付加価値化に向けた研究に取り組みます。また、住宅の雪囲い・冬期間の保存食等の雪国暮らしの知恵を学ぶ機会を設けること等により、雪を楽しむ暮らしづくりを推進します。



かまくらの里

⑤雪国の生活を支える公共交通・医療等の生活基盤の整備

- ・広域的な公共交通の調整組織を設置し、市町村域を越えたバス路線等の調整を行うとともに、ICTを活用したモデル的なデマンド交通の実証実験を行うなど、公共交通の多様な効率化の手法を検討します。
- ・保健師、管理栄養士及び栄養士、食生活改善推進員、保健指導員等の管内研修会において、普及担当者の技量向上を図り、冬期間の高齢者の介護予防や減塩等の食生活の改善など健康づくりを推進します。
- ・病院機能の特長に応じた機能分化と連携について、管内3病院や関係市とともに、実現に向けて協議を進めます。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
社会増減 毎月人口異動調査（企画振興部）	△ 456 人 (2017 年)	△ 171 人 (2022 年)	管内市町村における転出入の差の合計 (国外移動、職権更正を含む) [2025 年での転入・転出均衡をめざすことを目標に設定]
移住者数 (企画振興部調)	142 人 (2016 年度)	198 人 (2022 年度)	新規学卒 U ターン就職者や数年内の転出 予定者などを除く県外からの転入者 [県全体の目標をもとに設定]
創業・立地件数 (産業労働部調)	16 件 (2012 年～ 2016 年 累計)	増加 (2018 年～ 2022 年 累計)	創業及び新規開業認定件数と工場用地の 取得件数の合計 [現状を上回ることを目標に設定]
除雪作業中の事故件数 (危機管理部調)	23 件 (2016 年度)	減少 (2022 年度)	雪害報告のあったもののうち、除雪作業 中の事故に係るものの件数 [現状を下回ることを目標に設定]



2 「信越自然郷」等通年型広域観光推進プロジェクト

信越 9 市町村の連携による広域観光エリア「信越自然郷」をはじめ、北信圏域・長野県域を越えた広域においてグリーンシーズンの観光誘客を促進する取組を強化することで、冬期間にとどまらない、通年型の稼げる観光地域づくりを推進します。

【現状と課題】

- 管内には、志賀高原、北志賀高原、斑尾高原、カヤの平高原などの山岳高原や、秋山郷、なべくら高原、湯田中渋温泉郷、野沢温泉といった自然や癒しが満喫できる里山や温泉などの恵まれた観光資源が豊富に存在します。これらは、唱歌にも歌われている日本の原風景を形成しています。
- この地域は、スノーシーズンを中心に大勢の観光客でにぎわいますが、観光客数は、近年横ばいで推移しており、特にグリーンシーズン期の観光客数は伸び悩んでいます。このため、観光施設は季節雇用に偏りがちで、特に冬場のスキー場等は、人手不足が深刻化しており、地域観光の通年化を一層推進することが必要です。
- 「信越自然郷」や「雪国観光圏」は、観光庁が認定した広域観光周遊ルート「東京圏大回廊」にも位置付けられており、スノーモンキー*や野沢温泉・湯田中渋温泉郷の温泉街、かまくら村を中心に外国人観光客が増加傾向であることから、今後もインバウンド*への対応が必要です。
- 信越 9 市町村広域観光連携会議による広域観光エリア「信越自然郷」が形成されていますが、更に地域が一体となって取り組める体制作りが急務となっています。また、他の広域的な枠組みによる連携も必要です。

【取組内容】

① 観光地づくりと圏域・県域を越えた広域観光の促進

- 志賀高原ユネスコエコパークや苗場山麓ジオパークなど個々の観光地づくりを支援するとともに、「信越自然郷」や「雪国観光圏」、長野電鉄・JR 飯山線沿線の市町村連携など、北信圏域や長野県域を越えた広域観光連携を支援し、地域一体となった体制づくりを推進します。

② 稼げる通年型の観光地域づくり

- 信越トレイル*をはじめとするトレッキングや、森林セラピー®*、千曲川周遊サイクリングやカヌーな

どのアウトドア観光が、更に充実するよう、支援・促進します。

- ・中山晋平や高野辰之の唱歌の世界、飯山市の寺町や小菅地区等の神社仏閣など、地域の歴史・文化を巡る周遊ルートづくりなどを支援・促進します。
- ・スキー、スノーボード、「雪あそび」(スノーシュー等)、「かまくら村」等、雪国ならではの雪を活用した取組「豪雪G₀遊」を推進します。
- ・ぶどうなどの果物、米、野菜、きのこ、そばをはじめとする地域の農産物や特産品などの「食」や「食文化」をテーマにした観光「ふーどツーリズム」を推進します。

③必要な観光人材の確保

- ・インバウンド*に対応でき、おもてなしのできるガイドなどの観光人材を確保・育成します。
- ・北信地域ならではのライフスタイルの魅力発信や、観光業への就労を希望する若者の就労体験等の支援により、冬場の観光産業等の労働力不足の解消に取り組みます。

④観光振興のための環境整備

- ・鉄道・幹線道路沿いや温泉街の景観整備、森林セラピー®基地の充実など、再訪したくなる快適な観光地づくりを支援・推進します。
- ・屋外観光スポットのWi-Fi環境や統一案内看板の設置、道の駅のトイレ整備、両替やクレジットカード対応などインバウンドに向けた整備を支援・推進します。

⑤交通拠点と観光地を結ぶ二次交通の整備

- ・北陸新幹線飯山駅からカヤの平高原や秋山郷を結ぶルートや、志賀高原、白馬、野沢温泉などの圏域内外の複数の観光地をつなぐルート等を広域周遊バスで結ぶなど、二次交通の整備を促進します。



野沢温泉スキー場



なべくら高原のブナ林



スノーモンキー



志賀高原

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
観光地延利用者数 観光地利用者統計調査（観光部）	691 万人 (2016 年)	719 万人 (2022 年)	管内観光地を訪れた日帰り客、宿泊客の延人数 [過去5年間の伸び率の最大値（4%）を目標に設定]
春季から秋季の観光地利用者数	383 万人 (2016 年)	400 万人 (2022 年)	上記のうち4～11月の延べ利用者数
冬季の観光地利用者数	308 万人 (2016 年)	319 万人 (2022 年)	上記のうち12～3月の延べ利用者数
観光消費額 観光地利用者統計調査（観光部）	361 億円 (2016 年)	376 億円 (2022 年)	管内観光地内で観光旅行者が支出した宿泊費、交通費、飲食費等の総計 [過去5年間の伸び率の最大値（4%）を目標に設定]



3 「米・果物・きのこ」産地パワーアッププロジェクト

地域農業の強みである米・果物・きのこ等の安定的な生産供給、高品質化の追求、安全・安心な農産物生産などを支援し、高い市場競争力を確保します。あわせて、地元農産物の食材利用・「地消地産*」を推進します。

【現状と課題】

- ・米・食味分析鑑定コンクールで上位入賞するなど県内有数の良食味米産地ですが、需要に応じた収益性の高い米生産が必要です。
- ・日本有数の生産量を誇るシャインマスカット等のぶどうをはじめ、りんご、もも、すもも、さくらんぼなど果物の総合産地です。有望な新品種の導入や長期出荷などにより市場競争力を確保することが重要です。
- ・日本有数の栽培きのこの産地で、特にえのきたけは日本一の生産量を誇ります。市場価格の低迷等の課題に対応し、経営管理力や産地の信頼性を高めることが重要です。
- ・アスパラガス・シャクヤクの産地であるほか、ぼたんこしょう、野沢菜、坂井芋、常盤ごぼう等の県を代表する伝統野菜の栽培や畜産も行われていますが、生産安定と販路拡大が課題となっています。
- ・農業者の高齢化等が進み、担い手不足による生産力低下が懸念されます。
- ・地域に多くある味噌、醤油、酒などの醸造蔵から有用な乳酸菌が発見され、新製品の開発が進められています。これら有用な乳酸菌等を効果的に活用するための技術を確立し、新製品の開発・応用につなげていくことが重要です。

【取組内容】

① 強みのある農産物の生産・販売

- ・需要に応じた米生産を基本に、「幻の米」等の良食味米、中食・外食用の業務用米、「金紋錦」「山恵錦」等酒米の生産拡大と認知度向上を進めます。
- ・りんご、ぶどう、すもも等果物の県オリジナル新品種の導入・拡大と、シャインマスカット・シナノスイート等の人気のある果物の生産、大都市圏等への販売を強化します。



シャインマスカット

- ・えのきたけやぶなしめじ等の産地の信頼性をより高めるJGAP*取得を進めるとともに、おいしさと機能性を消費者に訴求することにより、大都市圏等への販売を強化します。
- ・アスパラガス、ズッキーニ、シャクヤク等の特産品目や、ぼたんこしょう等の地域の特色ある伝統野菜、肉牛・養豚等の地域ブランド畜産物の生産安定と販売を強化します。

② 地元農産物の魅力の共有・発信と地消地産の推進

- ・観光客や地域住民等への地元農産物の販売拠点となる農産物直売所の機能を強化します。
- ・おいしい信州ふーど*・地元農産物の魅力の共有と県内外への発信を推進します。
- ・飲食店、宿泊施設、学校給食センター等における地元農産物の地消地産を推進します。とりわけ、食育の観点からも地元農産物の利用を促進します。

③ 農業後継者等担い手の確保・育成

- ・企業的経営者や認定農業者など中核的経営体の経営向上を図るほか、「北信州農業道場」により稼げる農業経営をめざす経営体を確保・育成します。
- ・繁忙期等の労働力不足を補うためのサポート体制構築と、1ターン新規就農者や親元就農者などを適切に支援し、多様な労働力の確保・育成を推進します。

④ 地域資源を活用した食品の開発とエネルギー利用の促進

- ・味噌、醤油、酒などの発酵技術を活用し、健康長寿を意識した食品の開発・応用に注力する食品産業の集積を、長野地域とともに、産学官金の連携によって促進します。
- ・きのこの生産に伴って大量に発生する廃培地について、農家や市町村による再生利用やエネルギー源としての利用を促進します。

⑤ 雪中貯蔵・雪室熟成の研究

- ・農畜産物や日本酒等加工食品の雪中貯蔵・雪室熟成による高付加価値化に向けた研究を進めます。



木島平村の田園風景



地域食材の魅力アップ講座



北信州農業道場アスパラガスコース

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
果樹戦略品種等の栽培面積 (農政部調)	253ha (2016年度)	460ha (2022年度)	シャインマスカット、リンゴ長果25、スモモ長果1などの集計値 [りんご、ぶどう、すももの栽培面積目標の積み上げにより設定]
良食味米、業務用米等の栽培面積 (北信地域振興局調)	535ha (2016年度)	650ha (2022年度)	幻の米、村長の太鼓判、金紋錦などの集計値 [市町村等の栽培面積目標の積み上げにより設定]

